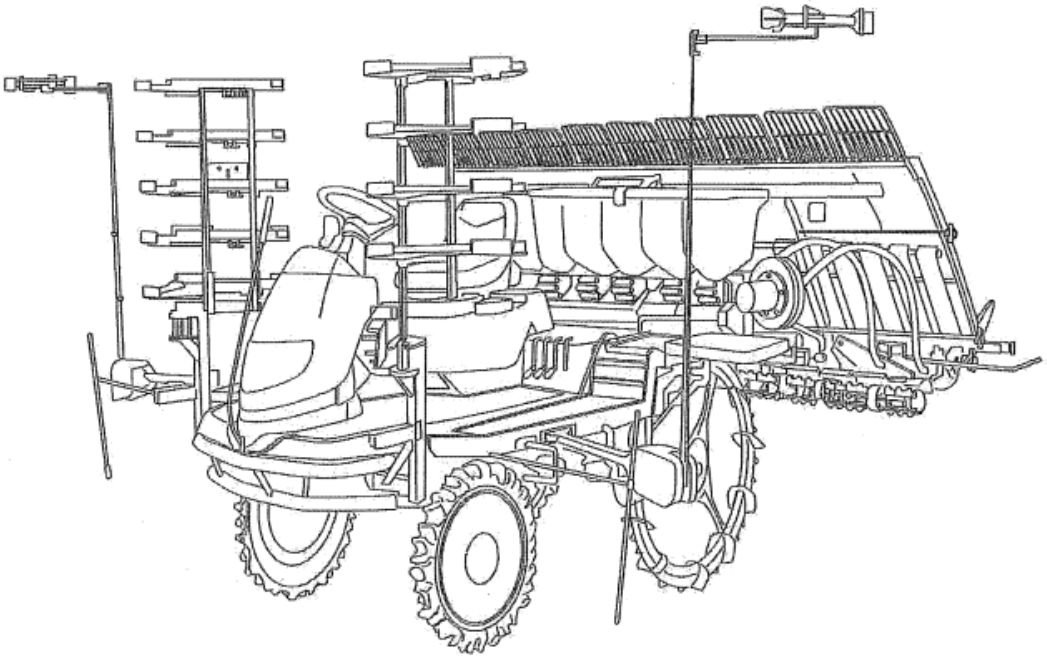
田植機

取扱説明書

LR103D



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

田植機重要ポイント

1. ほ場まで移動するときは、
   トラック等に載せて運搬します。

2. 燃料を補給するときは、
   火気厳禁とします。
   エンジンを停止し冷機状態で行います。

3. エンジンを始動するときは、
   停車ペダルを「ロック」主変速レバーを「止」で行います。
   周囲の状況を確認してから行います。

4. 田植作業時以外のときは、
   左右ブレーキペダルを連結します。

5. トラックへ積み降ろしするときは、
   強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用します。
   スピードを落としアユミ板の中央を上り、下りします。

6. ほ場へ出入りするときは、
   スピードを落としあぜに直角に走行します。

7. 田植機や作業機を点検整備するときは、
   必ず平たんな広い場所で、油圧ロックをし、エンジンを止めます。

8. 補助者と共同作業を行うときは、
   合図をし状況を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも、本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

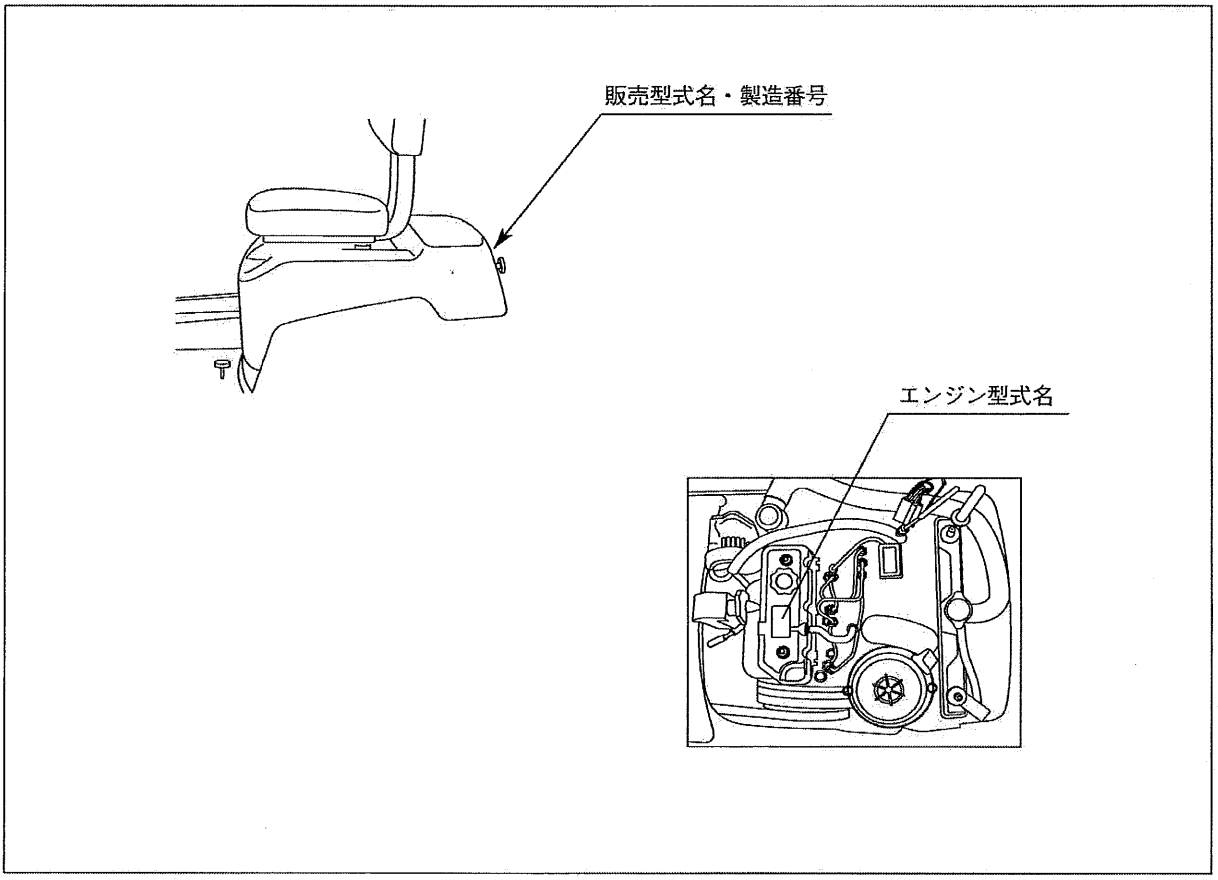
重要なお知らせ

- このたびは、三菱田植機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、稲の苗を植付けるための作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 三菱マヒンドラ農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱田植機（以降田植機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- この田植機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や田植機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、田植機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および田植機本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 田植機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- この田植機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この田植機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の田植機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本田植機を譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は田植機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本田植機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、田植機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合せください。

型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の田植機について併記しています。
お買いあげいただいた田植機の型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



■機能装備一覧表

		基本型式				補助車		植付部				施肥機	
		D	—	B	J	H	HB	—	W	WJ	—	R	P
エンジン	ディーゼル E3112（最大23ps）	○											
スーパースマイルターン			○		○								
ミラクルスマイルターン				○									
補助車	ダブル（外付け）					○							
	トリプル（内付け、外付け）						○						
条　間（cm）	30							○					
	33								○	○			
植付株数（株）	37 ～ 80							○					
	35 ～ 70								○				
	65 ～ 90									○			
まくらっこ											○		
補助苗枠数（枚）	10		○										
	14			○									
	40				○					○			
側条施肥	粒状											○	
	ペースト												○

警告表示について

本田植機を正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。また、田植機で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

⚠	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 (右図の場合は爆発注意)	(例)
⊘	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 (右図の場合は火気厳禁)	(例)
❗	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 (右図の場合はメガネ着用)	(例)

目　次

重要なお知らせ …… i
型式と装備内容について …… ii
警告表示について …… iv
目　次 …… v

1. 使用上のポイント

1.1 移動走行について …… 1
1.2 使用上のご注意 …… 1
1.2.1 運転者の条件 …… 1
1.2.2 作業をする前に …… 2
1.2.3 エンジンの始動と発進 …… 3
1.2.4 走行するときは …… 4
1.2.5 トラックへの積み・降ろし …… 7
1.2.6 作業中は …… 9
1.2.7 夜間作業の禁止について …… 10
1.2.8 点検・整備 …… 10
1.2.9 格納・保管時は …… 13
1.3 電装関係を取り扱うときは …… 14
1.3.1 電気配線点検時の注意事項 … 14
1.3.2 バッテリ取り扱い時の注意事項 …… 15
1.3.3 ブースタケーブル使用時の注意事項 …… 16
1.3.4 バッテリ液の注意事項 …… 17
1.4 警告ラベルについて …… 17
1.5 警告ラベル貼付位置 …… 18
1.5.1 走行部 …… 18
1.5.2 植付部 …… 20

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証 …… 21
2.2 サービスネット …… 21
2.3 補修用部品供給年限について …… 21

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称 …… 22
3.2 計器およびスイッチのはたらき …… 25
3.2.1 スイッチのはたらき …… 25
3.2.2 計器のはたらき …… 30
3.3 レバー、ペダル、シート関係の取り扱い …… 33
3.3.1 主変速レバー …… 33
3.3.2 スマイルシフトグリップ（主変速レバーに付いているグリップ） 34
3.3.3 アクセルペダル …… 35
3.3.4 副変速レバー …… 35
3.3.5 停車ペダル …… 36
3.3.6 ロック解除ペダル …… 36
3.3.7 ブレーキペダル …… 37
3.3.8 前輪デフロックペダル …… 37
3.3.9 チルトレバー …… 38
3.3.10 座席の調節 …… 38
3.3.11 スーパースマイルターン自動スイッチ …… 39
3.3.12 株数切替レバー …… 39
3.3.13 株間副変速レバー …… 39
3.3.14 あぜクラッチレバー …… 40
3.3.15 苗取量調節レバー …… 40
3.3.16 植付深さ調節レバー …… 40
3.3.17 横送りレバー …… 41
3.3.18 苗押え …… 41
3.3.19 苗ストッパ …… 42
3.3.20 ロータ …… 42
3.3.21 ロータ高さ調節レバー …… 42
3.3.22 ロータクラッチケース …… 43
3.3.23 ロータ伝動軸 …… 43

4. 作業前点検

……44
4.1 給油、注油箇所の点検と補給 …… 45
4.1.1 燃料 …… 46
4.1.2 エンジンオイル …… 47
4.1.3 冷却水 …… 48
4.1.4 チェンジミッションオイル … 49
4.1.5 植込杆 …… 50
4.1.6 ロータ …… 50
4.1.7 グリース注入箇所（グリースニップル）…… 51
4.1.8 オイル注油箇所 …… 51

5. 運転のしかた

5.1 エンジンの始動と停止のしかた …… 54
5.1.1 エンジンの始動 …… 54
5.1.2 エンジンの停止 …… 56
5.1.3 燃料のエアー抜きのしかた … 56
5.2 発進、停止、駐車のしかた …… 57
5.2.1 発進のしかた …… 57
5.2.2 停止のしかた …… 58
5.2.3 駐車のしかた …… 59
5.3 移動、運搬のしかた …… 60
5.3.1 走行のしかた …… 60
5.3.2 植付部ユニットの収納のしかた …… 63
5.3.3 トラックへの積み・降ろしのしかた …… 75
5.3.4 運搬中の固定方法 …… 78
5.4 ほ場への出入りのしかた …… 79
5.4.1 ほ場への入りかた …… 79
5.4.2 ほ場からの出かた …… 81

6. 植付作業のしかた

6.1 ほ場の準備 …… 82
6.1.1 代かき …… 82
6.1.2 水深 …… 83
6.1.3 きょう雑物 …… 83
6.2 植付作業前の準備 …… 84
6.2.1 植付株数（株間）の決めかた …… 84
6.2.2 株間副変速レバーと株数切替レバーの切り替えかた …… 86
6.2.3 植付深さの調節 …… 88
6.2.4 横送り量の調整 …… 89
6.2.5 苗取量の調節 …… 90
6.2.6 油圧感度調節 …… 91
6.2.7 抵抗棒の調節 …… 92
6.2.8 整地板の調節 …… 93
6.3 植付作業の手順 …… 94
6.3.1 枕地のとりかた …… 97
6.3.2 スーパースマイルターンを使った旋回のしかた …… 97
6.3.3 スーパースマイルターンを使わない旋回のしかた …… 99
6.3.4 ミラクルスマイルターンを使った旋回のしかた（B型のみ）…… 100
6.3.5 電動マーカの使いかた …… 101
6.3.6 電動マーカ両出のしかた …… 102
6.3.7 バックリフトの使いかた …… 102
6.3.8 苗の補給 …… 103
6.3.9 苗押えの調節 …… 104
6.3.10 ロータの動かしかた …… 105
6.3.11 ロータの高さ調整 …… 105
6.3.12 植えじまい …… 106
6.3.13 残り苗の取り出し …… 107
6.3.14 安全クラッチが作動したとき …… 108

7. 点検整備

7.1 定期的な点検整備 …… 109
7.1.1 点検·給油·調整一覧表 …… 110
7.1.2 エンジンオイルの交換 …… 113
7.1.3 エンジンオイルフィルタの交換 …… 114
7.1.4 冷却水の点検 …… 115
7.1.5 ラジエータホース …… 117
7.1.6 エアクリーナエレメントの清掃 …… 119
7.1.7 油圧オイルフィルタの交換 …… 120
7.1.8 油圧サクションフィルタの清掃 …… 121
7.1.9 リヤミッションオイルの給油 …… 122
7.1.10 植付クラッチケースの給油 123
7.1.11 ファンベルトの点検と調整 124
7.1.12 バッテリの点検と交換 …… 125
7.1.13 ヒューズの交換 …… 127
7.1.14 スローブローヒューズの交換 …… 128
7.1.15 ランプの交換 …… 129
7.1.16 ピーク(フィンガ(13.5/Z))の点検·交換 …… 130
7.1.17 植込フォークの点検·交換 …… 130
7.1.18 「植込杆駆動用チェン」の点検 …… 131

8. 格納時の手入れ

8.1 日常の格納 …… 132
8.2 長期格納 …… 132

9. 不調時の処置

9.1 不調と処置 …… 134
9.2 ロータ仕様機の不調と処置 …… 136
9.3 植付部ローリングの応急処置 …… 137
9.4 コントローラによる設定変更と異常表示について …… 137

10. 付表

10.1 推奨潤滑油一覧表 …… 140
10.2 主要諸元 …… 141
10.3 ロータ仕様 …… 142
10.4 機能装備一覧表 …… 143
10.5 標準付属品一覧表 …… 144
10.6 主な消耗部品一覧表 …… 145
10.7 注文部品一覧表 …… 149

1. 使用上のポイント

本章では、田植機を効率よく正しくお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しています。十分に熟読されて、正しい作業を行ってください。

1.1 移動走行について

この田植機は、道路運送車両の保安基準に適合していませんので、法令により公道を走行できません。従って、公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

1.2 使用上のご注意

記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

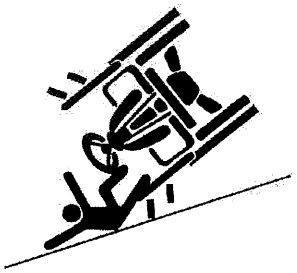
1.2.1 運転者の条件

⚠ 警告

こんなときは、運転をしないでください。

- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき**
- **18才未満の人**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**

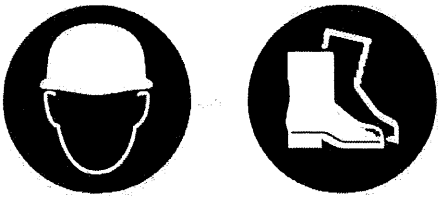
※ 誤操作しやすく思わぬ事故の原因になります。



作業に適した服を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

※ 機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

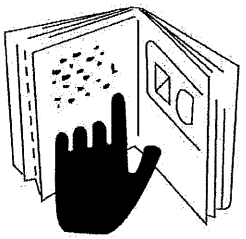


機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※ **作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行ってください。**

特に、ブレーキは、忘れないでください。



1.2.2 作業をする前に

⚠ 危険

燃料を補給するときは、くわえタバコ等の火気は厳禁です。

※ 守らないと、火災の原因となります。



⚠ 警告

無理のないゆとりある作業計画をたててください。

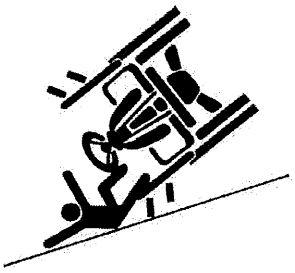
※ 無理な作業計画は、あせり等から傷害事故を引き起こすことがあります。



作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行ってください。

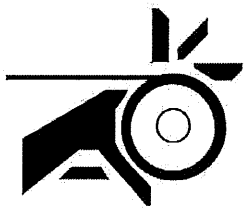
特に、ブレーキは、忘れないでください。

※ 点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり走行中や作業中の傷害事故につながります。



ステップや保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。

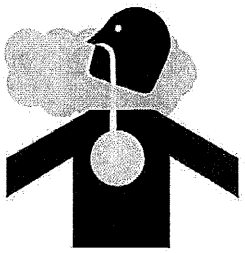
※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。



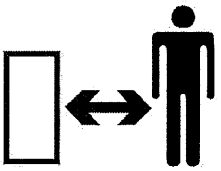
1.2.3 エンジンの始動と発進

⚠ 警告

室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。
※ 換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

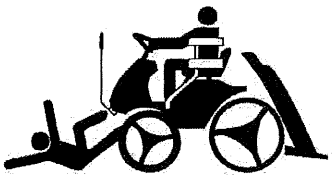


発進するときは、周囲の状況を確認して、ゆっくり発進してください。
特に子供に注意してください。
※ 急発進すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注意

エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、ブレーキペダル、主変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。
※ 確認を怠ると、急発進したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.2.4 走行するときは

⚠ 危険

田植機を草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしないでください。

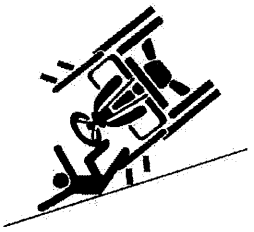
※ 排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し、火災の原因となるおそれがあります。



⚠ 警告

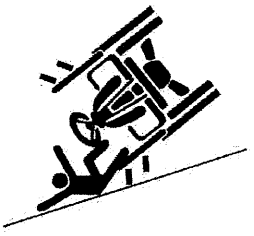
ステアリング（ハンドル）やブレーキは、正しく操作し、わき見運転や片手運転をしないでください。

※ 接触事故や、転倒事故につながるおそれがあります。



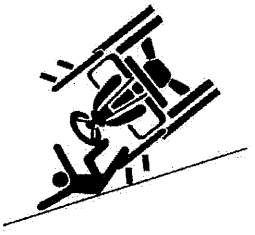
ブレーキペダルを踏むときは、まず主変速レバーでエンジン回転を低速にしてから、踏み込んでください。

※ 守らないと、ブレーキが効かず衝突、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。



田植作業以外のときは、デフロックペダルを使用しないでください。

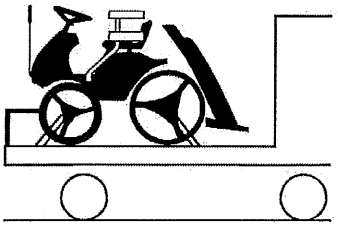
※ 使用すると衝突、転落事故を引き起こすおそれがあります。



ほ場等への移動は、必ずトラック等に載せて移動してください。

この田植機は、道路運送車両の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。

※ 道路を走行することは違法行為になります。



⚠ 警告

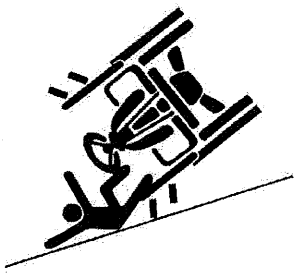
田植機の上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落するおそれがあります。



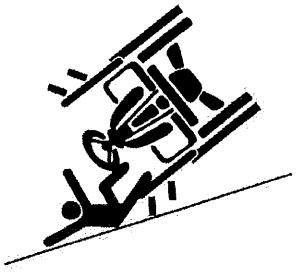
高速で急旋回しないでください。

※ 急旋回すると転倒事故につながるおそれがあります。



凸凹の激しい場所、地面の軟弱な場所、傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた適切な速度で走行してください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



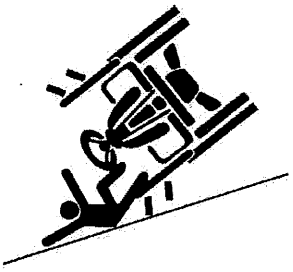
坂道では、急な旋回をしないでください。

※ 急旋回すると、転倒事故の原因となります。

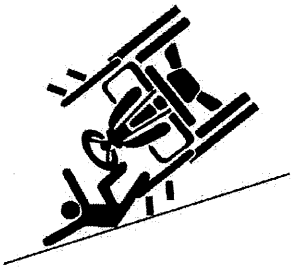


⚠ 警告

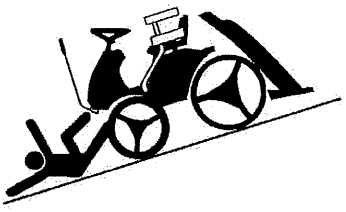
坂道では決して、副変速レバーを「PTO」状態にしないでください。
坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけてください。



側溝のある農道や両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落とし十分注意して走行してください。
※ 守らないと、路肩が崩れて転倒するおそれがあります。



田植機から離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。また、止めるところは、地面の硬い広くて平坦な場所を選んでください。
※ 田植機が、自然に動き出したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

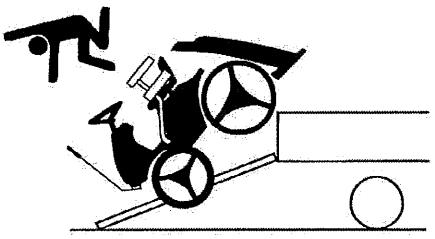


1.2.5 トラックへの積み・降ろし

⚠ 警告

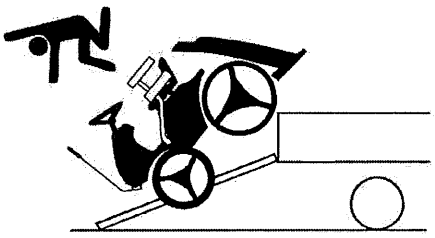
積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「1速」または［R］位置にし、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



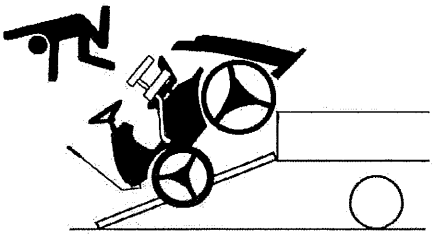
積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行ってください。

※ 守らないと、転落事故の原因となります。



ステアリング（ハンドル）を左右に大きくきったり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。

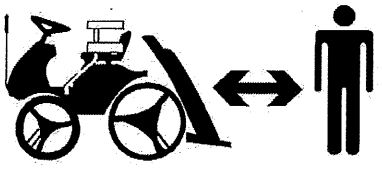
※ 守らないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。



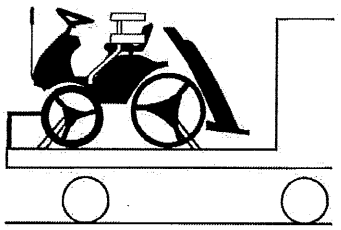
1. 使用上のポイント

⚠注意

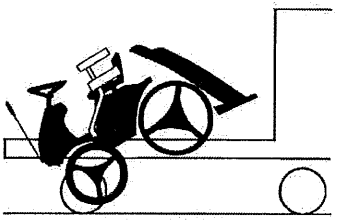
誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。
田植機の直前や直後には、絶対に立たないでください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。



トラック等で運搬するときは必ずロープ等で荷台に固定してください。
※ 守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ブレーキはしないでください。
※ 守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



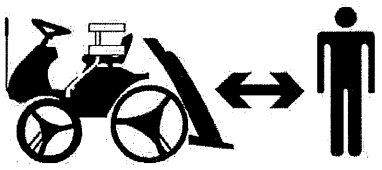
1.2.6 作業中は

気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠ 警告

作業中は、作業者以外の人（特に子供）を田植機に近づけないでください。

※ 田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



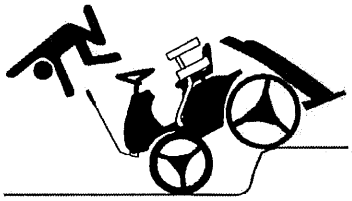
作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、お互いに合図してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故の原因となります。



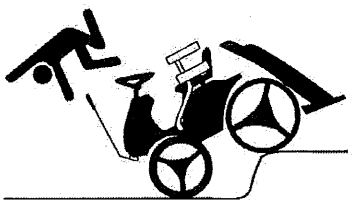
あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。

※ 斜めになると、スリップや転倒の原因となります。



あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。

※ 使用しなかった場合、衝撃で田植機が転倒することがあります。



運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリ端子等の通電部等には手を触れないでください。

※ 傷害事故の原因となります。

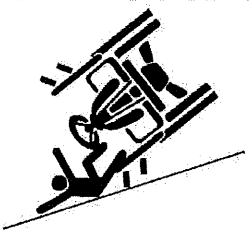


1.2.7 夜間作業の禁止について

⚠ 警告

夜間作業は危険なので行わないでください。

※ この田植機は、作業灯は装備していませんので、暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



1.2.8 点検・整備

⚠ 危険

点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリは完全に取り除いておいてください。

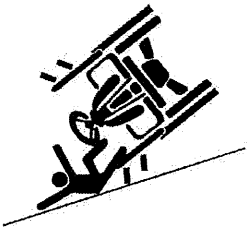
※ 怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告

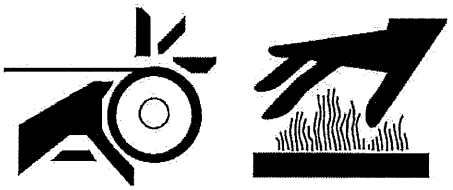
点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



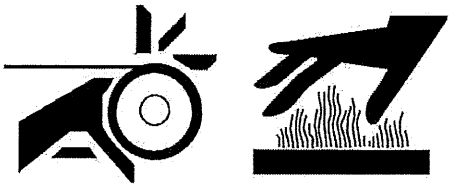
点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。

※ 暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

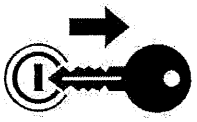
※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。



⚠ 警告

点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキ（ブレーキペダルを踏み込みロック）をかけ、植付部を降ろすか植付部の油圧を「油圧ロック」位置にしてから行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。



エンジンを切ってすぐに点検・整備をしないでください。

エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等の原因となります。



ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。

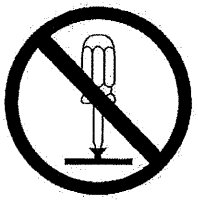
運転停止後しばらくたってよく冷えてから、注意しながら開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。



⚠ 警告

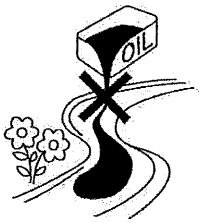
指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。
※ 守らないと、事故の原因となります。



⚠ 注意

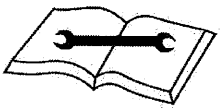
- **機械から廃液を抜く場合は、十分な容量がある容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃液、燃料、冷却水（不凍液）、溶剤フィルタ、バッテリ、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながります。

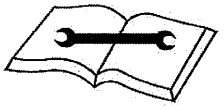


傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。
※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。
※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。



取扱説明書に従って定期点検を実施してください。
※ 正しく効率的な作業が行え、傷害事故の防止になります。



1.2.9 格納・保管時は

⚠ 危険

燃料は必ず抜き取り、金属携行缶等に保管してください。
※ 怠ると、燃料が変質するばかりでなく引火等で火災の原因となります。



作業が終了して、シートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

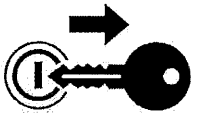


長期格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。
※ 外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因となります。

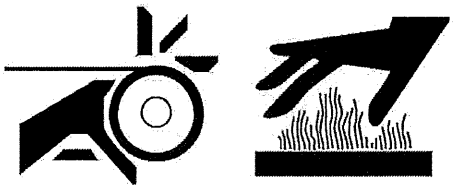


⚠ 警告

保管時は、メインスイッチのキーを抜いてください。
※ 守らないと、いたずら等で重大な傷害事故になることがあります。



田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。
※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると傷害事故を引き起こすおそれがあります。



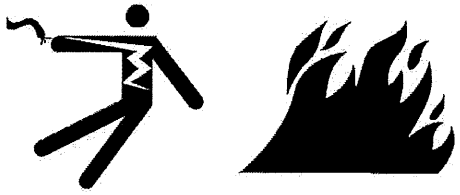
1.3 電装関係を取り扱うときは

1.3.1 電気配線点検時の注意事項

⚠ 危険

傷んだ配線は、すぐに交換・修理してください。

※ 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になるおそれがあります。



バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、取り除いてください。

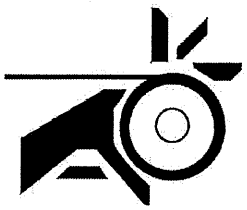
※ これを怠ると火災の原因となります。



⚠ 警告

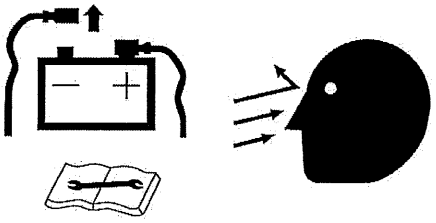
電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行ってください。

※ エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして、傷害事故の原因となります。



接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリの⊖コードを外して行ってください。

※ これを怠ると、火花がとんだり、感電したり傷害事故を引き起こすおそれがあります。

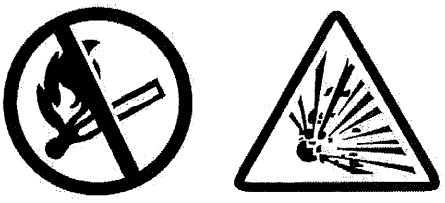


1.3.2 バッテリ取り扱い時の注意事項

⚠ 危険

ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。



バッテリ液を身体や衣服に付けないようにしてください。

バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。

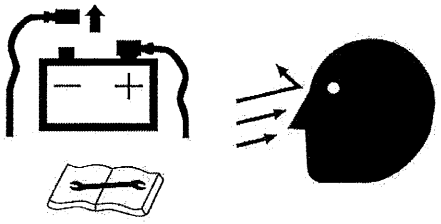
※ 失明や、やけどをするおそれがあります。
もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。



⚠ 警告

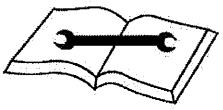
バッテリコード（端子）を取り外すときは、⊖のコードを先に取り外してください。バッテリコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けてください。

※ 守らないと、火花がとび傷害事故のおそれがあります。



バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



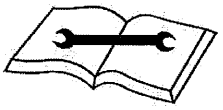
1.3.3 ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

⚠ 危険

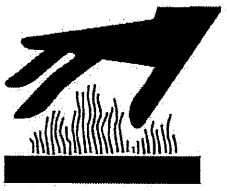
ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※ 通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損し、傷害事故のおそれがあります。



1.3.4 バッテリ液の注意事項

バッテリ液量の点検は作業前に必ず実施してください。

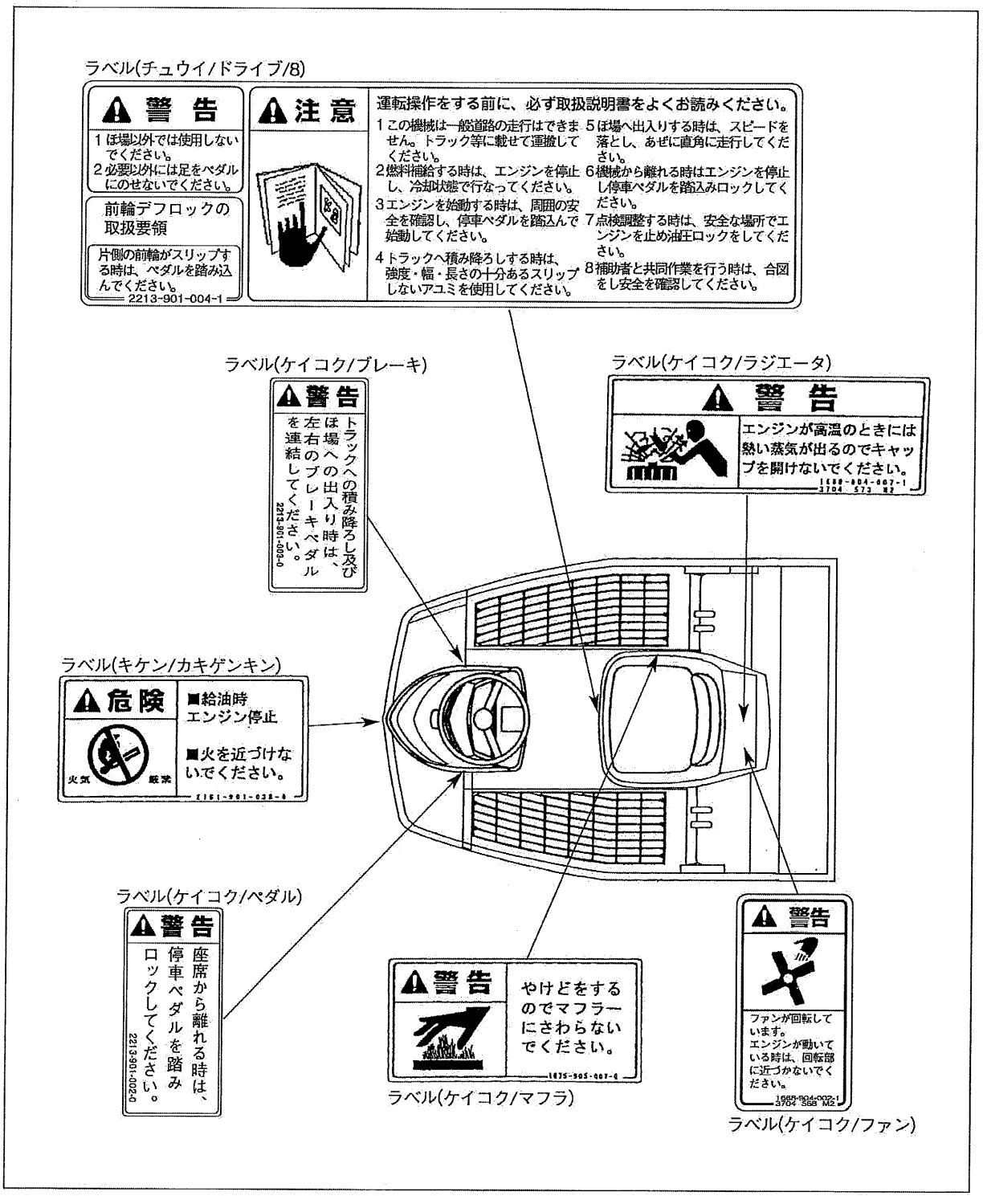
⚠ 危険	
バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電しないでください。 ※ バッテリの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。	
バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けないでください。 ※ 容器内の各部位の劣化が促進され、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。	

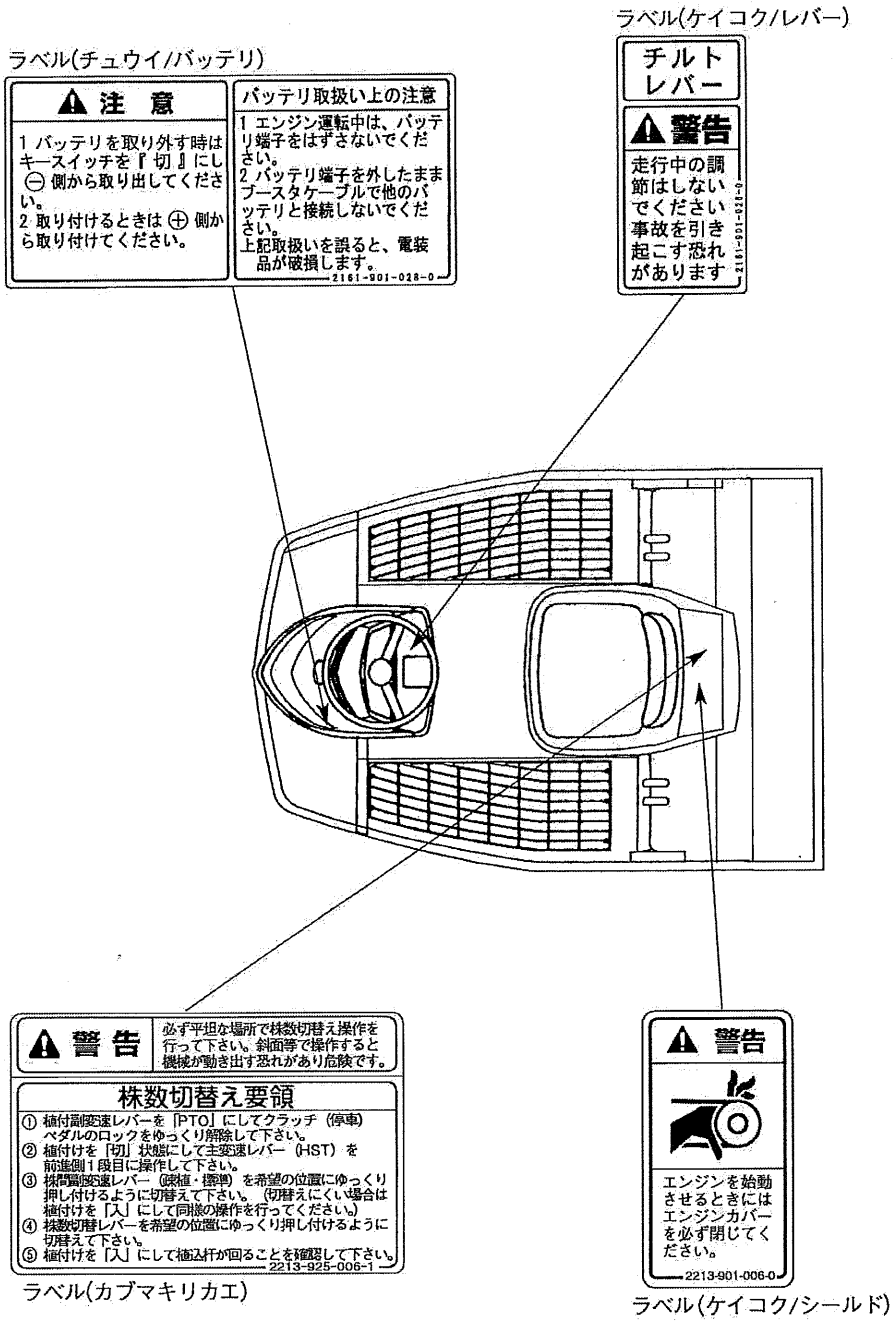
1.4 警告ラベルについて

- 本田植機には、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。警告ラベルは、お買いあげ先へご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルをお買いあげ先へご注文ください。
- ラベルには、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

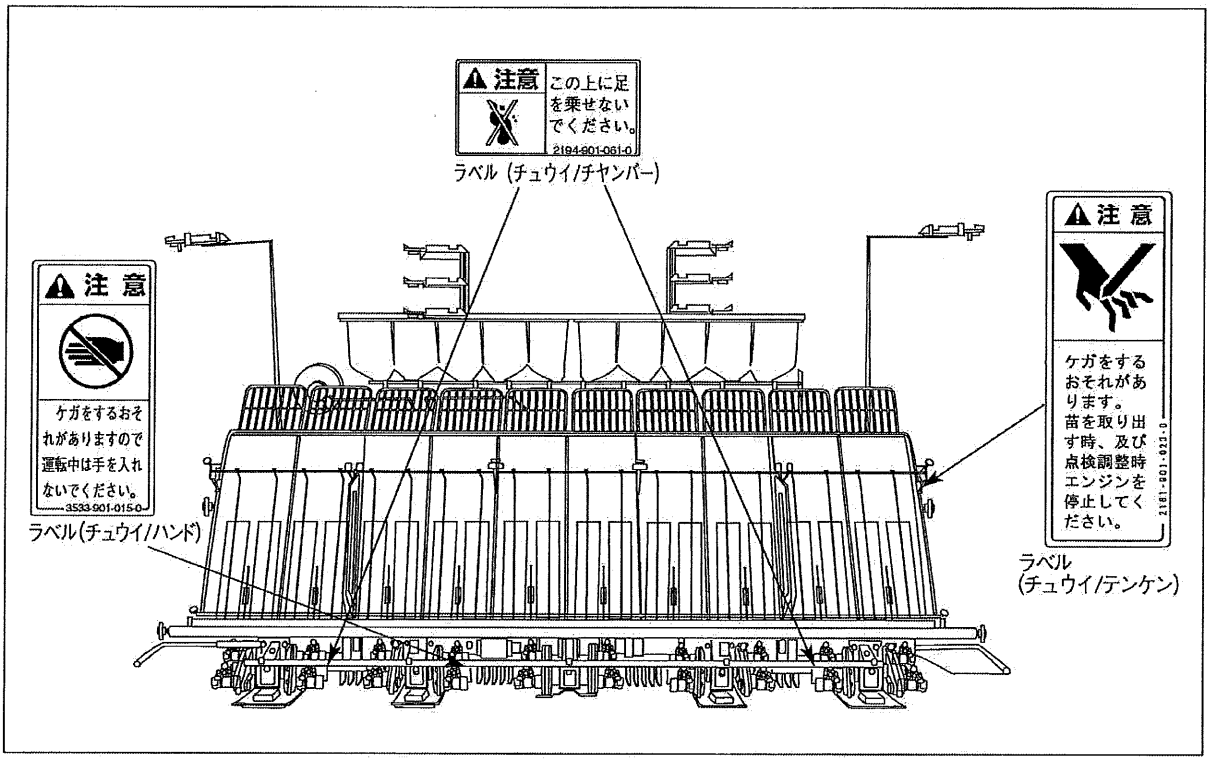
1.5 警告ラベル貼付位置

1.5.1 走行部




ラベル(チュウイ/バッテリ)
⚠ 注 意
1 バッテリを取り外す時はキースイッチを『 切 』にし ⊖ 側から取り出してください。
2 取り付けるときは ⊕ 側から取り付けてください。
バッテリ取扱い上の注意
1 エンジン運転中は、バッテリ端子をはずさないでください。
2 バッテリ端子を外したままブースタケーブルで他のバッテリと接続しないでください。
上記取扱いを誤ると、電装品が破損します。
2161-901-028-0
ラベル(ケイコク/レバー)
チルト レバー
⚠ 警告
走行中の調節はしないでください 事故を引き起こす恐れがあります
ラベル(カブマキリカエ)
⚠ 警 告
必ず平坦な場所で株数切替え操作を行って下さい。斜面等で操作すると機械が動き出す恐れがあり危険です。
株数切替え要領
① 植付副変速レバーを「PTO」にしてクラッチ（停車）ペダルのロックをゆっくり解除して下さい。
② 植付けを「切」状態にして主変速レバー（HST）を前進側1段目に操作して下さい。
③ 株間副変速レバー（疎植・標準）を希望の位置にゆっくり押し付けるように切替えて下さい。（切替えにくい場合は植付けを「入」にして同様の操作を行ってください。）
④ 株数切替レバーを希望の位置にゆっくり押し付けるように切替えて下さい。
⑤ 植付けを「入」にして植込杆が回ることを確認して下さい。
2213-925-006-1
ラベル(ケイコク/シールド)
⚠ 警告
エンジンを始動させるときにはエンジンカバーを必ず閉じてください。
2213-901-006-0

1.5.2 植付部


注意
この上に足を乗せないでください。
2194-901-061-0
ラベル (チュウイ/チヤンバー)
注 意
ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。
3533-901-015-0
ラベル(チュウイ/ハンド)
注 意
ケガをするおそれがあります。
苗を取り出す時、及び点検調整時エンジンを停止してください。
2181-901-023-0
ラベル
(チュウイ/テンケン)

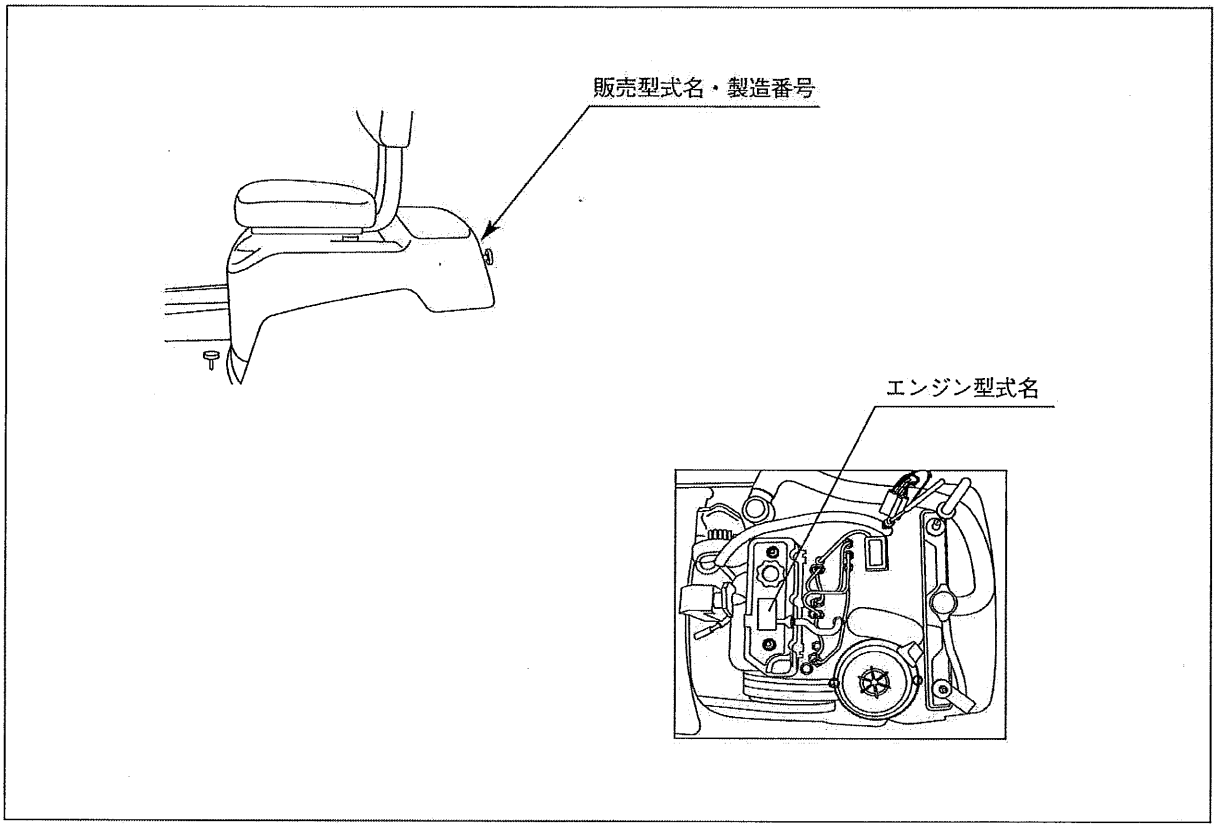
2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命はお買いあげ先へお気軽にご相談ください。
その際は、
(1) 販売型式名と製造番号
(2) エンジン型式とエンジン機関番号
をあわせてご連絡ください。

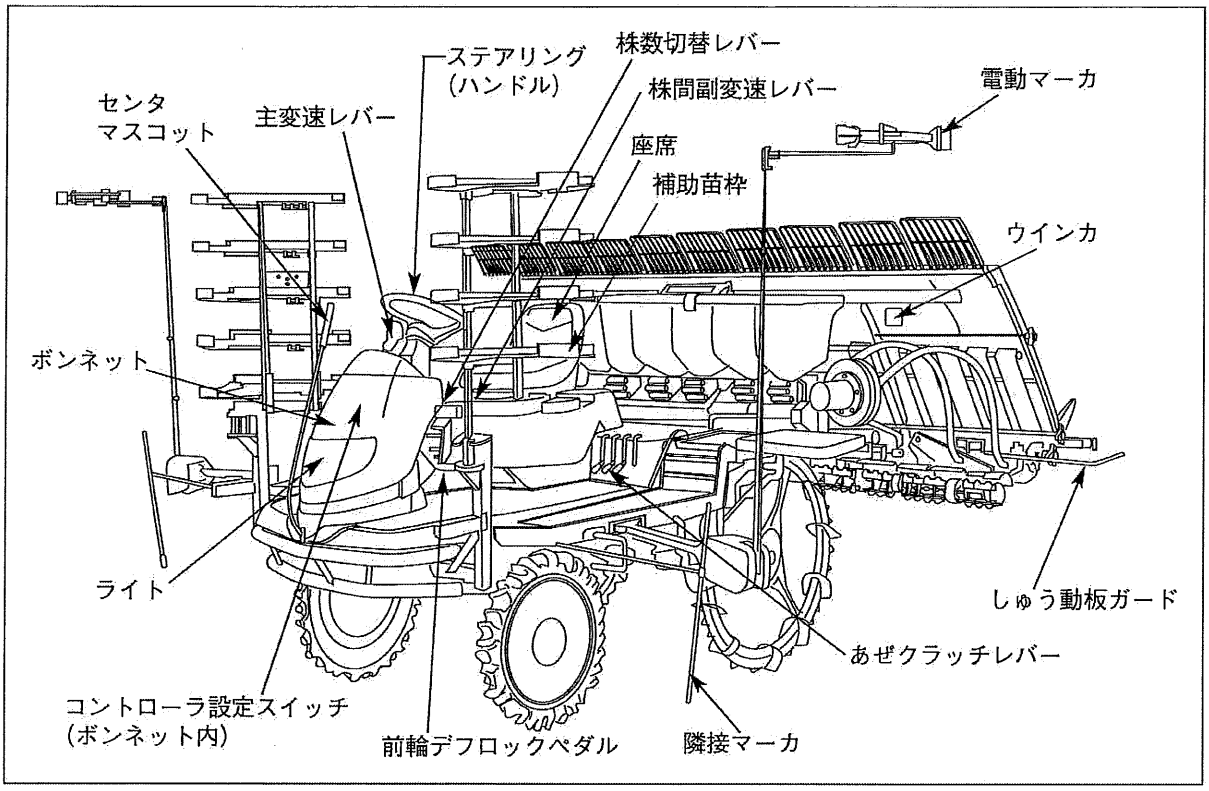


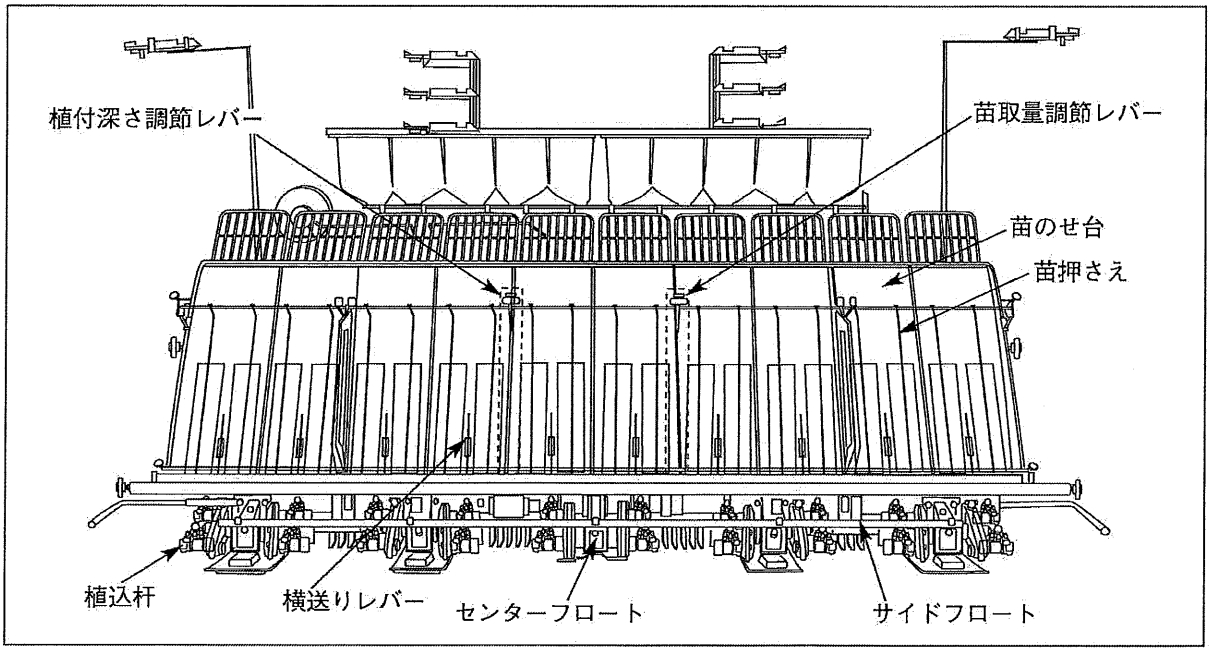
2.3 補修用部品供給年限について

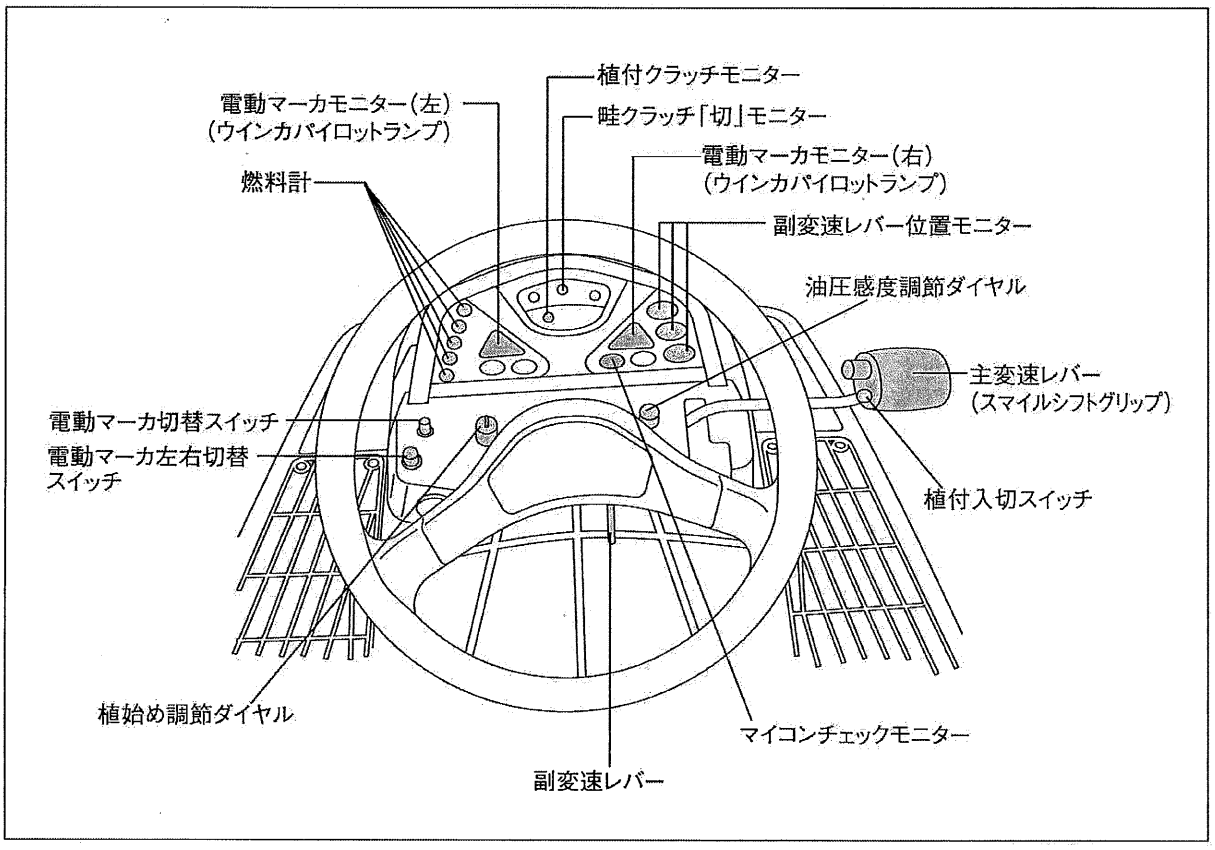
- この商品の補修用部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後9年といたします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

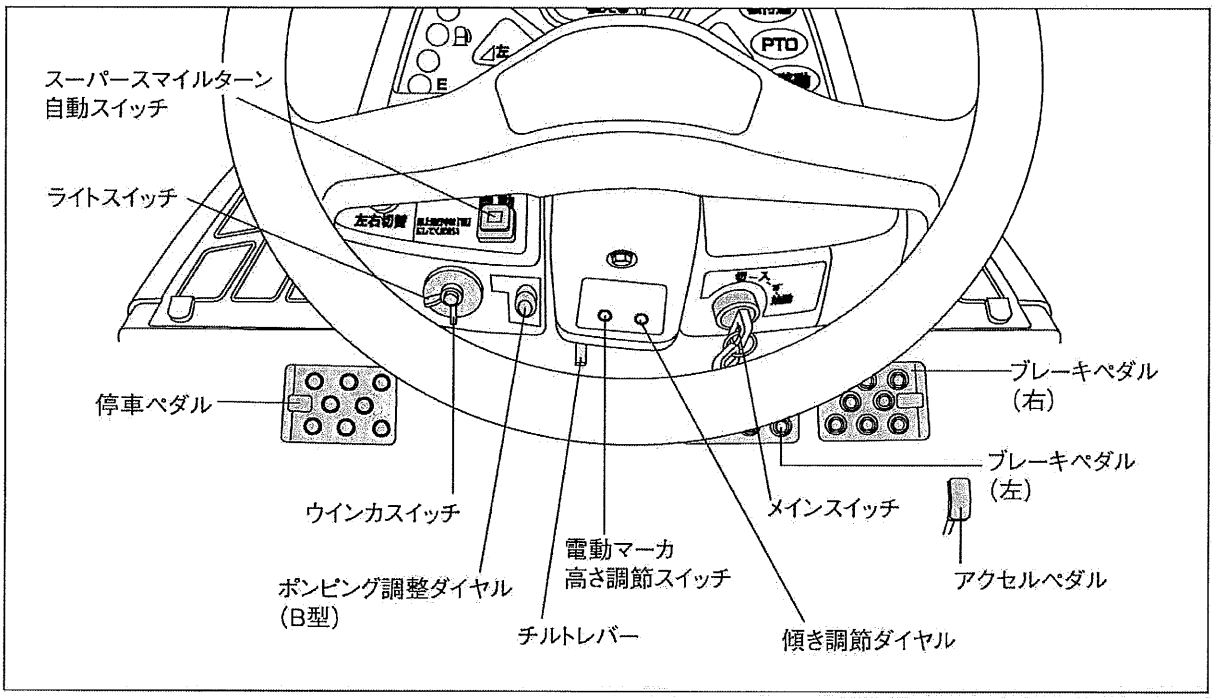
3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称

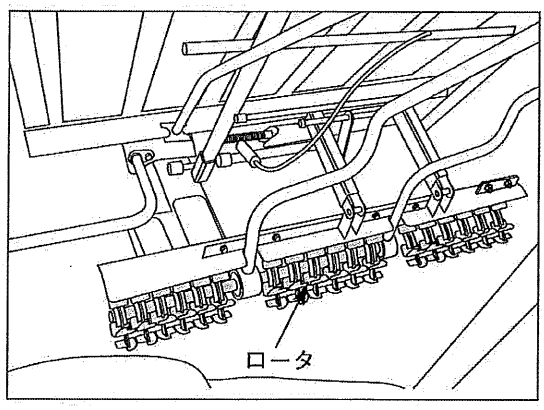


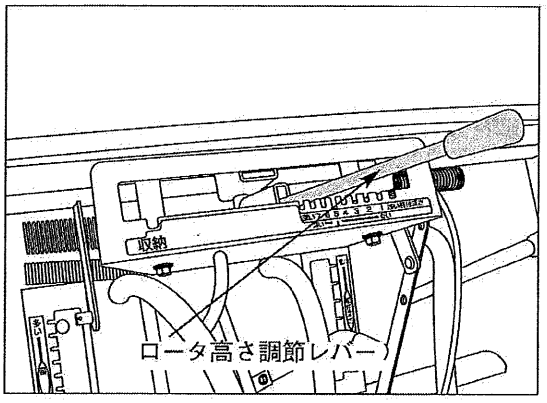


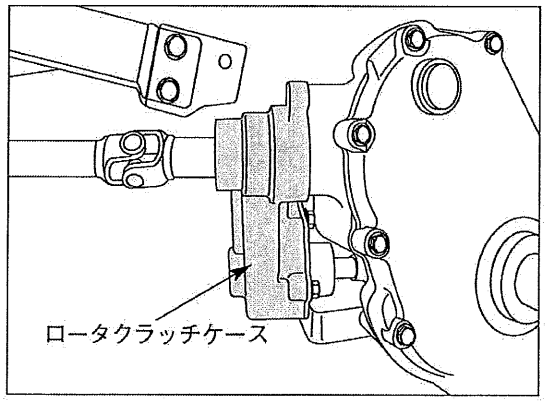

植付クラッチモニター
電動マーカモニター(左)
(ウインカパイロットランプ)
畦クラッチ「切」モニター
電動マーカモニター(右)
(ウインカパイロットランプ)
燃料計
副変速レバー位置モニター
油圧感度調節ダイヤル
主変速レバー
(スマイルシフトグリップ)
電動マーカ切替スイッチ
電動マーカ左右切替
スイッチ
植付入切スイッチ
植始め調節ダイヤル
マイコンチェックモニター
副変速レバー

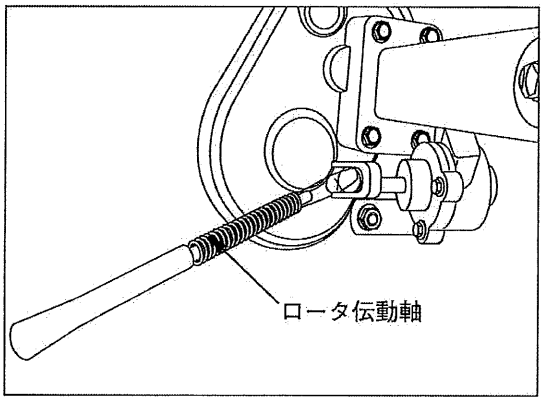

スーパースマイルターン
自動スイッチ
ライトスイッチ
PTO
左右切替
停車ペダル
ブレーキペダル
(右)
ブレーキペダル
(左)
ウインカスイッチ
メインスイッチ
電動マーカ
高さ調節スイッチ
アクセルペダル
ポンピング調整ダイヤル
(B型)
チルトレバー
傾き調節ダイヤル

■ロータ







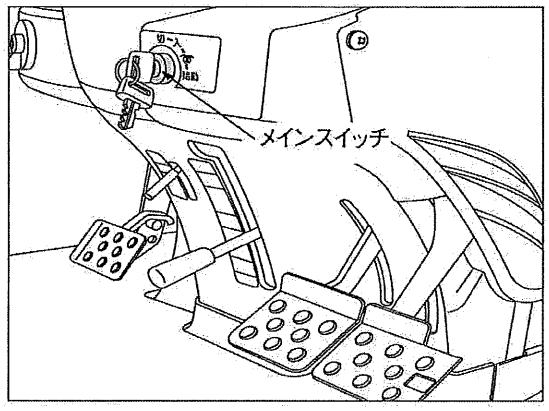


3.2 計器およびスイッチのはたらき

3.2.1 スイッチのはたらき

■メインスイッチ

「切」…… エンジンが停止します。
「入」…… エンジンが回転中の位置です。
「ᔓ」…… 自動的に予熱します。5秒間保持した後、「始動」位置に回してください。
「始動」…… 停車ペダルをいっぱい踏み込んで、「始動」位置にするとエンジンが始動します。
手を離すと、「入」に戻ります。

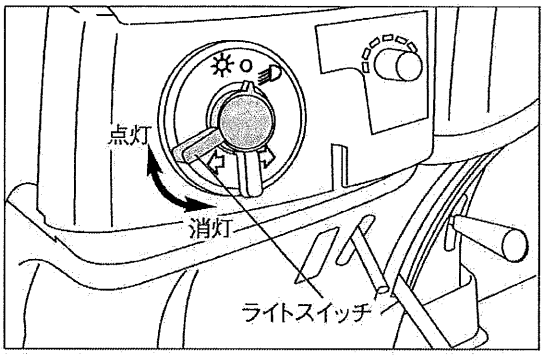


補 足

- エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」位置にしないでください。
- メインスイッチの作動は1回10秒程度とし、始動しないときは30秒程度停止してから、再び操作を繰り返してください。

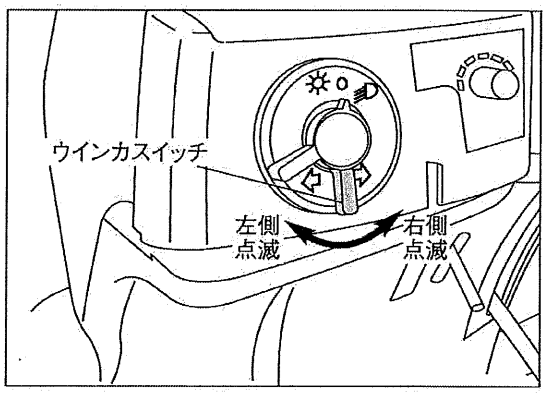
■ライトスイッチ

メインスイッチが「入」位置のとき、ライトスイッチを右方向に回すとライトが点灯します。



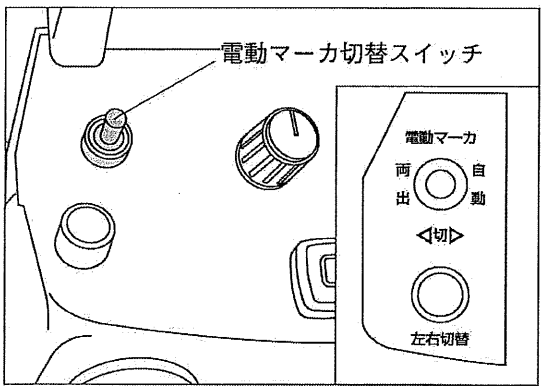
■ウインカスイッチ

メインスイッチが「入」位置のとき、旋回する側の矢印方向にウインカスイッチを回してください。
ウインカとウインカパイロットランプが点滅し、旋回方向を知らせます。



■電動マーカ切替スイッチ

「自動」…… 電動マーカが交互に出るようになります。
電動マーカモニターランプが点灯している側のマーカが出ます。
「切」…… 電動マーカは出ません。
「両出」…… 左右の電動マーカが同時に出るようになります。このとき、電動マーカモニターランプは左右とも点灯します。

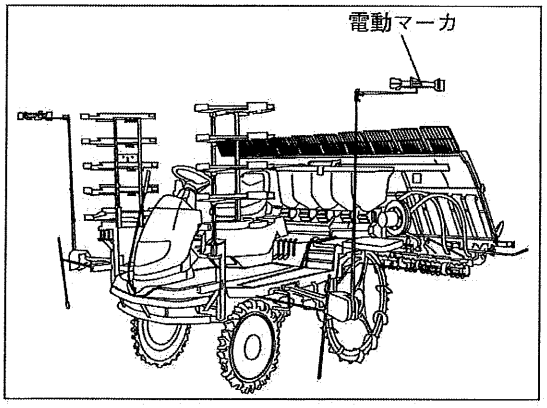


■電動マーカ

旋回操作に連動して、マーカの出る方向を自動的に切り替え、電動で収納、開放を行います。

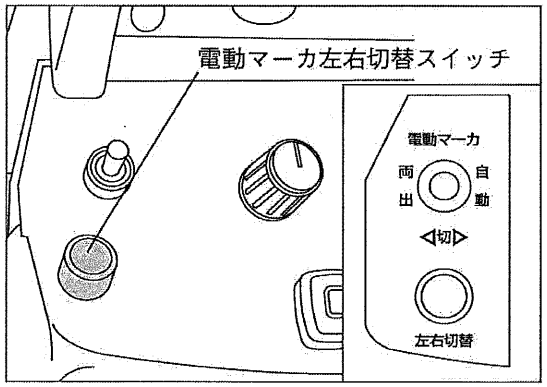
補 足

- 電動マーカ上昇時、障害物等で電動マーカが上がらないときは、モーターの保護機能がはたらき、モーターが停止します。
  保護機能がはたらいたときは、障害物を取り除いてください。また復帰には30秒程度時間がかかるため、この間電動マーカは作動しません。



■電動マーカ左右切替スイッチ

植付部が「下」のとき、このスイッチを押すと電動マーカの出る方向が交互に入れ替わります。

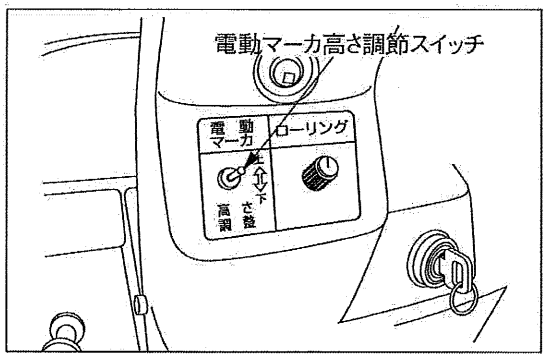


電動マーカ高さ調節スイッチ

植付部が「下」のとき、このスイッチを操作するとマーカの高さを変えることができます。
ほ場の条件により、マーカが接地しないときに使用してください。

補 足

- **電動マーカ高さ調節スイッチで調節したマーカの高さは、メインスイッチを「切」にするまで保持されます。再度「入」にすると工場出荷時の高さに戻ります。**

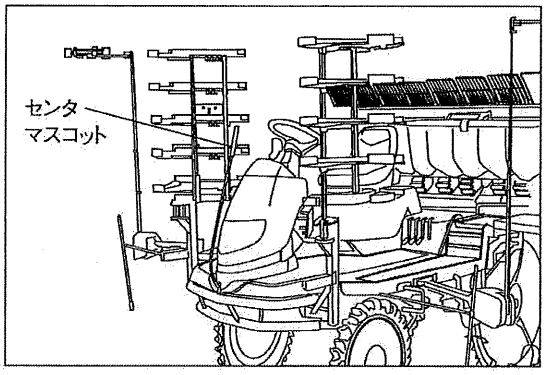


■センタマスコット

(1) 植付入りで緑ランプが点灯します。
(2) 苗のせ台の苗が一定量までなくなると赤色が点滅します。
(3) 植付クラッチが「切」のときは点滅しません。
(4) 電動マーカの引いた跡に合せて植付けると、適正な隣接条間が保てます。直進の目安になり楽に直進できます。

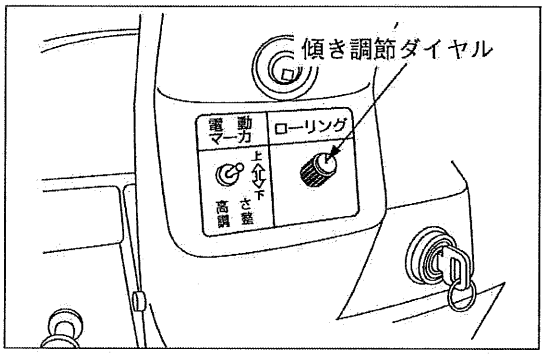
補 足

- **センタマスコットは、前後に回動します。見やすい位置にセットしてください。**



■傾き調節ダイヤル

(1) 植付中、左右どちらかが浮きぎみ、または沈みぎみ傾向のときにこのダイヤルで調整します。
(2) 「中央」位置が植付部の水平位置です。通常はこの位置で作業します。
(3) ダイヤルを右に回すと右下がりに、左に回すと左下がりに植付部の傾きを調節できます。
(4) あぜ際等で、少し傾けて植え付けたいときにも使用してください。



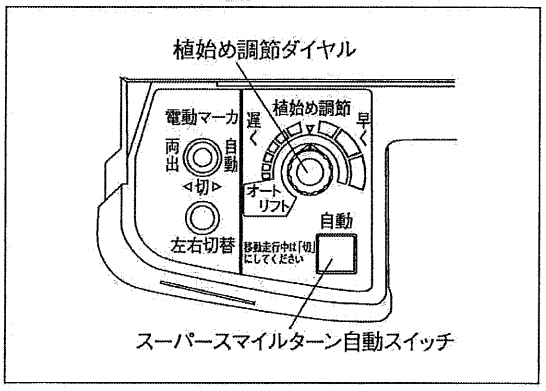
■スーパースマイルターン

(1) スーパースマイルターン自動スイッチを自動（ランプ点灯）にすると旋回時、ステアリング（ハンドル）をいっぱい回すことにより、植付が自動で「切」になり、植付部が自動で上昇します。

(2) 旋回が終わると、植付部が自動で下がり、植付位置まで進むと自動で植付クラッチが「入」になります。

補 足

- **変形ほ場等で植始め位置が揃わない時は「切」で使用してください。**



■植始め調節ダイヤル

スーパースマイルターン自動スイッチ「入」時、旋回後、植付クラッチが「入」になるタイミングを調節するダイヤルです。

「早く」は、「植付入」タイミングを早くします。

「遅く」は、「植付入」タイミングを遅くします。

オートリフトの表示のある位置に合わすとステアリング（ハンドル）を切ると植付部が上昇する（オートリフト）のみ作動するようになります。

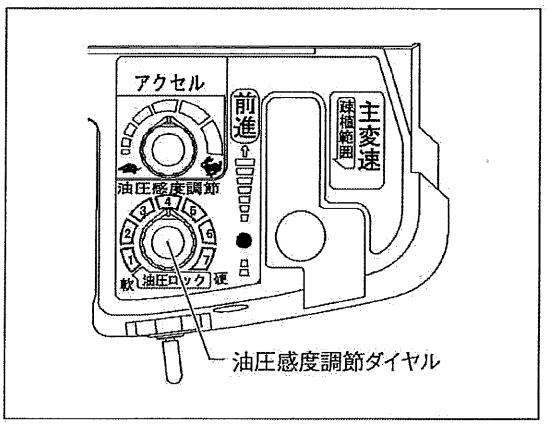
■油圧感度調節ダイヤル

ほ場の硬軟に応じて油圧感度を変更することができます。

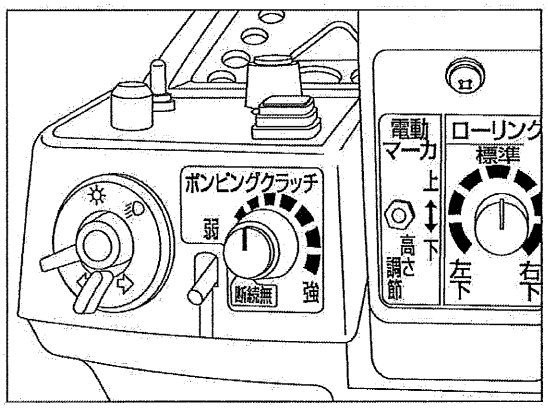
油圧ロック位置にすると、植付部がロックされ昇降しません。又、バックリフトもしません。

補 足

- **納屋に入れる時など、バックリフト（バックで自動的に植付部が上がる）を作動させたくない時は「油圧ロック」にしてください。**



■ミラクルスマイルターン（B型のみ）



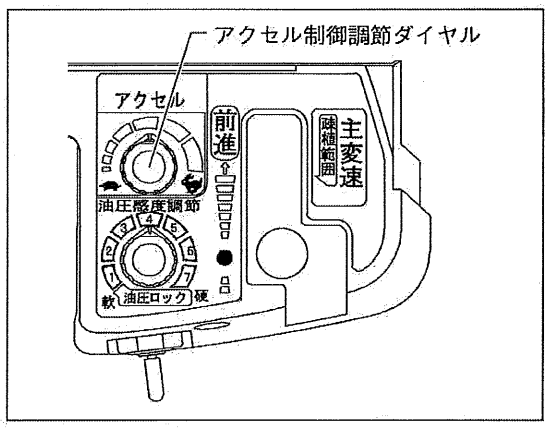
ミラクルスマイルターンを使用すると、植付作業旋回時に旋回内側後輪の動力をつないだり切ったりすることで、車輪の穴掘り、補助車輪間の泥抱きを軽減します。

・「強」側に回すと旋回内側後輪に動力をつなぐ時間が長くなります。
・「弱」側に回すと旋回内側後輪に動力をつなぐ時間が短くなります。
・「断続無」に合わせるとポンピングは作動しません。

補 足

- **副変速が移動位置のときは、ポンピングは作動しません。**
- **ポンピングを使用する時は、スーパースマイルターンの作動タイミングが正常に機能しません。**
  自動スイッチを「切」にし、スーパースマイルターンを使わない旋回のしかた（ ☞ 99ページ）で植付作業してください。

■アクセル制御調節ダイヤル

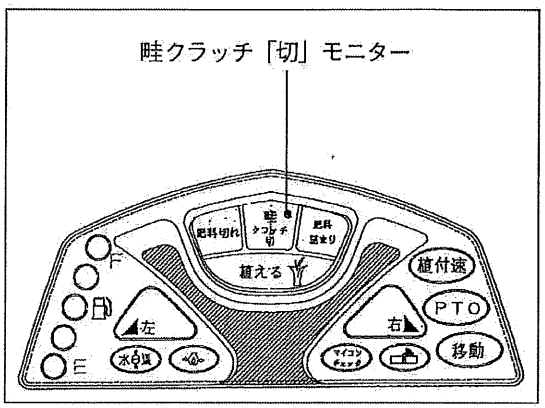


ダイヤルを左（🐢）側から右（🐇）側に回すとエンジン回転が上がります。
エンジン回転数は主変速レバーに連動して増減する機構（オートアクセル）ですが、任意にエンジン回転を上げる時に、ダイヤルを右（🐇）側に回すとエンジン回転数を上げることができます。

3.2.2 計器のはたらき

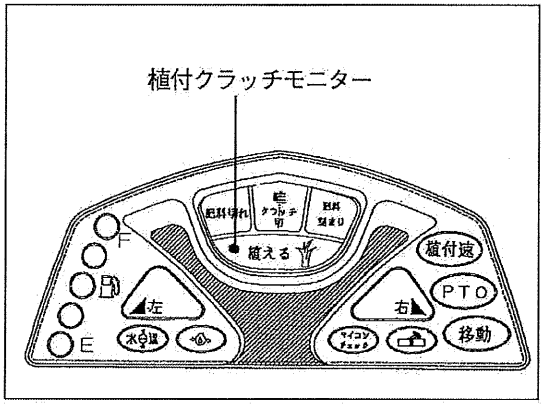
■畦クラッチ「切」モニター

あぜクラッチレバーが「切」位置のときに点滅します。
(☞ 40ページ)



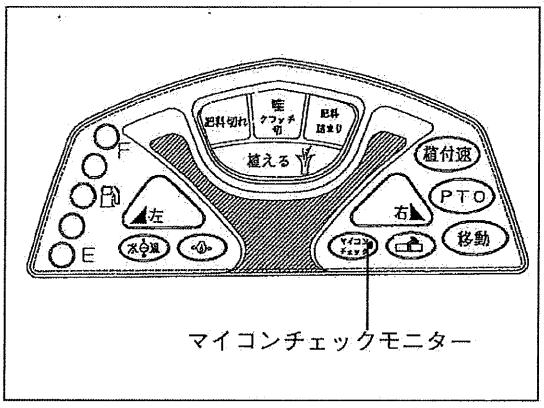
■植付クラッチモニター

(1) 植付入切スイッチで、植付を「入」にすると点灯します。



■マイコンチェックモニター

(1) 各センサーの回路が断線したときには点灯します。

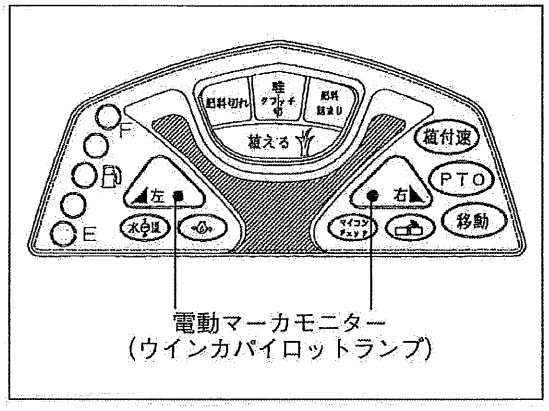


■電動マーカモニター（ウインカパイロットランプ）

モニターランプが点灯している側の電動マーカが出ます。
（ウインカ点滅と同時に点滅します。）

1） 電動マーカ切替スイッチ「自動」又は、「両出」の時、モニターランプが点灯している側の電動マーカが出ます。

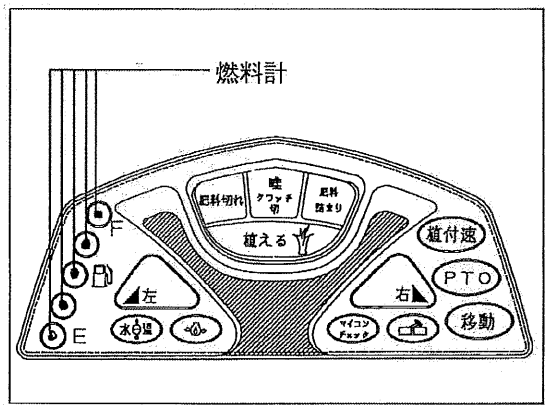
2） 電動マーカ切替スイッチ「切」の時、ウインカースイッチを操作すると、ウインカー点滅と同時に点滅します。



■燃料計

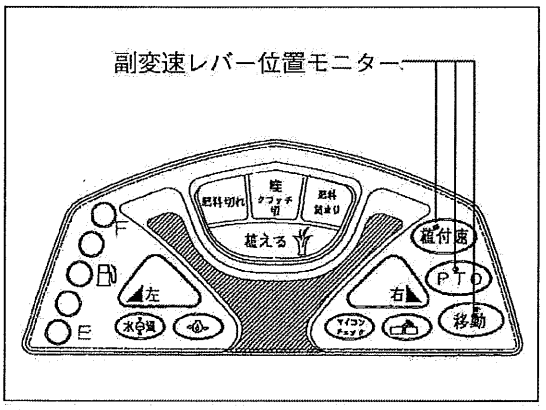
ランプの点灯数でガソリンの残り量を表示します。

5つ点灯……燃料満量
3つ点灯……燃料1/2残量
1つ点滅……燃料空（早めに補給してください。）



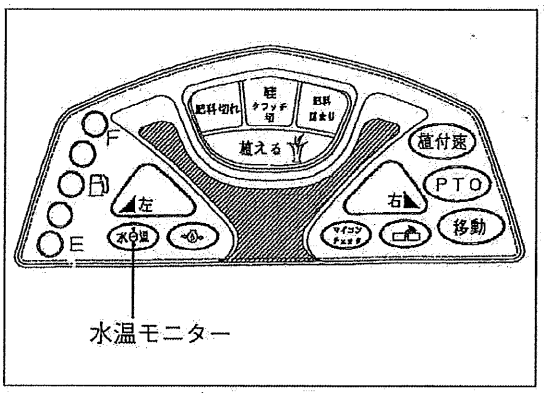
■副変速レバー位置モニター

副変速レバーの変速位置を点灯表示します。



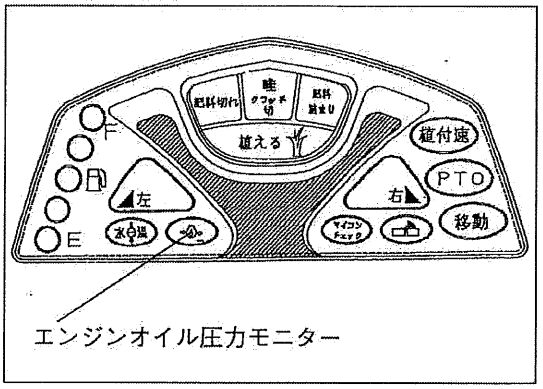
■水温モニター

ラジエータ冷却水の温度が高くなると点灯します。
点灯したままのときは、ラジエータ水量のチェック、冷却ファンの点検、清掃などを行ってください。



■エンジンオイル圧力モニター

エンジン回転中、オイル潤滑系統が異常のとき点灯します。点灯したままのときは、エンジンオイル量およびオイル潤滑系統を点検してください。

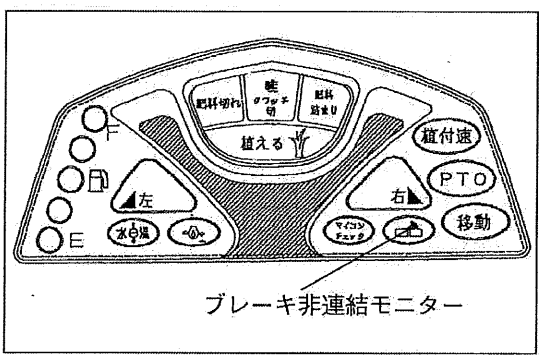


■ブレーキ非連結モニター

⚠ 警告

田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。また、ブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。
※　連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

ブレーキペダルの連結金具が連結されていないときに点灯します。



3.3 レバー、ペダル、シート関係の取り扱い

3.3.1 主変速レバー

⚠ 警告

田植機から離れるときや点検のときは、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキ（停車ペダルを踏込んでロック）をかけ、メインスイッチのキーを抜いておいてください。
※ 守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

苗を補給するときは、停車ペダルをロックしてください。
※ 守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

発進・停止時急激な操作をしないでください。
※ 守らないと、急に動き出し、傷害事故を引き起こす原因となります。

注意

主変速レバーは、停車ペダルを踏むと「中立」(「●」位置）位置に固定されますので停車ペダルを踏み込んだままで主変速レバーを作動させないでください。
※ 無理に作動させると主変速レバー、ブレーキの損傷につながります。

主変速レバーの前進位置は1段から8段ですが、株間副変速レバーを「疎植」位置にすると、疎植制御機構により6段目までしか操作できません。(AS型を除きます)
※ 無理に作動させると主変速レバー、株間副変速レバーの損傷につながります。

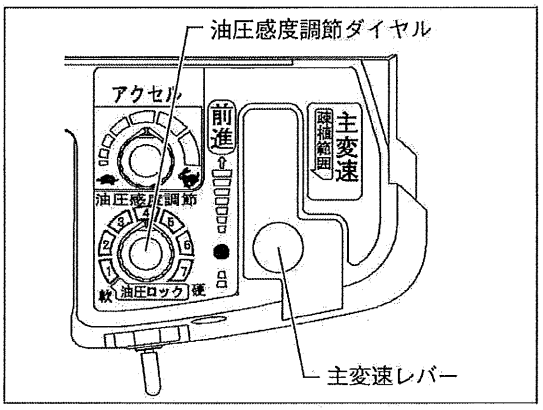
(1) 前進、後進および車速を無段変速できるレバーです。

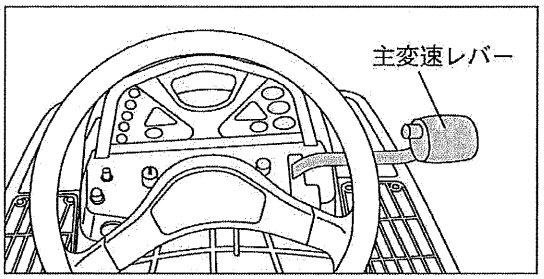
(2) 「後進」位置にすると植付部が上昇します。

補 足

- **油圧感度調節ダイヤルが「油圧ロック」位置の時には植付部は上昇しません。**

(3) 前進、後進操作すると、連動してエンジン回転数が変化します。

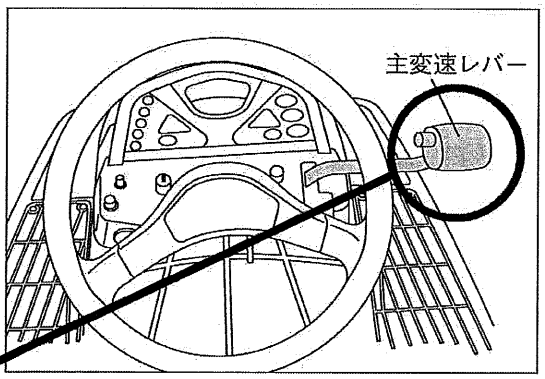


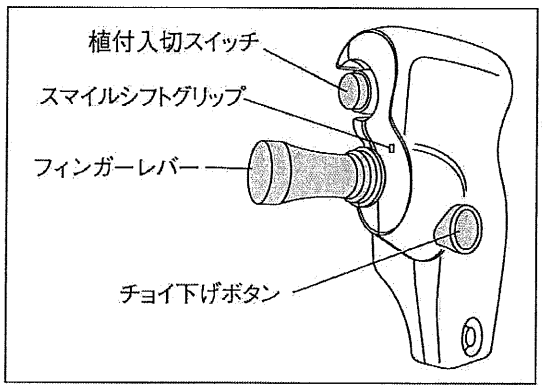


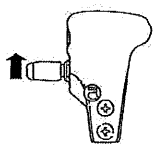
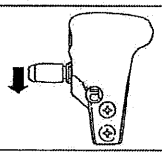
3.3.2 スマイルシフトグリップ（主変速レバーに付いているグリップ）

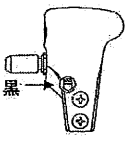
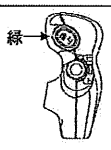
このレバーは握ったまま次の3つの操作をおこなえます。

(1) 前後に操作することで前進、後進操作がおこなえます。
(2) 植付部の上昇、下降操作がおこなえます。
(3) 植付クラッチの「入」「切」操作がおこなえます。





操　作	はたらき	
フィンガーレバー	植付部	
	上昇しているとき	上昇停止
	停止しているとき	上昇する
	下降しているとき	
	植え付けているとき	植付が切れて上昇する
	上昇しているとき	下降する
	停止しているとき	
	下降しているとき	下降のまま

操　作	はたらき		
チョイ下げボタン	植付部		
	植付「切」のとき	停止しているとき	押している間だけ下降する
		下降しているとき	下降のまま
	植付「入」のとき	植え終いのほ場から出ながらの植付時に使用できます。チョイ下げボタンを1回押す度におよそ3cmほど、植付部が上昇します。	
植付入切スイッチ			
	押すたびに植付クラッチ「入」「切」を切り替えることができます。		

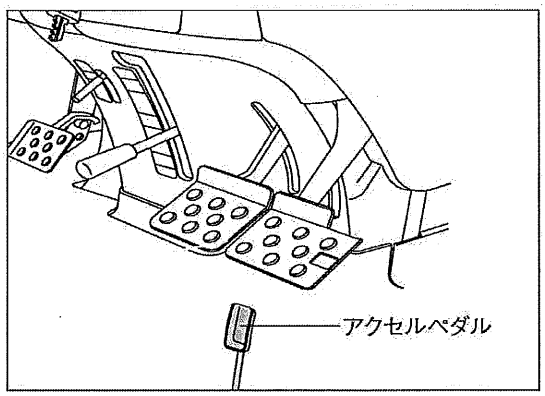
補 足

- エンジンがかかっていないと植付部は下がりません。
  植付部を下げるには、エンジンをかけ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置から解除し、フィンガーレバーを操作し下げにしてください。

3.3.3 アクセルペダル

■アクセルペダル

ペダルを踏み込むとエンジン回転が上がります。
主変速レバー操作に連動し、エンジン回転数は増減する機構（オートアクセル）ですが、任意にエンジン回転を上げる時に、ペダルを踏み込むとエンジン回転数を上げることができます。



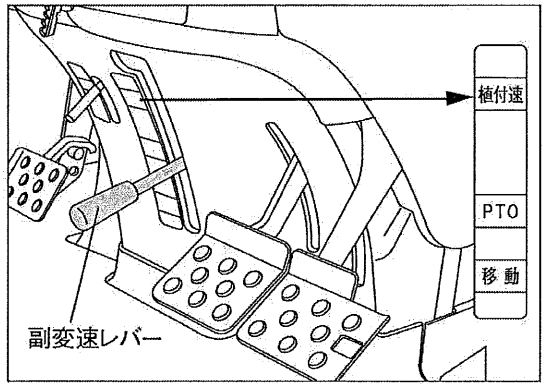
3.3.4 副変速レバー

⚠ 警告

副変速レバーは、停車ペダルを踏み、田植機が完全に停止してから操作してください。
※　走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

坂道では決して、副変速レバーを「PTO」にしないでください。
※　守らないと、田植機が自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(1)　移動、PTO、植付速と変速するレバーです。



3.3.5 停車ペダル

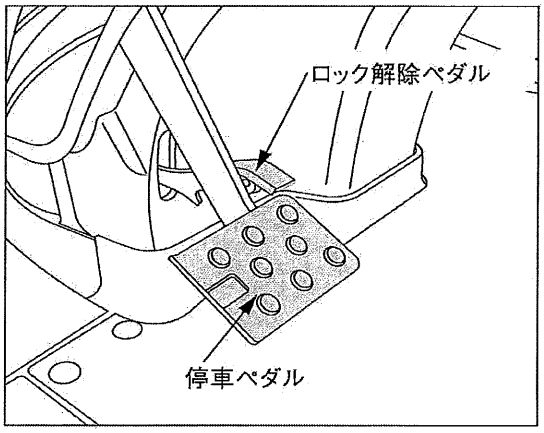
⚠ 警告

座席から離れて作業する場合は、停車ペダルをいっぱい踏み込み、ロックしてください。
※ 守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

ロック解除ペダルを踏まずに停車ペダルのみをいっぱい踏み込むと、その状態でロックされ、駐車ブレーキがかかります。ロック解除ペダルを踏み込み、足を離すと停車ペダルが戻ります。

補 足

- **エンジン始動時は踏み込まないとエンジンが始動しません。**
- **停車ペダルを踏み込んでいる時は主変速レバーは固定されており動きません。**
- **停車ペダルを踏み込むときは主変速レバーが「止」位置にあることを確認してください。**



3.3.6 ロック解除ペダル

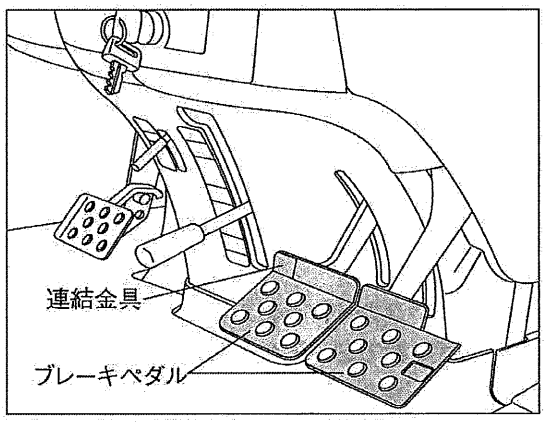
(1) 停車ペダルのロックを解除させるペダルです。
(2) 停車ペダルを踏み込む時、停車ペダルをロックさせたくないときは、停車ペダルとロック解除ペダルを同時に踏んでください。

3.3.7 ブレーキペダル

⚠ 警告

田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。またブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。
※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

(1) 左側のペダルを踏み込むと左後輪に、右側のペダルを踏み込むと右後輪にブレーキがかかります。
(2) 旋回する側のペダルを踏み込んでください。

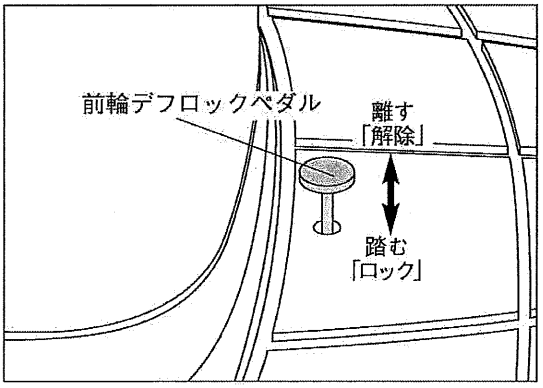


3.3.8 前輪デフロックペダル

⚠ 警告

田植作業以外のときは、必ず前輪デフロックペダルが解除してあるか確認してください。
※ 守らないと、衝突・転落事故を引き起こすおそれがあります。

(1) ペダルを踏み込むと左右前輪の回転が同じになります。
(2) あぜごえ時や旋回時に前輪がスリップする場合に使用します。

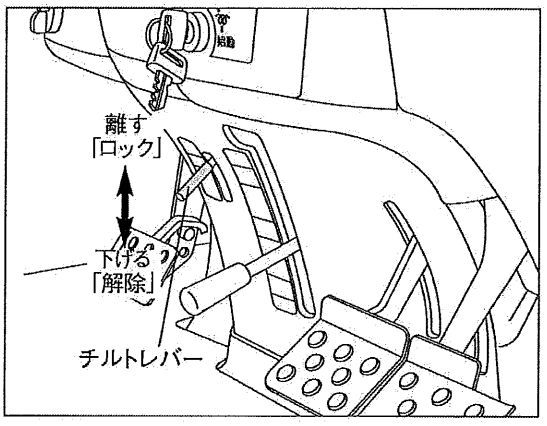


3.3.9 チルトレバー

⚠ 警告

チルトレバーの調節は停止中に行い、走行中は調節しないでください。
※ 走行中に調節すると正常な運転ができなくなり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(1) ステアリング角度を変更するときに使用するレバーです。
(2) ステアリング角度は3段階選べます。



下記の要領で作業しやすい位置に調節してください。

1 チルトレバーを下げたままステアリング（ハンドル）を前後に動かして、運転しやすい位置にステアリング（ハンドル）を合せます。

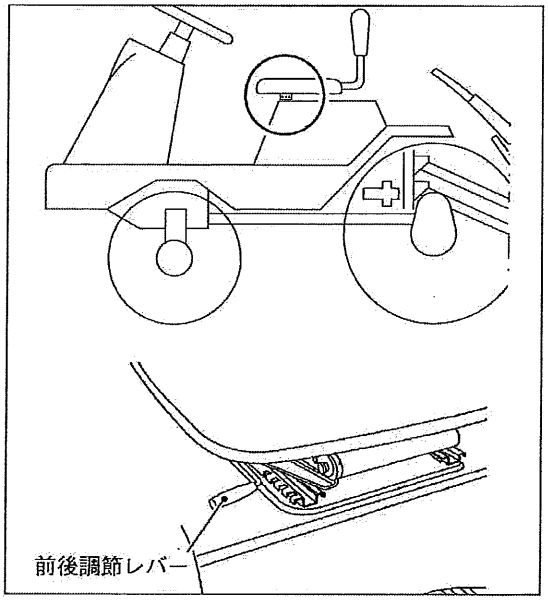
2 チルトレバーから手を放し、ステアリング（ハンドル）を少し前後に動かすとステアリング（ハンドル）が固定されます。

3.3.10 座席の調節

⚠ 警告

調節はエンジンを始動する前に行ってください。
※ 走行中に調節すると、正常な運転ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

(1) シート下にあるシート前後調節レバーを「上方に引く」とシートは前後に調節できます。
(2) 調節後は、レバーがロック位置でロックされていることを確認してください。

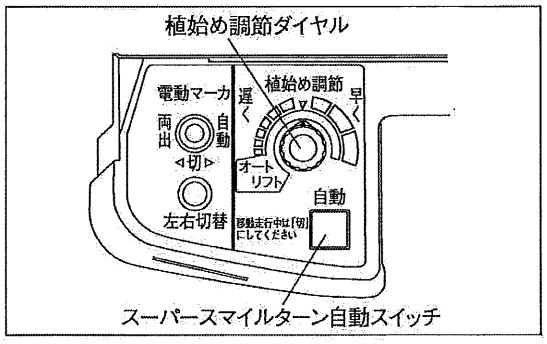


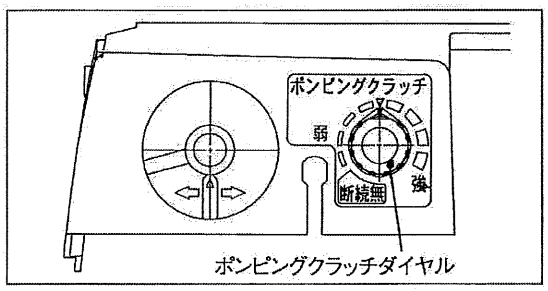
3.3.11 スーパースマイルターン自動スイッチ

ステアリング（ハンドル）を回し、旋回するだけで、自動で植付部を「上げ」「下げ」し、植付スタート位置まで進むと、自動で植付クラッチを「入」にするスイッチです。

補 足

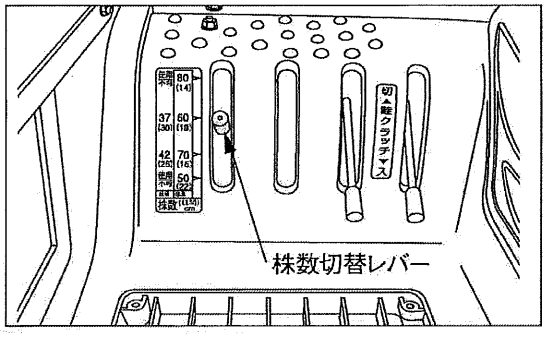
- スーパースマイルターンが作動しないときは、スイッチを「入」にしても点滅します。
- 電動マーカが自動になっていないとスーパースマイルターンは作動しません。
- ポンピングクラッチダイヤルが、「断続無」位置以外の位置にあると、旋回が大まわりになり、植えはじめはそろいません。





3.3.12 株数切替レバー

(1) 植付株数の切り替えをするレバーです。
(2) レバーの前後操作により植付株数が変わります。



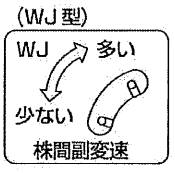
3.3.13 株間副変速レバー

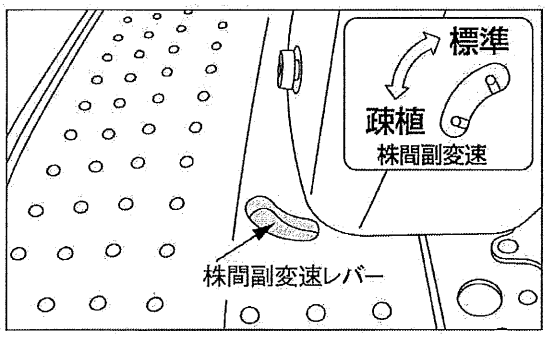
(1) 植付株間の切り替えをするレバーです。
(2) レバーを回すことにより植付株間が変わります。

補 足

- 希望の植付株数になるように、株数切替レバーおよび株間副変速レバーを、表示ラベルの株数の位置に合せてください。

(WJ型)





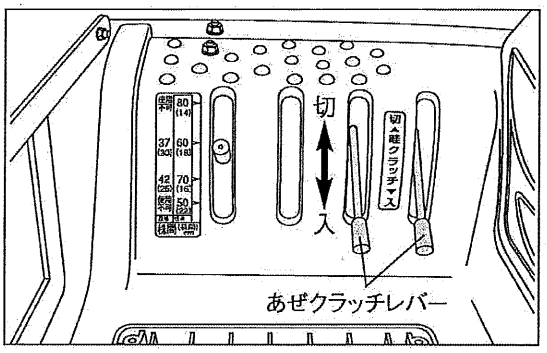
⚠ 注 意

株間副変速レバーを「疎植」位置にすると、疎植制御機構により6段目までしか操作できません。(WJ型を除きます)

※ 無理に作動させると主変速レバー、株間副変速レバーの損傷につながります。

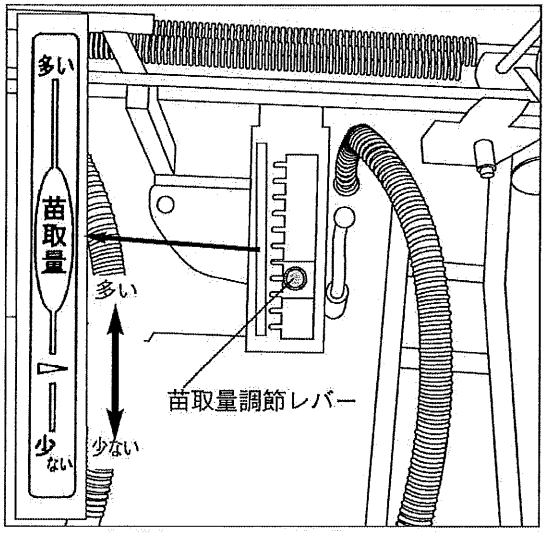
3.3.14 あぜクラッチレバー

(1) 2条ごとの植付を停止させるレバーです。
(2) 植えじまいの植付条数の調整や変形ほ場での植付時に使用します。
(3) レバーが「切」状態の場合、畦クラッチ「切」モニターが点滅します。



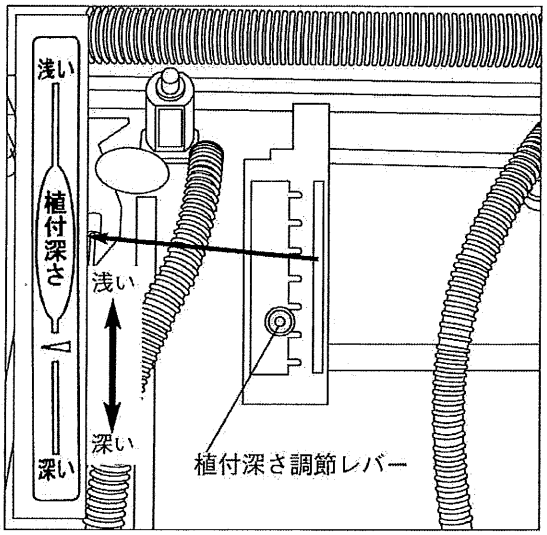
3.3.15 苗取量調節レバー

(1) 全条の苗取量を一度に調節するレバーです。
(2) レバーを上の溝にセットすると苗取量は多くなり、下の溝にセットすると苗取量は少なくなります。



3.3.16 植付深さ調節レバー

(1) 植付深さを調節するレバーです。
(2) レバーを上の溝にセットすると浅植えとなり、下の溝にセットすると深植えとなります。

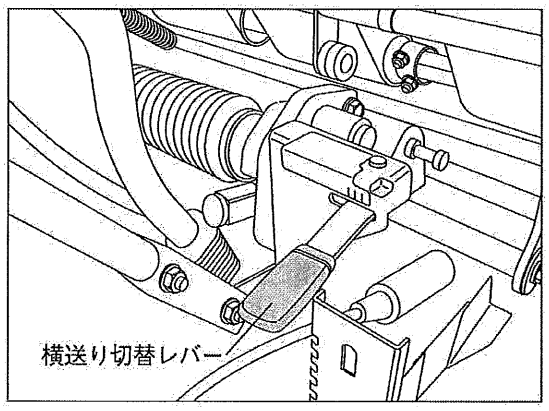


3.3.17 横送りレバー

⚠ 注 意

切り替えはエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

横送り量の切り替えを行うレバーです。

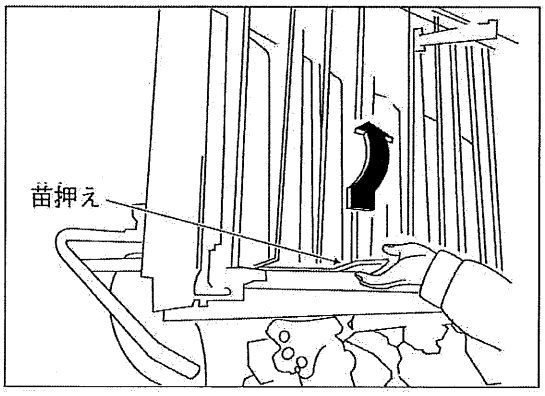


3.3.18 苗押え

⚠ 注 意

苗の取り出しは、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

残り苗を取り出すときに、苗押えを上に引き抜き上側に回すと苗が取り出しやすくなります。



3.3.19 苗ストッパ

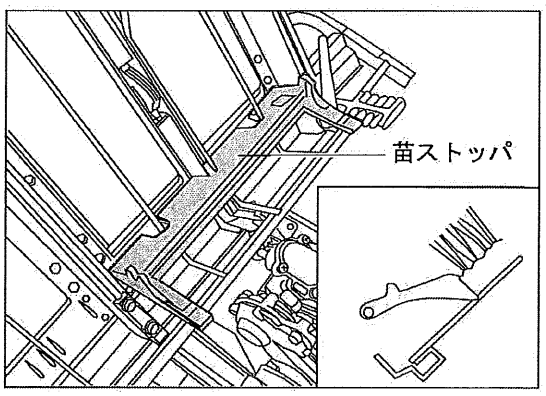
注 意

苗ストッパを使用した後は、必ずもとの位置に戻してください。

(1) 1条ごとに植付を停止したいときに使用します。あぜクラッチレバーと組み合せて使用してください。

補 足

- 苗ストッパは苗のせ台の中央に収納します。

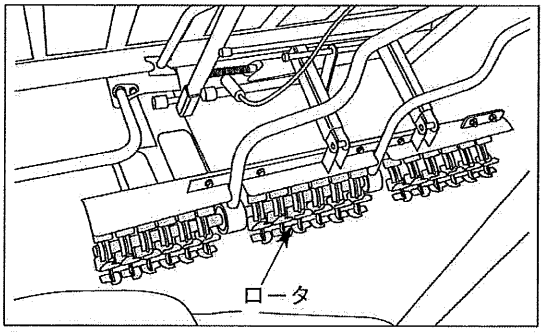


3.3.20 ロータ

・植付けをすると同時に田面をならし均一にします。

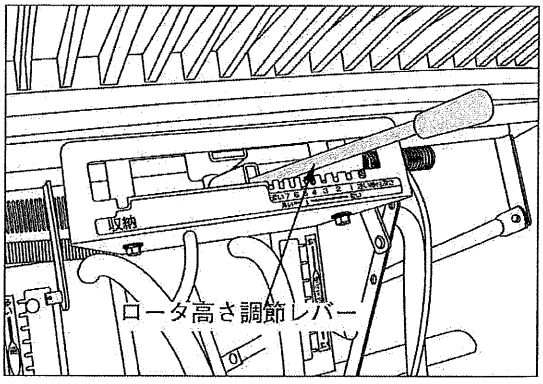
補 足

- ロータは後車輪に連動していますので、走行すると回転します。
- ロータ駆動は植付部の昇降と連動してクラッチの「入」「切」をします。
  フロート底面高さ約40cm以下でロータが回転します。



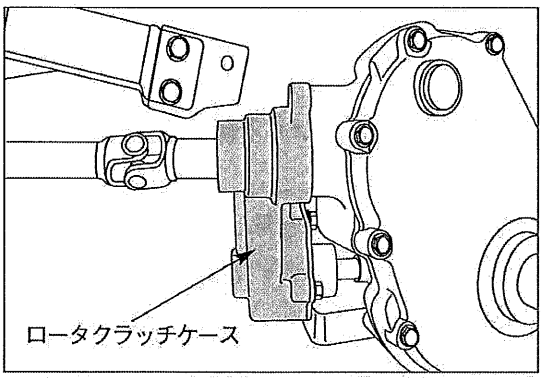
3.3.21 ロータ高さ調節レバー

・ロータの入り切りと、ロータの高さを調節するときに使います。
・ロータを停止したい場合には、レバーを「収納」位置にしてください。



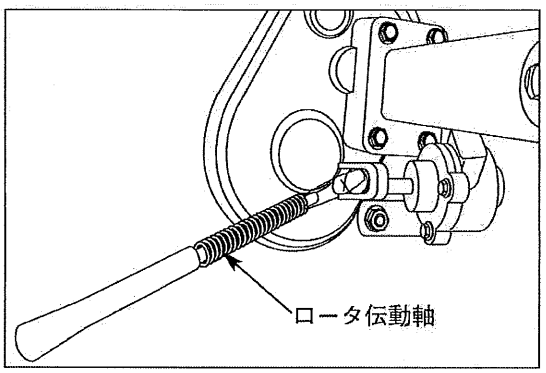
3.3.22 ロータクラッチケース

・後輪伝動軸から分岐してロータを回転させます。
この中にクラッチ「入」「切」機構が入っています。



3.3.23 ロータ伝動軸

・後輪軸からの回転をロータに伝えます。



4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、田植機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険

給油、注油および点検整備は、エンジン等の過熱部分が十分冷えてから行ってください。
※　守らないと、やけど等の原因となります。

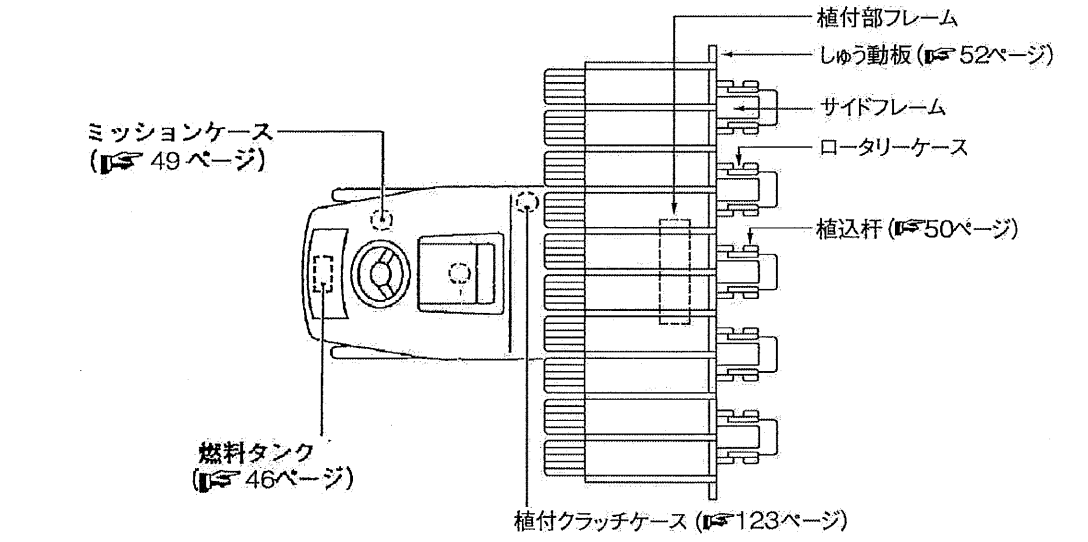
給油、注油および点検整備するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※　守らないと、火災の原因となります。

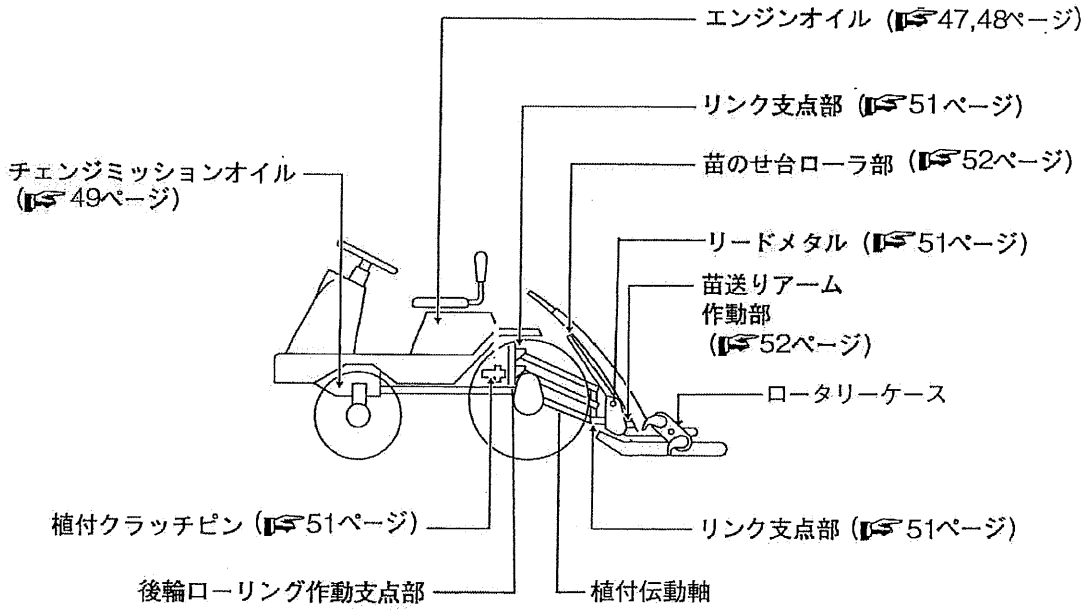
⚠ 警告

給油、注油および点検整備するときは、田植機を平たんな広い場所に置いてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

給油、注油および点検整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキ（停車ペダルを踏込んでロック）をかけ、植付部を降ろすか、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にし植付部の油圧を固定してから行ってください。
※　守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

4.1 給油、注油箇所の点検と補給





4.1.1 燃料

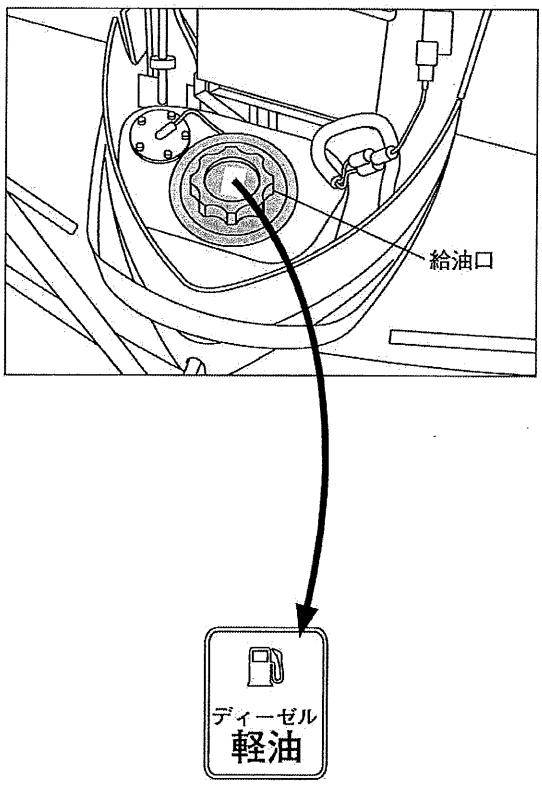
⚠ 危険

燃料を補給するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

燃料を補給するときは、エンジンを停止し過熱部分が十分冷えてから行ってください。
※ 燃料のつぎこぼし等により、火災の原因となります。

燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。
※ こぼしたままエンジンを始動すると引火し、火災の原因となります。

タンクキャップを開け、給油口よりディーゼル軽油を給油してください。



補 足

- 燃料タンクの容量は141ページを参照してください。

給油後はタンクキャップを閉めてください。

- ディーゼル軽油には下表の種類があり、地域・季節により流通している種類が異なります。使用時期に合わせ、地域・季節に見合ったものを使用してください。

種 類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特1号	+5以下
1号	−2.5以下
2号	−7.5以下
3号	−20以下
特3号	−30以下

（JIS規格より抜粋）

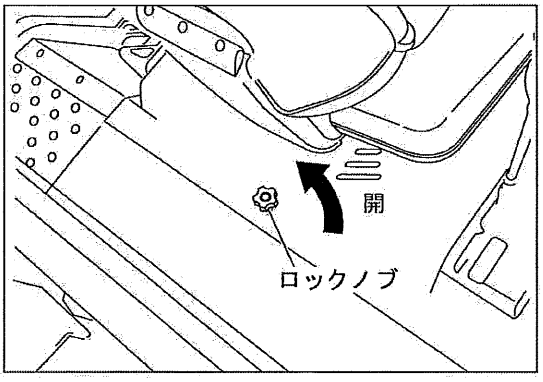
流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり、凍結などにより始動できなくなる事があります。

4.1.2 エンジンオイル

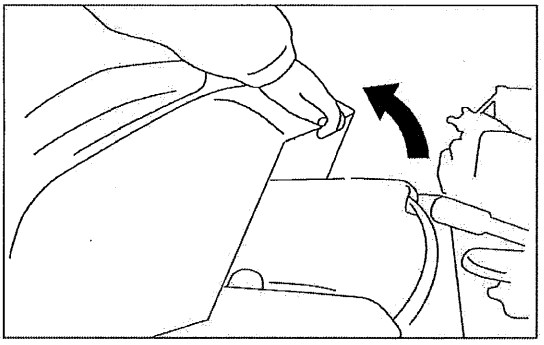
⚠ 注 意

エンジンオイルの点検・補給は、必ずメインスイッチを「切」にしてエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。
※ これを怠ると、やけどをするおそれがあります。

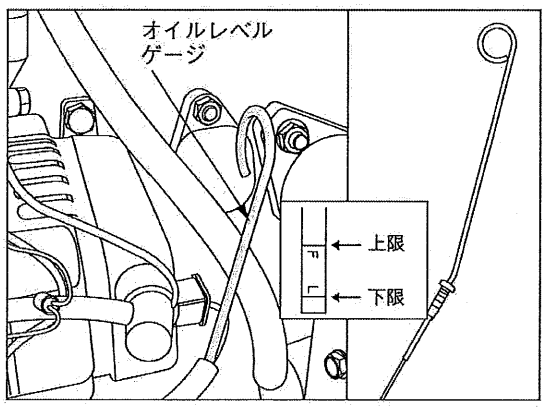
1 エンジンカバー後方のロックノブを回してください。



2 エンジンカバーを開けてください。



3 オイルレベルゲージの上下刻線の間に油量があるか調べます。



4 「下限」以下の場合は純正オイルを補給してください。

機種	搭載エンジン	オイル量
LR103D	E3112（ディーゼル）	3.5L（オイルフィルタ交換時 3.7L）

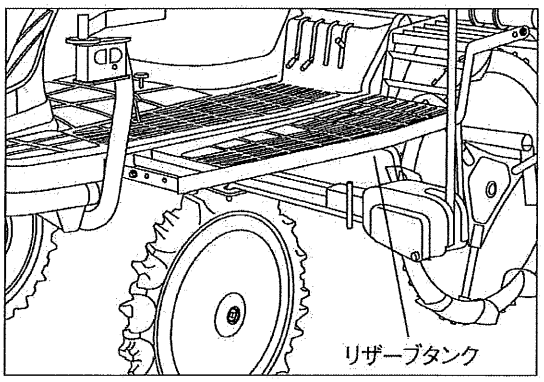
5 エンジンカバーを閉めてください。

4.1.3 冷却水

⚠ 警告

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

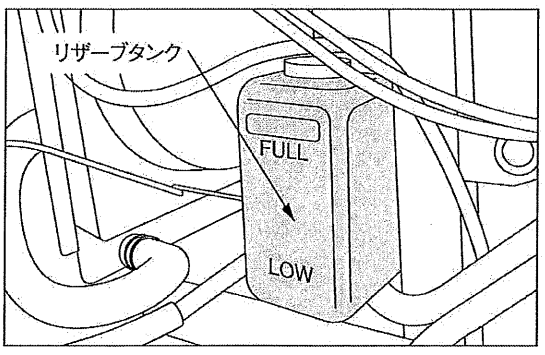
1 エンジン後部にあるリザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内（FULL←→LOW）にあるかどうか点検し、少ない場合は補給してください。



補 足

- **冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。**
- **冷却水を補給する際はP118の不凍液の使い方注意事項を参照してください。**

2 点検後はリザーブタンクのキャップを確実に閉め、エンジンカバーを閉じてください。

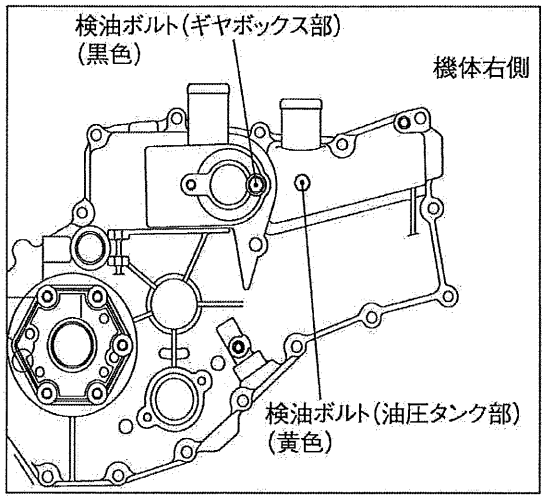


4.1.4 チェンジミッションオイル

■点検

1 検油ボルトを外し、検油口からオイルが出るか確認してください。

2 確認が終わったら、検油ボルトを元どおりにしてください。



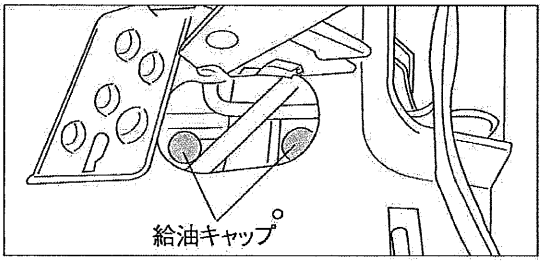
■補給

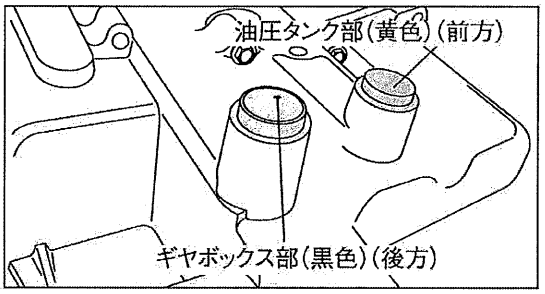
1 油量が少ない場合は、給油口のキャップを外し、検油口からオイルが流れ出すまで、給油口から補給してください。

2 給油が終わったら、キャップを元どおりにしてください。

補 足

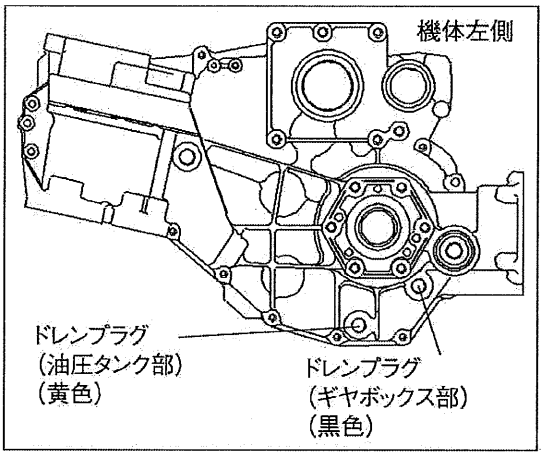
- 給油時・検油時は、植付部を降してください。
  油圧タンク部（キャップ黄色）は、スーパーマルチSTOUオイル（SAE10W-30, SD/CD/GL-4）を給油してください。
- ギヤボックス部（キャップ黒色）は純正油又はAPI・GL-4級以上、SAE80Wを給油してください。





■オイルの排出ドレン位置

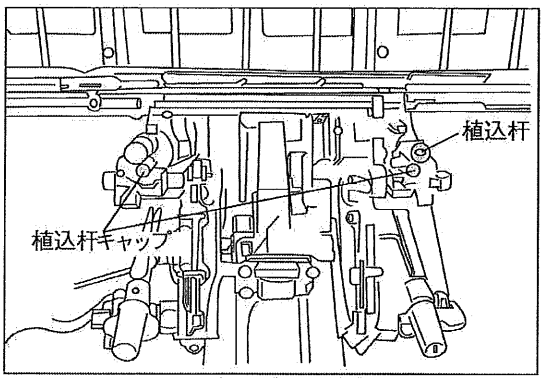
『7.1 定期的な点検整備』の項目の注意事項を確認のうえ、点検整備を実施してください。



4.1.5 植込杆

■点検

植込杆キャップを取り外し、植込杆の中にグリースがあるか確認してください。
確認後は植込杆キャップを取り付けてください。



■補給

油量が少ない場合は、グリースを適量補給してください。
補給後は植込杆キャップを取り付けてください。

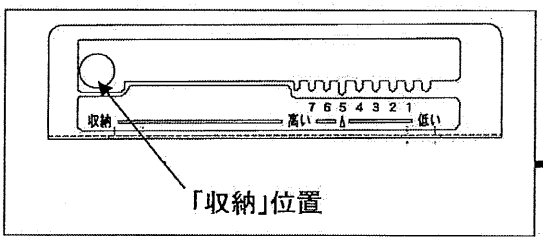
補 足

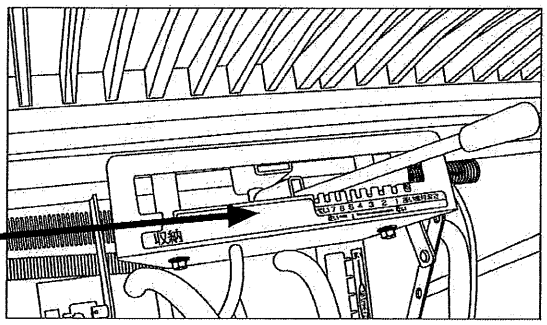
- グリースがほとんどない場合は17.5cc程度補給してください。
- 一週間に1回を目安に、グリースを補給してください。

4.1.6 ロータ

■ロータ高さ調節レバー

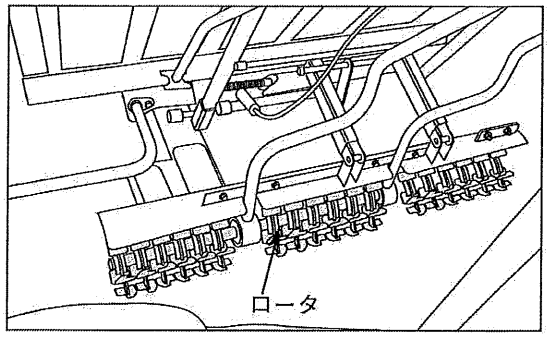
・レバーが確実に「収納」位置に来ることを確認してください。





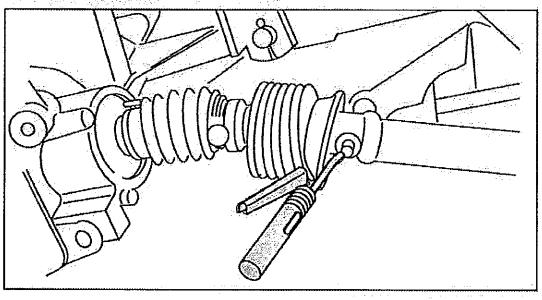
■ロータ

・ロータが摩耗していないか、ロータに異物が巻きこんでいないか確認してください。
巻付きがある場合は取り除いてください。

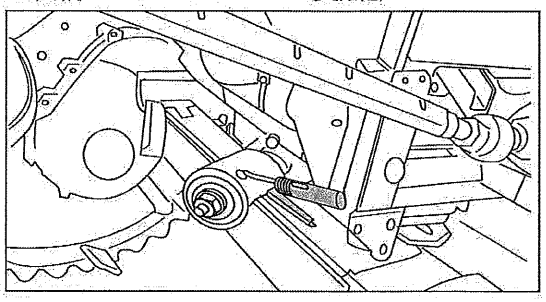


4.1.7 グリース注入箇所（グリースニップル）

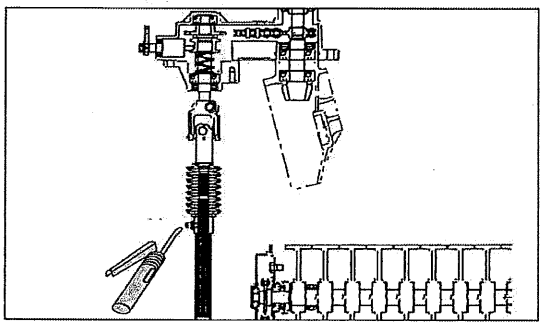
■植付伝動軸シャフト部



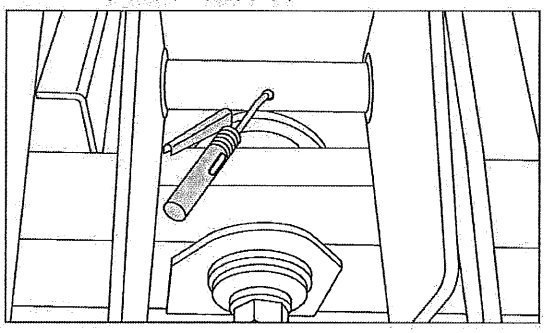
■後輪ローリングフレーム支点部



■ロータ伝動軸シャフト部



■リンク支点部（前方下）

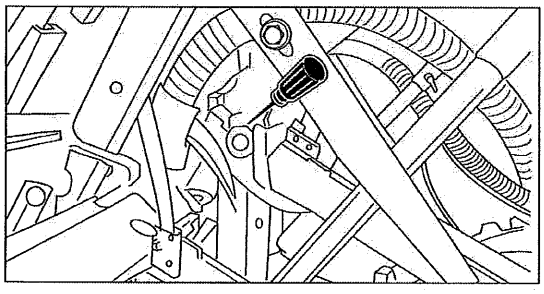


4.1.8 オイル注油箇所

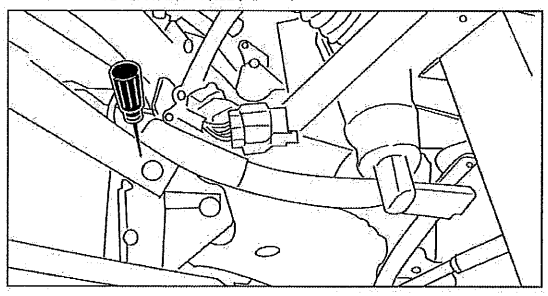
補 足

● 注油箇所には目印として黄色の塗料が塗ってあります。

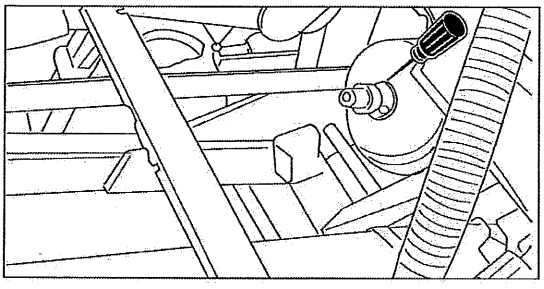
■リンク支点部（後方）



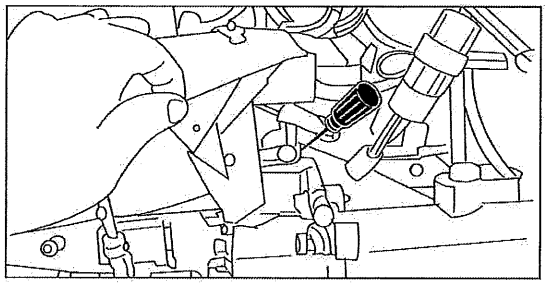
■リンク支点部（前方上）



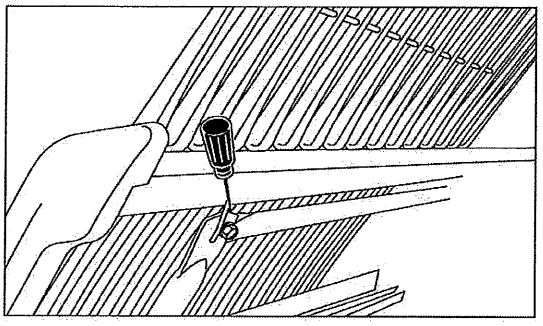
■スプリングケースしゅう動部、支点軸部



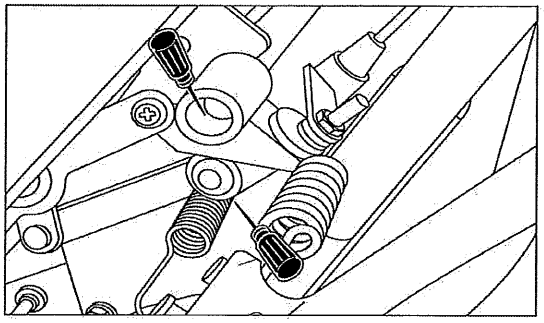
■植付クラッチピン作動支点部

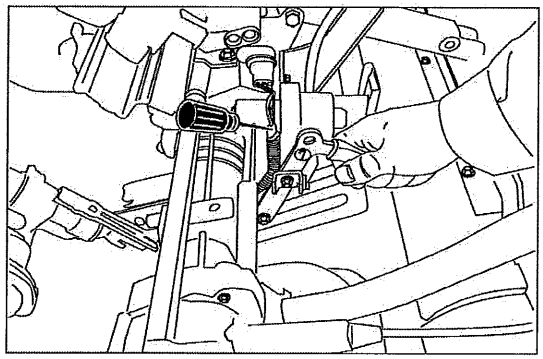


■苗のせ台ローラ部

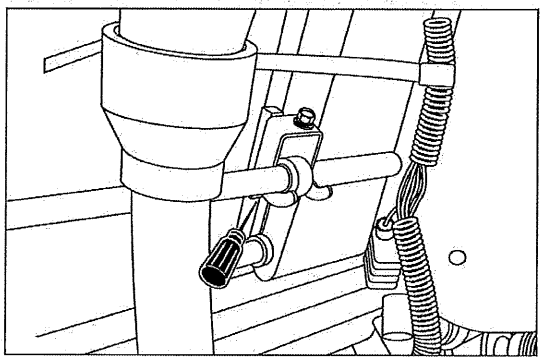


■ホルダ（カウンタ）受け部





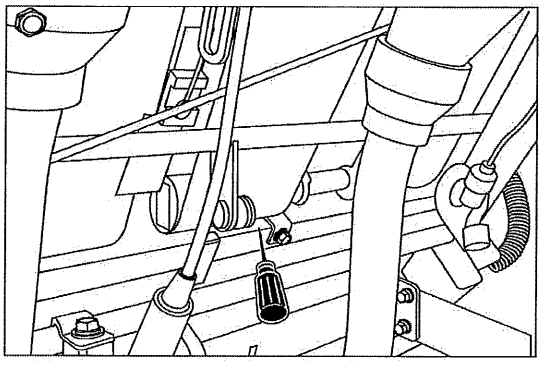
■カウンタシャフト（苗送り）軸受け部



■苗送りアーム、カム関係

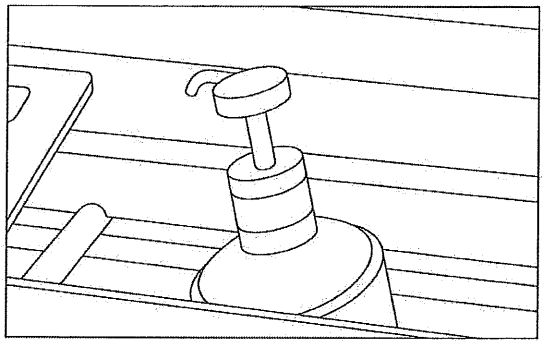
回動部に十分注油してください。(左右各1箇所ずつ)

ローラの注油穴に十分注油してください。
(左右各2箇所ずつ)

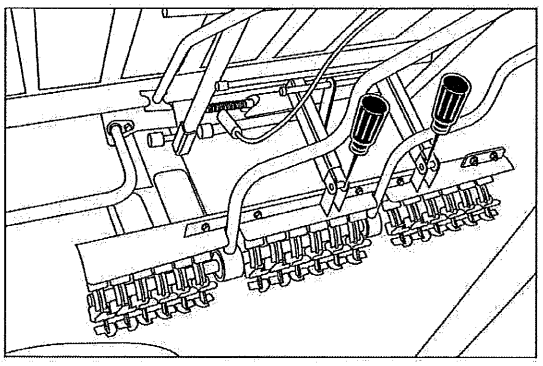


■しゅう動板

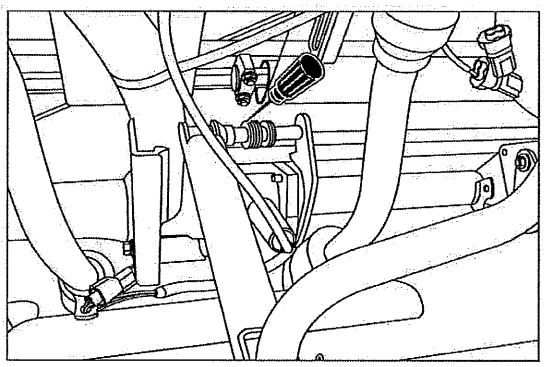
1日1回、給油ポンプを2～3回押して、注油してください。
使用後はポンプのキャップをいっぱいまで引き上げてください。
引き上げないと、油が流れ出る恐れがあります。



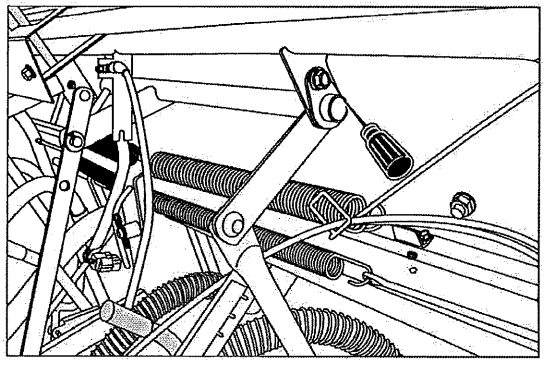
■フレーム回動部（ロータ仕様機）



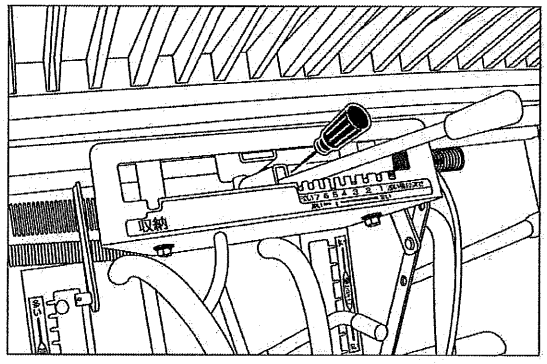
■アーム（ロータシジ）の回動部（ロータ仕様機）



■フレーム回動部（ロータ仕様機）



■レバー根元の回動部（ロータ仕様機）
■レバー根元の摺動部にはグリースを塗布。



5. 運転のしかた

⚠ 警告

始動する前に保護カバー類が取り付けてあるか確認してください。
※　カバー類を取り付けていないと、田植機に巻きこまれ傷害事故の原因となります。

室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行ってください。
※　換気が悪いと排気ガスによる中毒の原因となります。

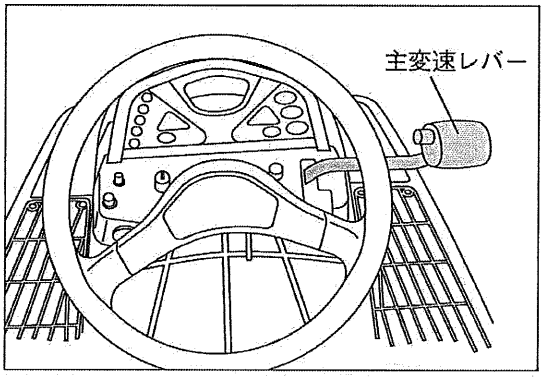
エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。
※　確認を怠ると、急発進したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

5.1　エンジンの始動と停止のしかた

5.1.1　エンジンの始動

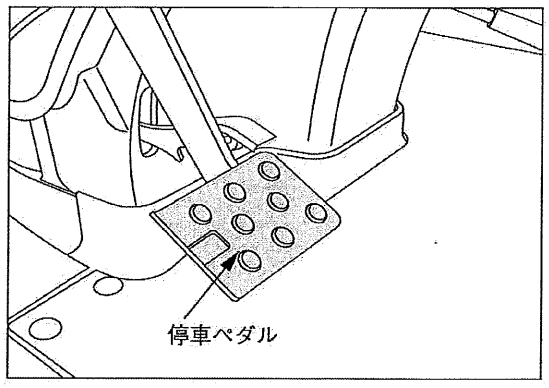
1 主変速レバーを「中立」(「●」の位置) 位置にします。



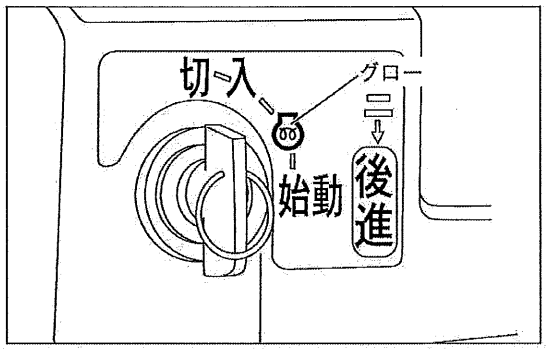
2 停車ペダルを踏み込んでロック状態にしてください。

補 足

- 停車ペダルを踏み込まないと、エンジンは始動しません。
- エンジンが始動しにくいときは、アクセルペダルを踏み込み始動してください。



3 エンジンが冷えている状態で始動するときは、メインスイッチを「グロー」位置に回し、5～10秒間予熱してください。



4 メインスイッチを「始動」位置に回します。

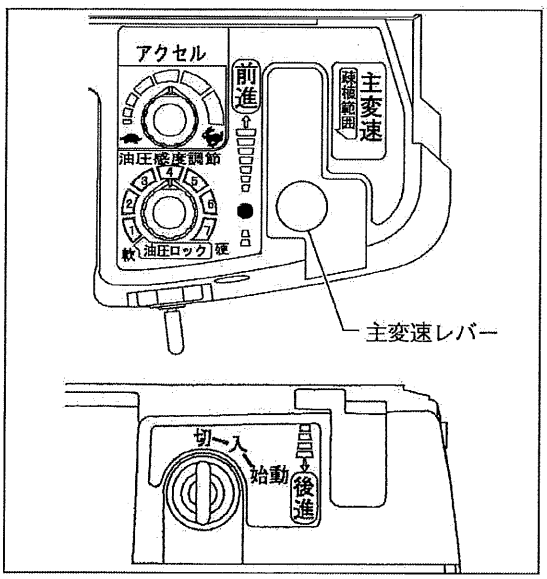
5 エンジンが始動したら、ただちにメインスイッチから手を離してください。

補 足

- 10秒以内に始動しなかった場合は、メインスイッチをいったん「切」位置に戻して、30秒程度休止してから再び同じ操作を練り返してください。
- エンジンが始動しているにもかかわらず、メインスイッチを回し続けたり運転中にメインスイッチを回さないようにしてください。エンジンが始動しにくい時は、アクセルペダルを踏み込んでください。

5.1.2 エンジンの停止

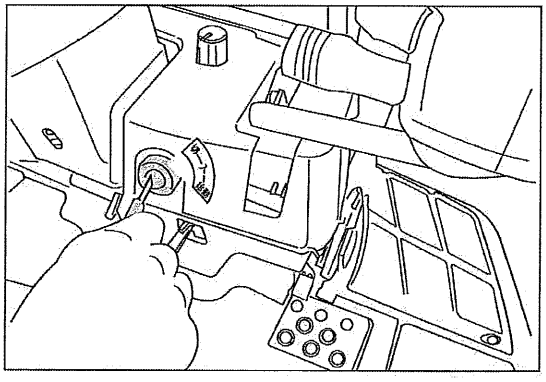
1 主変速レバーを「中立」(「●」の位置) に戻します。
(エンジン回転が下がります。)



2 メインスイッチを「切」位置にするとエンジンは停止します。

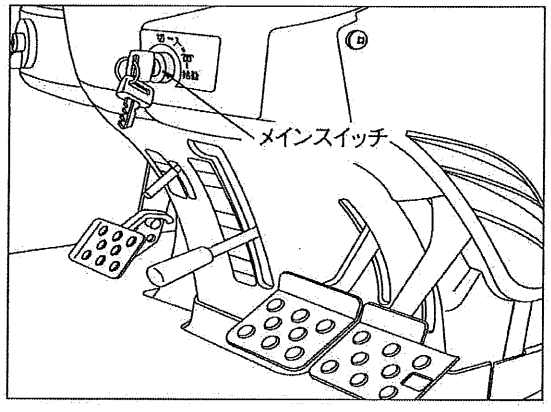
補 足

- **エンジンを高速回転のまま停止しないでください。**
- **メインスイッチを「入」位置のまま放置するとバッテリーを放電させてしまいます。エンジン停止後はメインスイッチ（キー）を外す習慣をつけてください。**



5.1.3 燃料のエアー抜きのしかた

燃料タンクが空になり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まってしまいます。もし、このようなことが起こったら燃料を満タンにしたうえで、メインスイッチを「入」位置のままで20~30秒まってから「始動」位置にしてください。自動的にエアー抜きが行われ、エンジンがかかります。



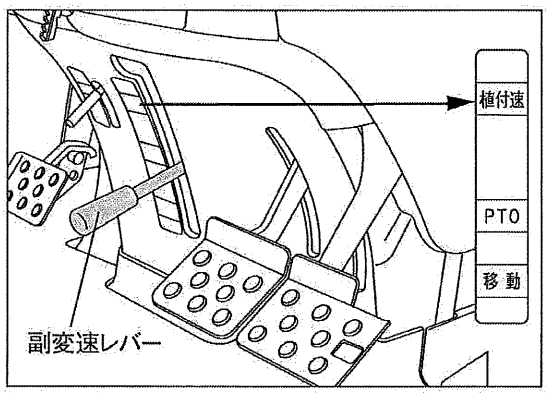
1 エンジンの始動手順に従って、メインスイッチを「入」の位置にし、20~30秒待った後、メインスイッチを「始動」にします。

2 エンジンが始動するまで数回「始動」操作をします。

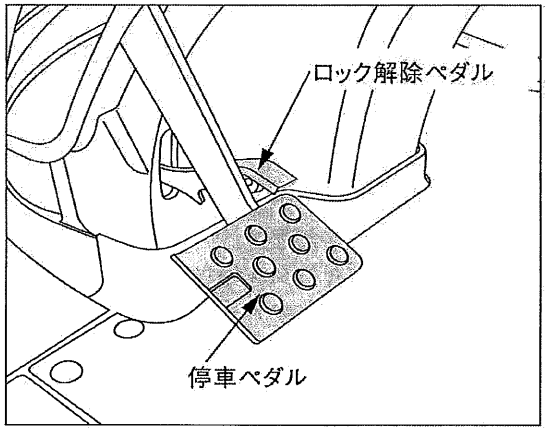
5.2 発進、停止、駐車のしかた

5.2.1 発進のしかた

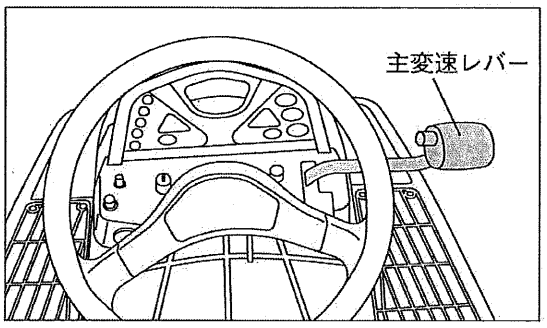
1 副変速レバーを作業に合った位置にしてください。



2 停車ペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、徐々に離してください。



3 主変速レバーを徐々に動かして発進してください。
主変速レバーに連動して、エンジン回転も上がります。
任意にエンジン回転を上げたい時は、アクセルペダルを踏み込んでください。



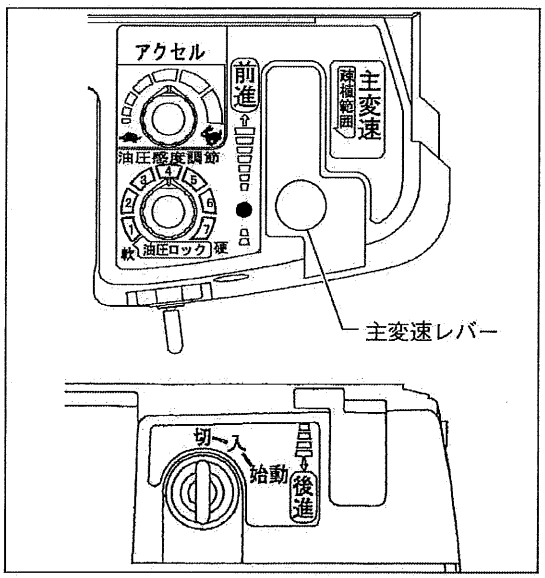
5.2.2 停止のしかた

⚠ 警 告

急ブレーキは、緊急時以外はさけてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

主変速レバーはゆっくり減速してください。
※ 急減速すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

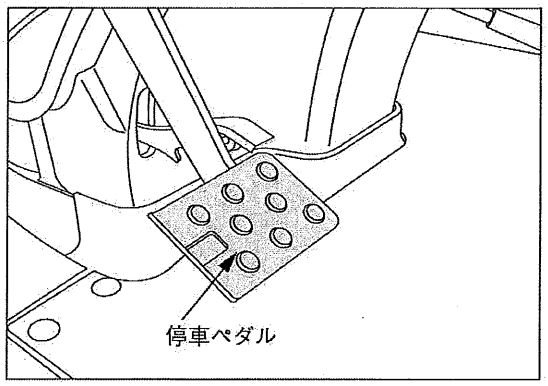
1 主変速レバーをゆっくり「中立」(「●」の位置) に戻してください。主変速レバーに連動して、エンジン回転も下がります。



2 停車ペダルを踏み込みます。

補 足

- **停車ペダルを踏み込むと主変速レバーが「中立」(「●」の位置) 位置に連動して移動します。**



5.2.3 駐車のしかた

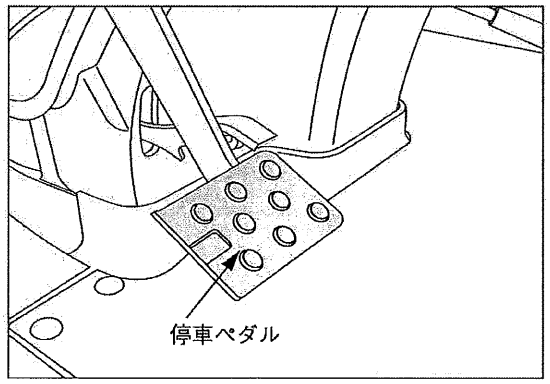
⚠ 警告

駐車時、植付部は下げておいてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

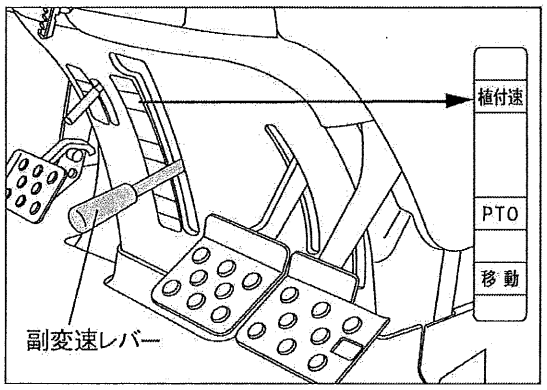
坂道で駐車する場合は、車輪に必ず車輪止めをしてください。
※ 守らないと、田植機が自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 エンジンを停止してください。

2 停車ペダルをいっぱい踏み込みロックしてください。



3 副変速レバーを「植付速」位置にしてください。



5.3 移動、運搬のしかた

5.3.1 走行のしかた

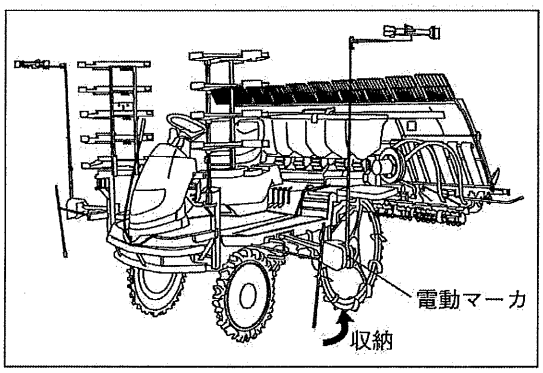
⚠ 注 意

走行するときは、エンジン回転を落とし主変速レバーは低速にしてください。
また、ミラクルスマイルターン・スーパースマイルターン自動スイッチは必ず「切」にしてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

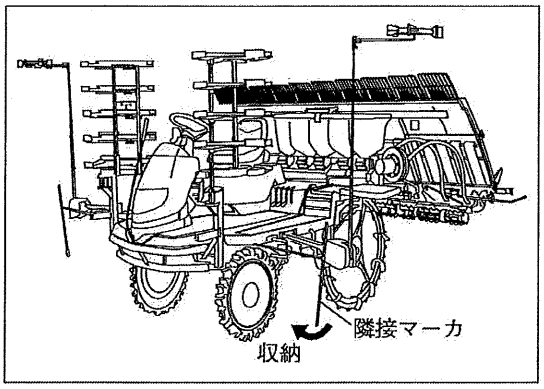
⚠ 警 告

ほ場の出入口等の傾斜面で副変速レバーを「PTO」にしないでください。
※ 田植機が自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

1 電動マーカを収納してください。

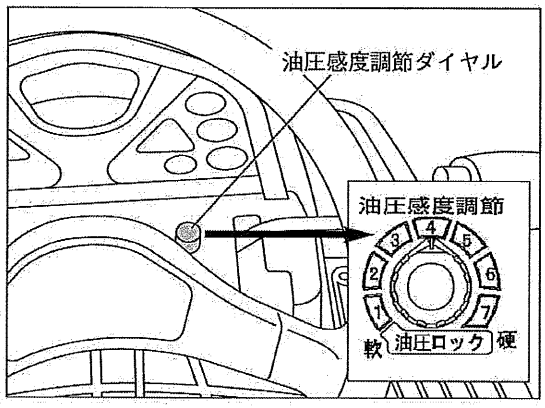


2 隣接マーカを収納してください。

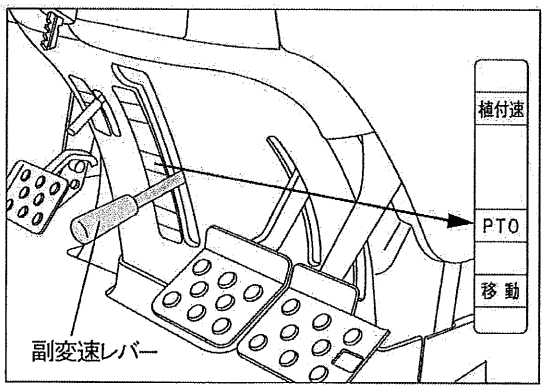


3 エンジン始動状態で植付昇降レバー（ ☞ 34ページ）を上に操作して、植付部をいっぱいまで上げてください。

4 油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしてください。

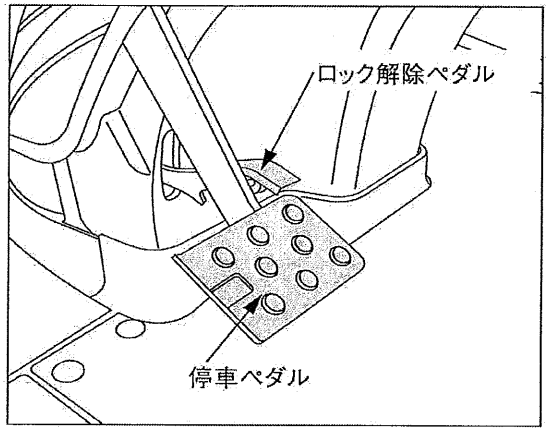


5 苗のせ台を機体中央位置にするために、副変速レバーを「ＰＴＯ」位置にしてください。



6 植付入切スイッチ（ ☞ 34ページ）を操作して、植付クラッチを「入」にしてください。

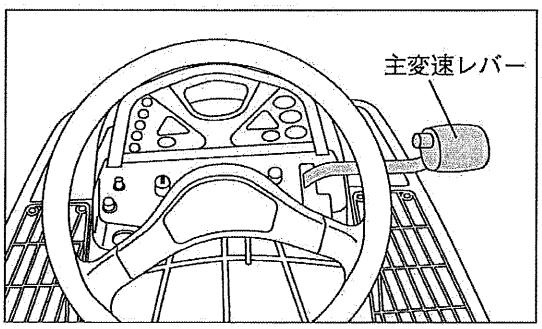
7 停車ペダルを解除し主変速レバーを前進側に動かし、苗のせ台が機体中央にきたら、植付入切スイッチを押して植付クラッチを「切」にして、主変速レバーを「中立」(「●」の位置）まで戻してください。



8 走行場所に合わせて、副変速レバーをセットし、主変速レバーをゆっくり動かしてください。

補 足

- **走行中は停車ペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。**



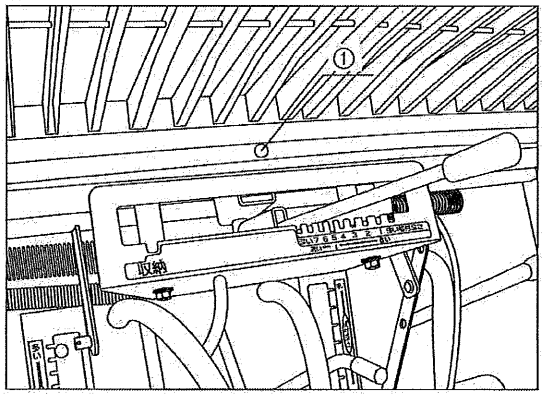
5.3.2 植付部ユニットの収納のしかた

LR103Dは、植付ユニットをコンパクトに折りたたむことができます。
次の要領で行ってください。

1 植込杆を回して、苗のせ台を機体中央位置に移動させてください。

補 足

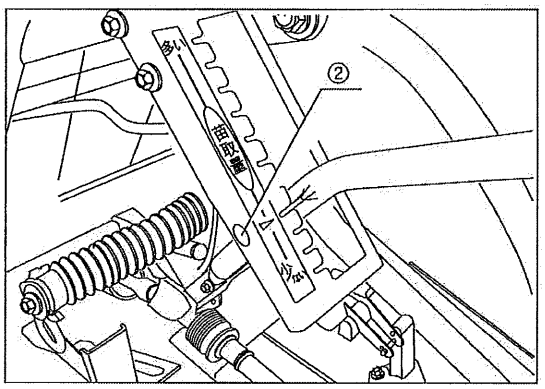
- **苗のせ台が機体中央位置に合っていないと、折りたたみができません。**



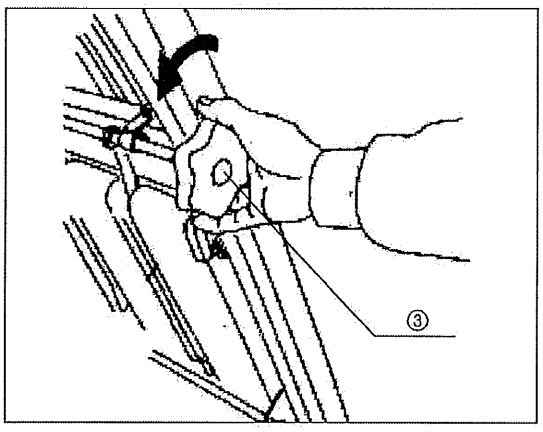
2 苗取量調整レバー、植付深さレバーを標準の位置②にしてください。

補 足

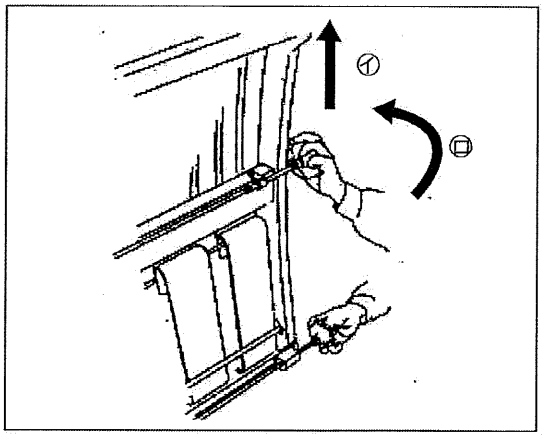
- **植付深さレバーが標準位置にないと植付ユニット折りたたみ、作業状態セット時に回動できません。**



3 苗のせ台両端のノブ③を緩めてください。
(左右各2ヵ所)



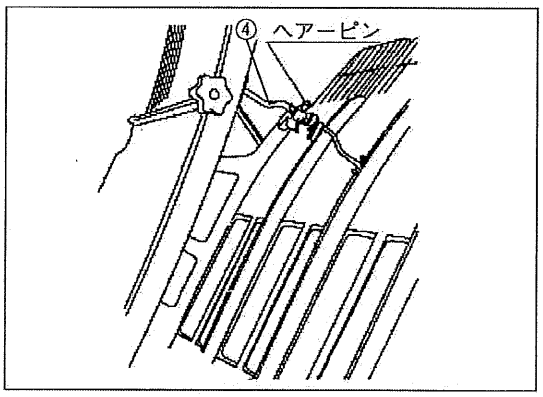
4 両端の苗のせ台を上側㋑に引き上げ、後方㋺に反転させてください。



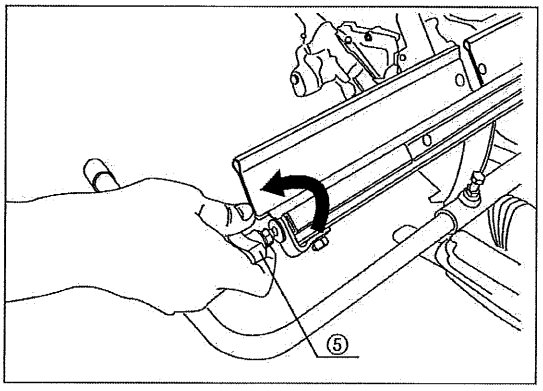
5 回動苗のせ台は、案内ガイド④内にピンを差し込み、ヘアーピンで固定してください。

補 足

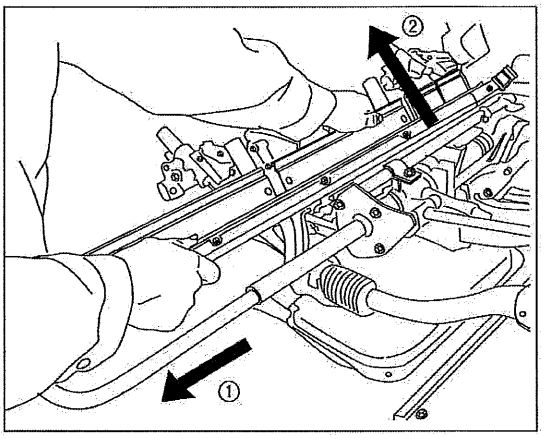
- **収納時には、必ず回動苗のせ台をヘアーピンで固定してください。**



6 しゅう動板両端のノブ⑤をゆるめてください。



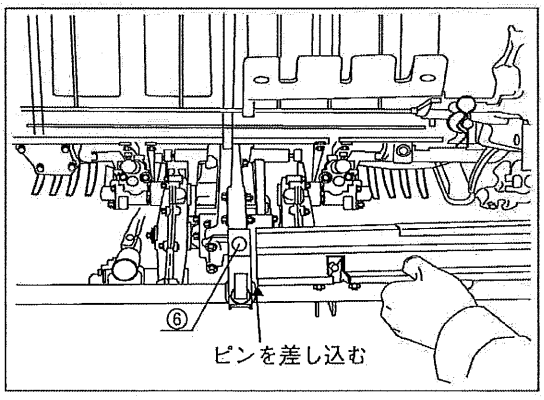
7 しゅう動板を外側方向へ引き、上方へ持ち上げ、しゅう動板を取り外してください。



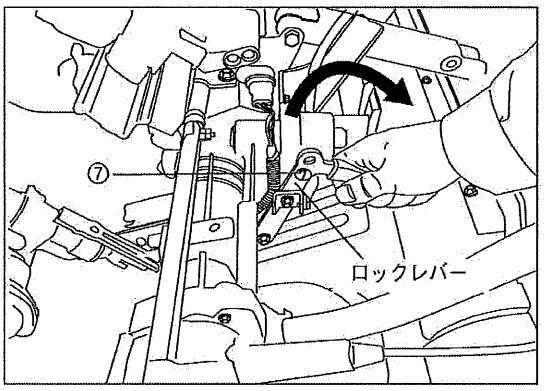
8 取り外したしゅう動板は、植込杆後方のしゅう動板ステーに、ピン⑥を差し込み、磁力でしゅう動板を固定してください。

補 足

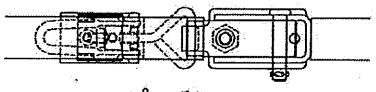
- **しゅう動板を収納する時は、必ずピンを差し込んでください。磁力のみで固定すると、運搬時、しゅう動板が落下することがあります。**



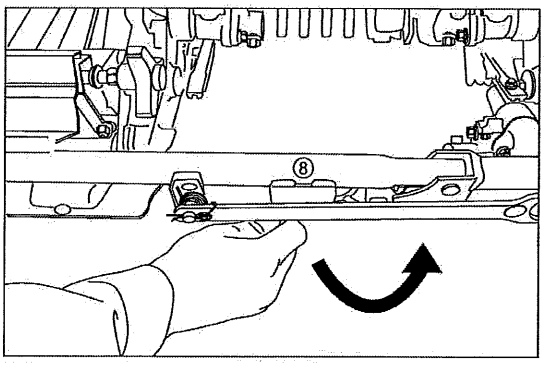
9 回動ロックレバー⑦を押し下げ、植付ユニットの固定を解除してください。



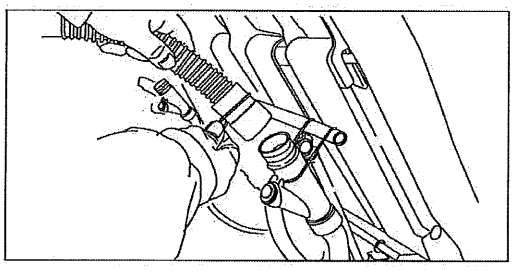
10 植付ユニット後方のパッチン⑧を下方に押し、回動支点部のロックを解除してください。

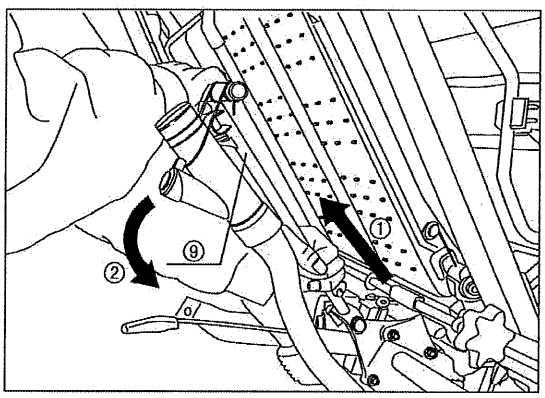


パッチン



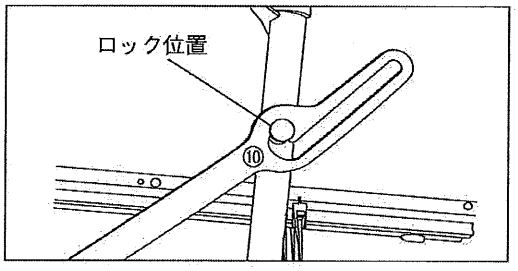
11 施肥ホースをはずし（R型のみ）、施肥ホーステー⑨を機体中央側へ押し、ロックを解除し施肥ホーステーを前方へ倒してください。

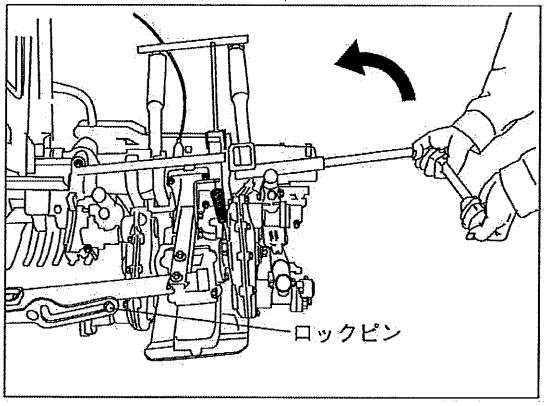




施肥機付きは、施肥ホースをはずす。

12 しゅう動板ガードを持ち、植付ユニットを上方に持ち上げ、ピンがロック⑩されるまで回動させてください。





⚠ 警告

回動ロックピンは、植付ユニットの位置が合えば自動的に入り込み、ロックされる構造となっていますが、確実に回動ロックピンがロックしたことを確認するまで、絶対にしゅう動板ガードから手を離さないでください。

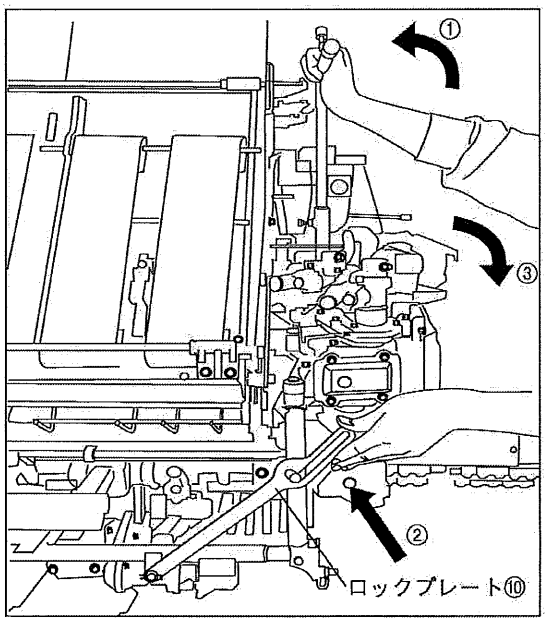
※　これを怠ると、重大な傷害事故の原因となります。

■植付ユニットの作業状態へのセットのしかた

注 意

ロータを作業状態にセットした後に、植付ユニットを作業状態へセットしてください。
※　これを守らないと作業機を破損させることがあります。

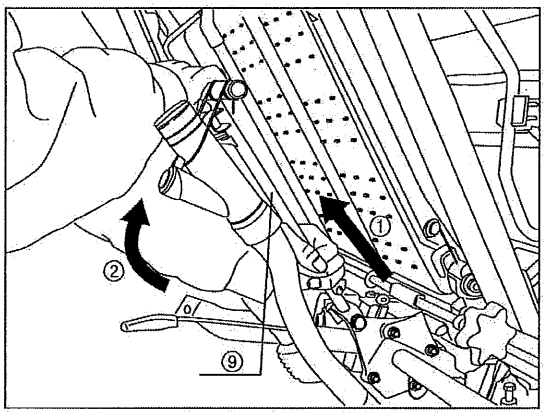
1 しゅう動板ガードを少し押し上げたまま、ロックプレート⑩を持ち上げロック解除し、植付ユニットをゆっくりと下ろしてください。



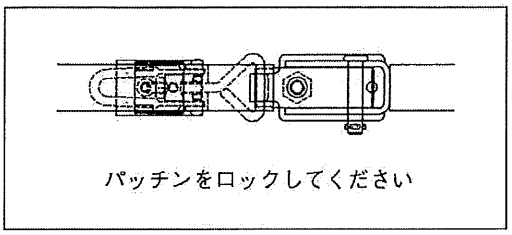
⚠ 警 告

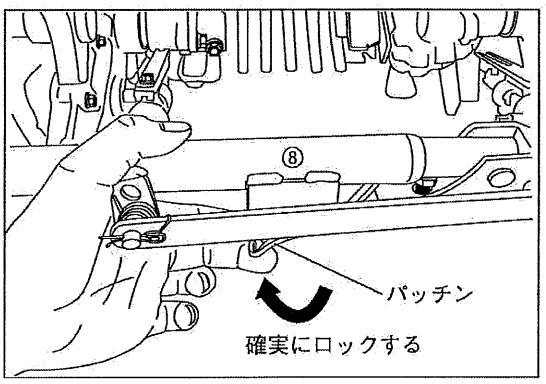
植付ユニットを作業状態にセットする時は、しゅう動板ガードを手で持った後、ロックプレートを持ち上げ、ロックを解除してください。
※　これを怠ると、重大な傷害事故の原因となります。

2 施肥ホーステー⑨を機体中央側へ押し、ロックを解除し施肥ホーステーをロックされる位置まで起こしてください。



3 植付ユニット後方のパッチン⑧を確実にロックしてください。

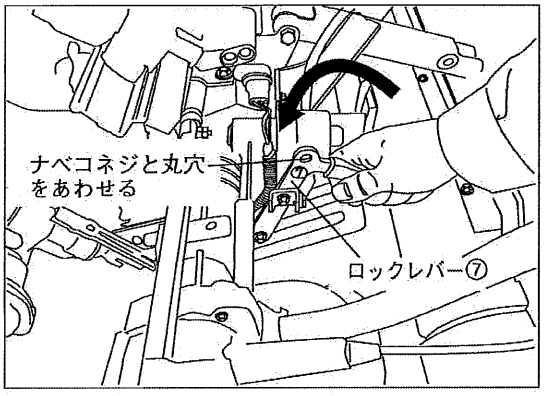




4 ロックレバー⑦を押し上げ、丸穴とナベコネジをあわせ、植付ユニットを確実にロックしてください。

補 足

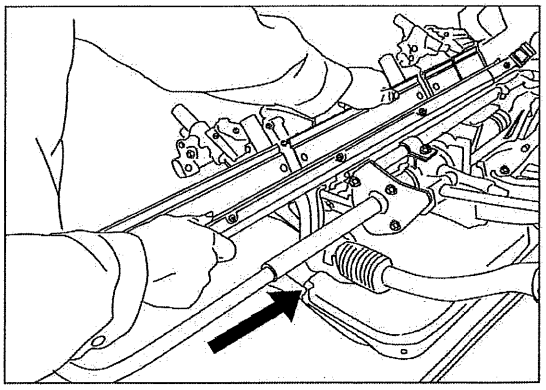
- **植付ユニットがロックされていないと、けん制スイッチの働きにより、植付クラッチ「入」「切」操作ができません。必ずロックしてください。**

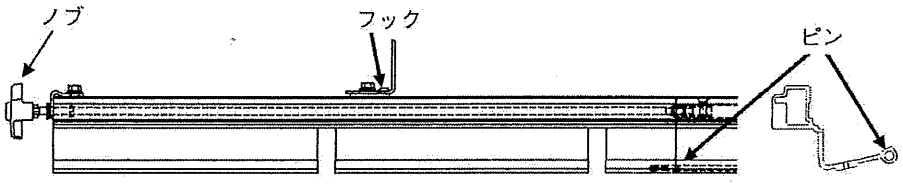


5 しゅう動板をステーから取り外し、ピンとフックを差し込みながら、植付ユニットに取り付けてください。

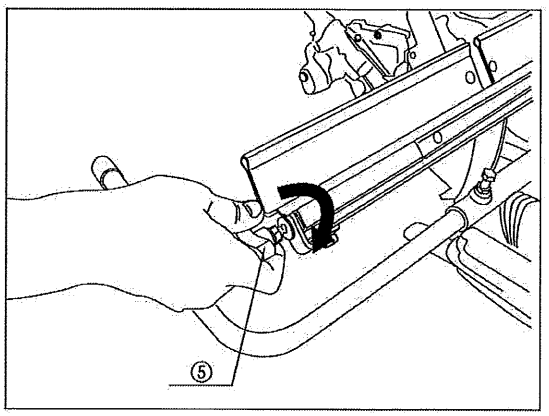
補 足

- **しゅう動板のピンとフックが確実に差し込まれていることを確認してください。これを怠ると作業機が破損することがあります。**





6 しゅう動板のノブ⑤をまわし、しっかりと締め込み、植付ユニットに確実に固定してください。



補足

- **しゅう動板のノブはしっかりと締め込んでください。これを怠ると作業機が破損することがあります。**

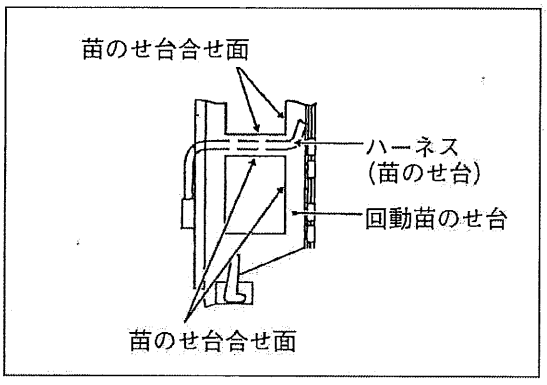
7 植え付け部収納手順の5-4-3の順で行い、回動苗のせ台をセットしてください。

注意

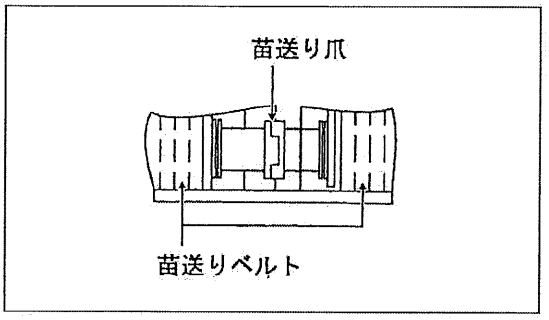
回動苗のせ台を作業状態にするときは、回動苗のせ台を下記取り扱いに注意してセットしてください。

※ 守らないと故障や苗送り不良の原因となります。

(1) ハーネス（苗のせ台）は、苗のせ台合せ面で挟み込まないようにしてください。

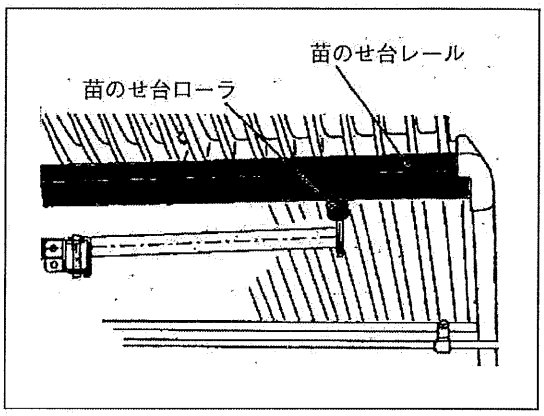


(2) 苗送り爪は、山と谷を噛み合せてください。
苗送りベルトを回転させると噛み合います。



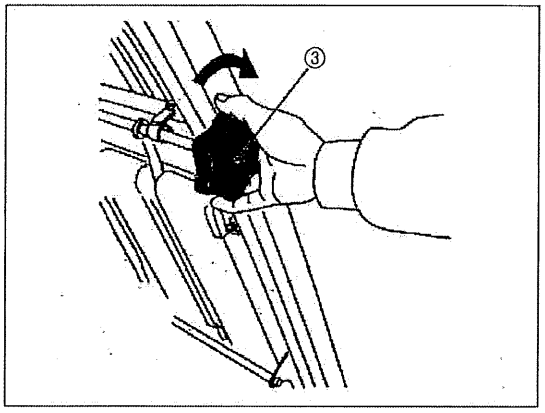
補 足

● 苗のせ台ローラは、苗のせ台レールに挿入してください。



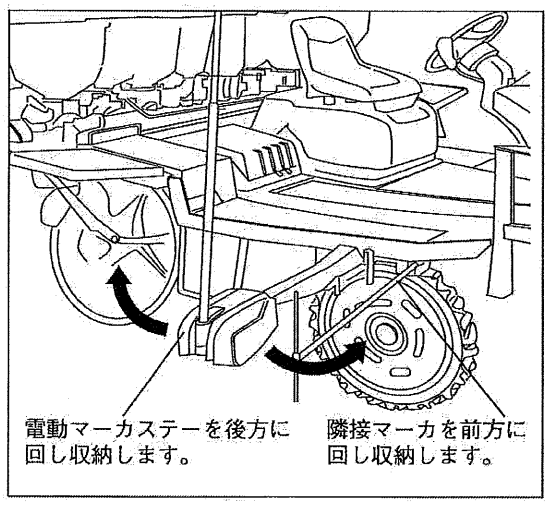
補 足

● 苗のせ台両端のノブ③は、しっかりと締め込んでください。



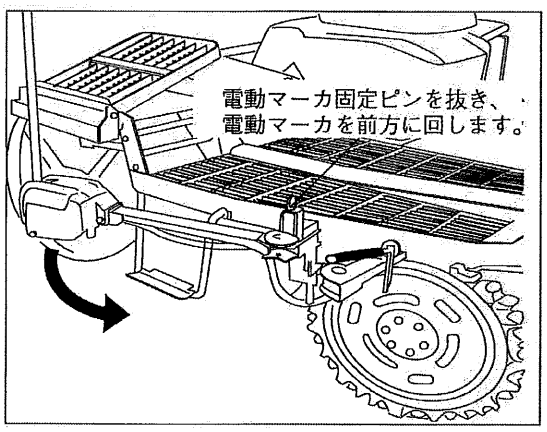
■隣接マーカの収納

隣接マーカを、前方に回し収納します。



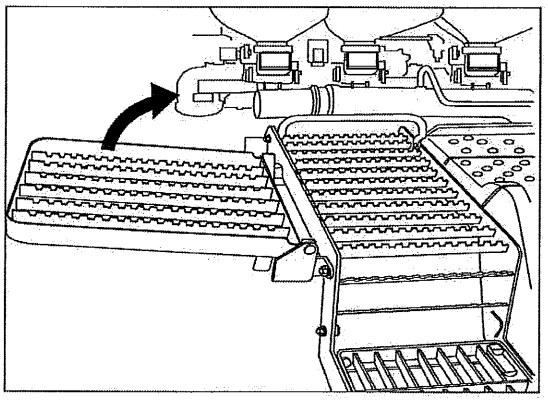
■電動マーカの収納

(1) 電動マーカステーを、後方に回し収納します。
(2) 電動マーカ固定ピンを抜き、電動マーカを前方に回します。



■補助ステップの収納のしかた

補助ステップを上方に回し収納してください。

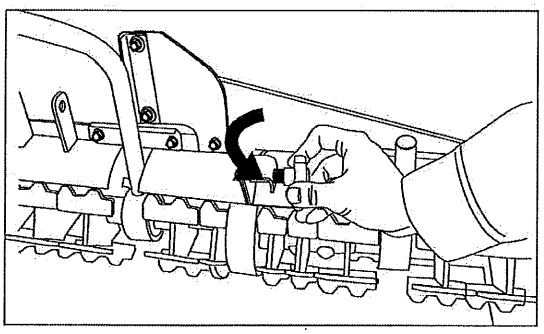


ロータの収納のしかた

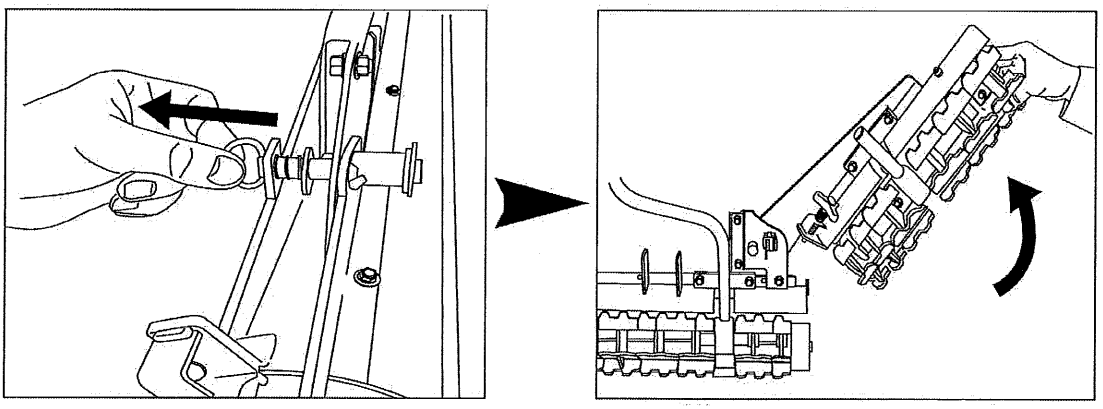
注意

植付ユニットを収納状態にした後、ロータの収納、および作業状態へのセットを行ってください。
※　これを守らないと作業機を破損させることがあります。

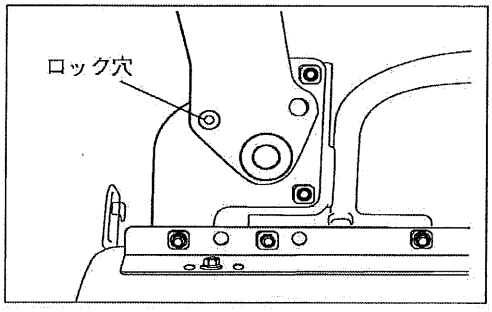
1 左右の回動ロータのノブを緩めてください。

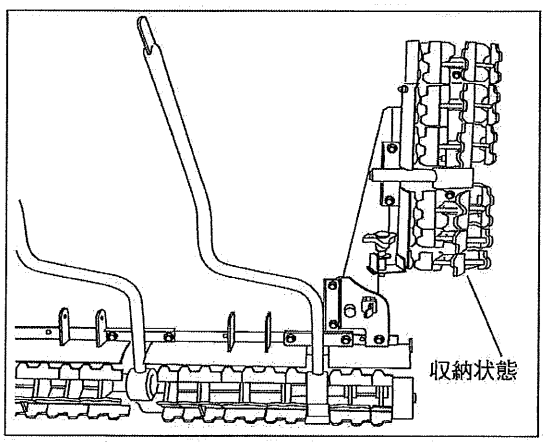


2 ロックピンを引きロック解除し、回動ロータを持ち上げてください。



3 カチッと音がするまで回動ロータを、回動させ、ロックピンがロック穴位置に入っていることを確認してください。



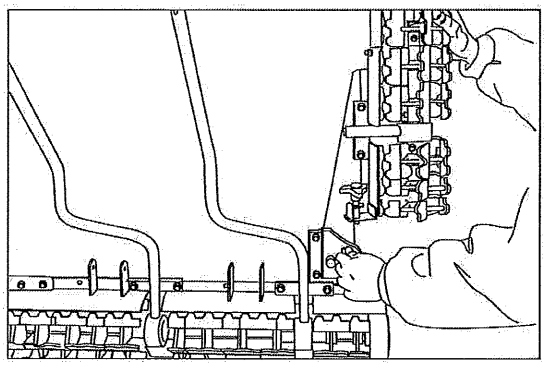


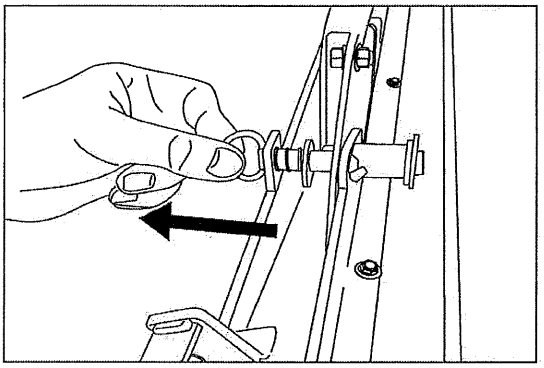
ロータの作業状態へのセットのしかた

注意

植付ユニットを収納状態にした後、ロータの収納、および作業状態へのセットを行ってください。
※　これを守らないと作業機を破損させることがあります。

1 回動ロータをもち、ロックピンを引き、ロックを解除し、ゆっくり回動ロータを下ろしてください。

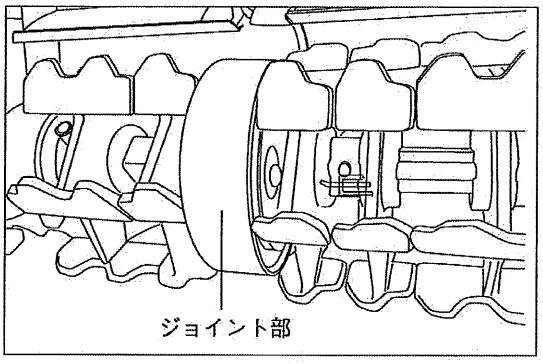


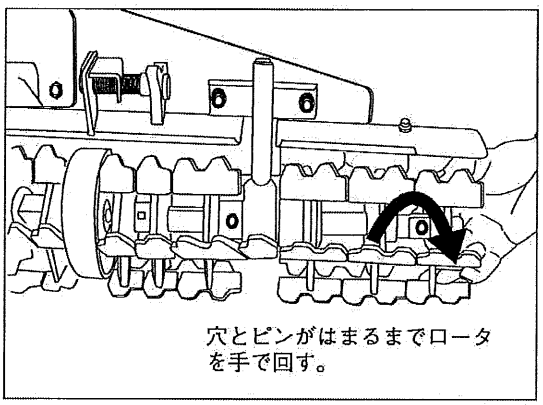


⚠警告

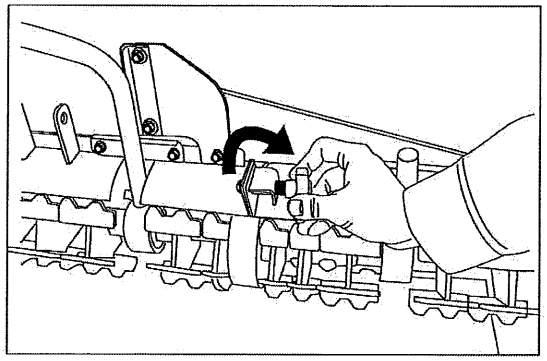
回動ロータを作業状態にセットする時は、回動ロータを手で持った後、ロックを解除してください。
※　これを怠ると、重大な傷害事故の原因となります。

2 ジョイント部分の穴とピンがはまっているか確認してください。
ジョイント部分の穴とピンがはまっていない場合はロータを手で回して穴とピンが合うようにしてください。





3 ノブをしっかりと締め込んでください。



5.3.3 トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 警告

平たんで広い地面の硬い場所を選んでください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速レバーを「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※ 守らないと、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行ってください。
※ 守らないと、転落事故の原因となります。

アユミ板のフックは、荷台に段差がないように、また、ずれないように確実に掛けてください。
※ 守らないと、転倒、転落事故の原因となります。

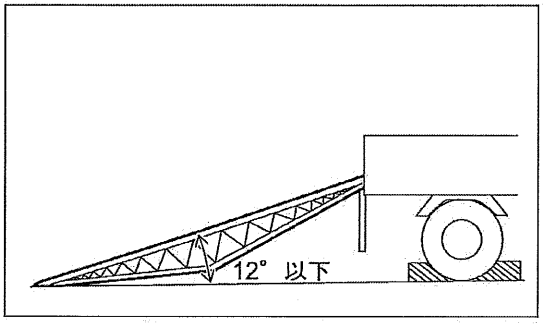
必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。
※ 連結していないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。

途中でエンストした場合は、すぐにブレーキペダルを踏み込み、その後、徐々にブレーキペダルをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してください。
※ 守らないと、転落事故の原因となります。

ステアリング（ハンドル）を左右に大きくきったり、停車ペダルを踏み込んだりしないでください。
※ 守らないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。

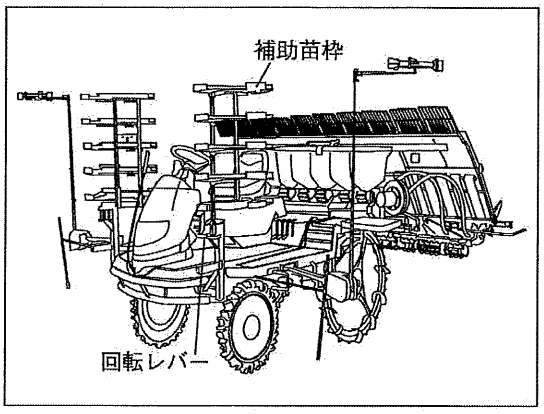
補 足

- アユミ板の条件
  長さ……車の荷台高さの4.8倍以上
  幅 ……30cm以上
  数量……2枚
  強度……1枚の強度が1000 kg以上
  すべり止めのあるもの

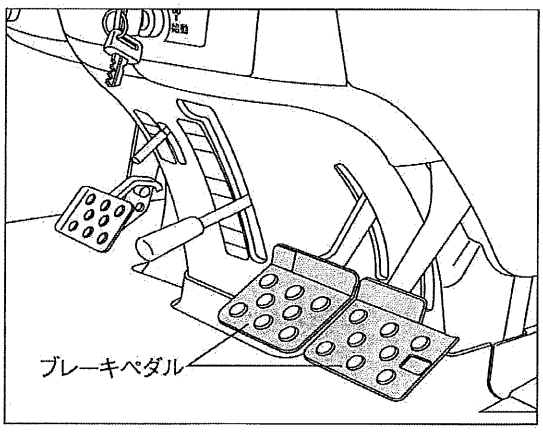


1 電動マーカ、隣接マーカ、植付部、ロータ、補助ステップ、しゅう動板ガードを収納してください。

2 補助苗枠を収納してください。

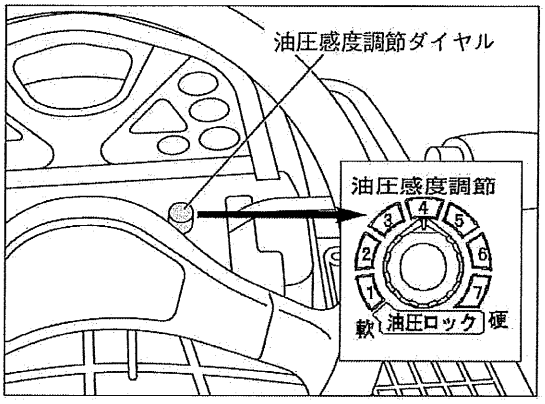


3 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

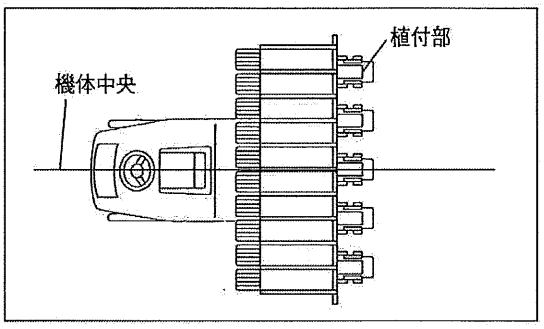


4 エンジン始動状態で植付昇降レバー（ ☞34ページ）を上に操作して、植付部をいっぱいまで上げてください。

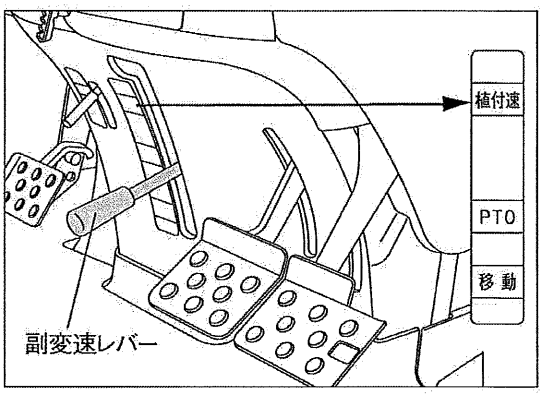
5 油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしてください。



6 植付部を機体の中央にしてください。

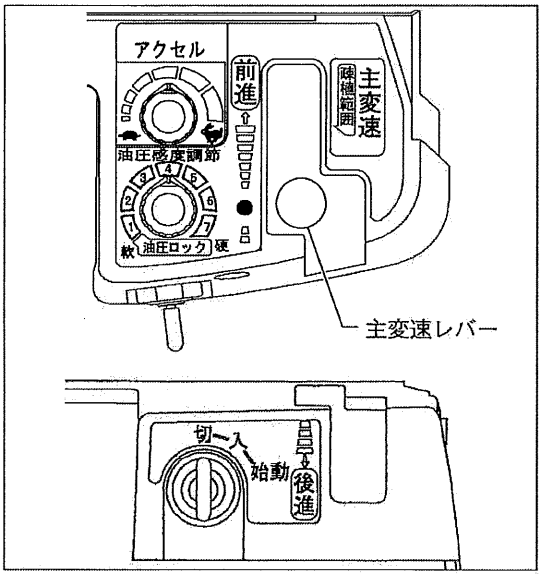


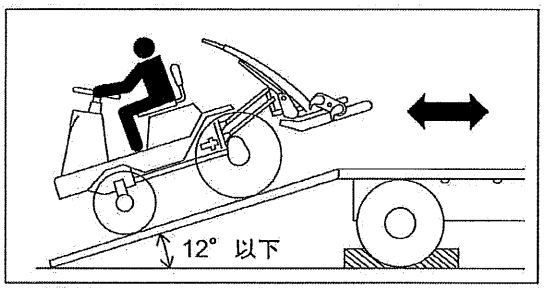
7 次の操作で積み降ろししてください。



(1) 副変速レバーを「植付速」位置にしてください。

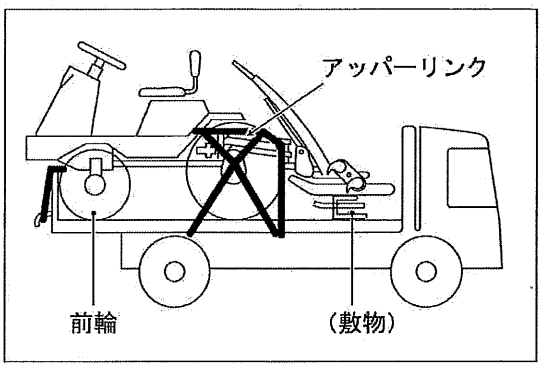
(2) トラックに載せるときは、主変速レバーを「後進」にして最低速で行ってください。
また、トラックより降ろすときは、主変速レバーを「前進」にして最低速で行ってください。





5.3.4 運搬中の固定方法

1 前輪を車の後部に引きつけて、ロープで固定してください。



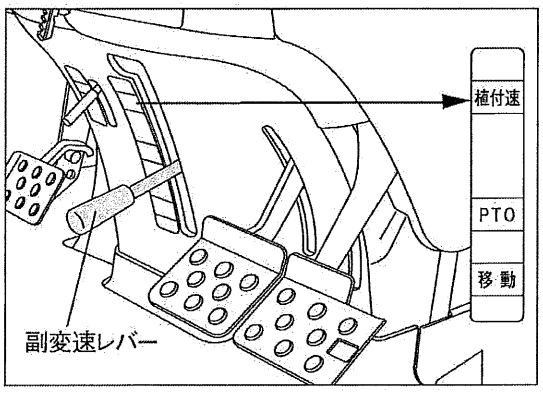
2 後輪をロープでたすき掛けにして固定してください。

3 フロートの下に敷物を置いて植付部を降ろし、アッパーリンクをロープで軽く押さえてください。

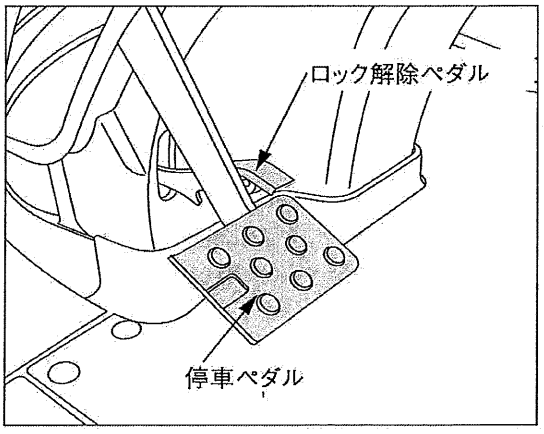
補 足

- **植付部を上昇したままやリンクにバウンド防止のロープ掛けをしなかった場合、リンクや植付部の損傷につながります。**

4 副変速レバーを「植付速」位置にしてください。



5 停車ペダルを踏み込み、ロックしてください。
(☞ 59ページ)



5.4 ほ場への出入りのしかた

⚠ 警告

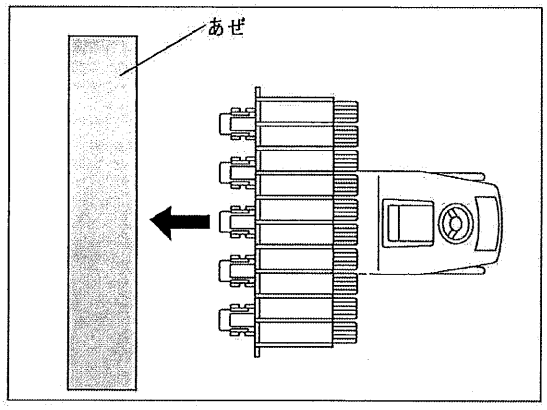
ブレーキペダルは、左右連結してください。
※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

ほ場との高低差が大きいときは、アユミ板を使用してください。
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。

補助苗枠および苗のせ台には、苗を乗せないでください。また田植機に荷物を積まないでください。
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

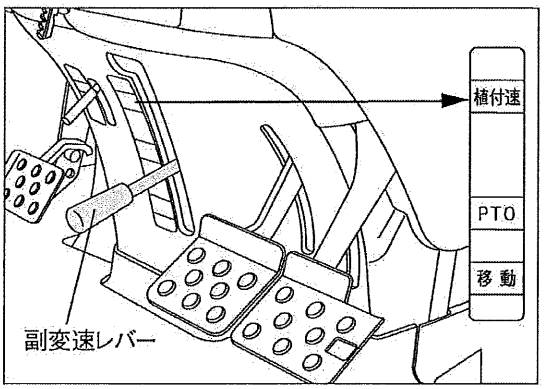
ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、必ずあぜに直角にゆっくり進んでください。
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。



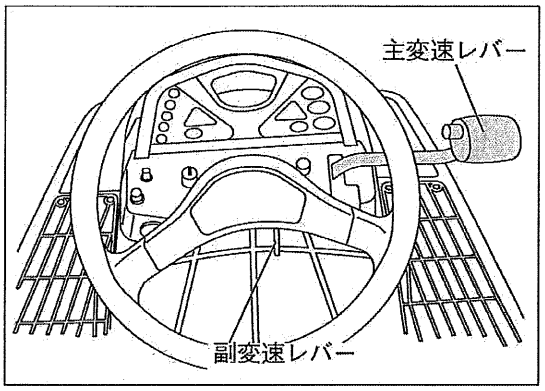
5.4.1 ほ場への入りかた

1 エンジン始動状態で植付昇降レバー（ ☞ 34ページ）を上に操作して、植付部をいっぱいまで上げてください。

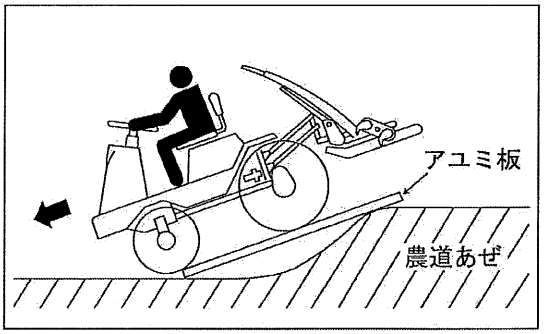
2 副変速レバーを「植付速」位置にしてください。



3 主変速レバーで速度を調整してください。



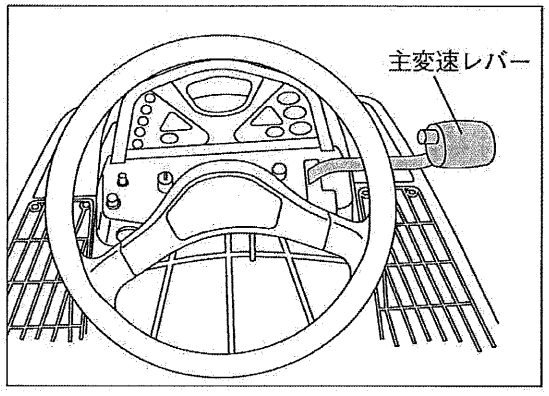
4 前進でゆっくりとほ場に入ってください。



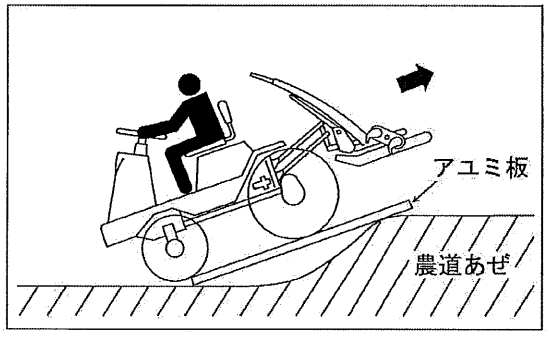
5.4.2 ほ場からの出かた

1 エンジン始動状態で植付昇降レバー（☞34ページ）を上に操作して、植付部をいっぱいまで上げてください。

2 主変速レバーで速度を調整してください。



3 後進でゆっくりとほ場から出てください。



6. 植付作業のしかた

⚠ 警 告

作業中は、作業者以外の人を田植機に近づけないでください（特に子供）。
※　田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリー端子等の通電部等には手を触れないでください。
※　傷害事故の原因となります。

作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、合図してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故の原因となります。

あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くし、あぜと直角にゆっくり走行してください。
※　斜めになると、スリップや転倒の原因となります。

あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。
※　使用しなかった場合、転倒することがあります。

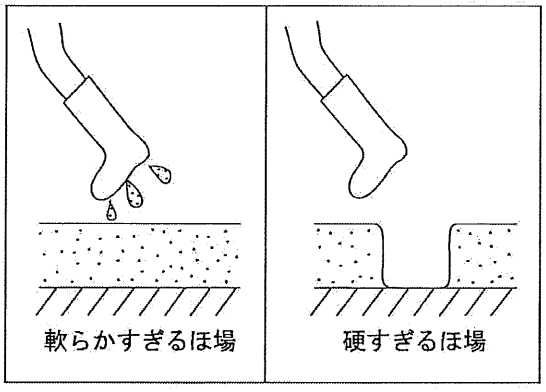
6.1　ほ場の準備

6.1.1　代かき

代かきは、ほ場の表面の凸凹をなくすようにていねいにしてください。

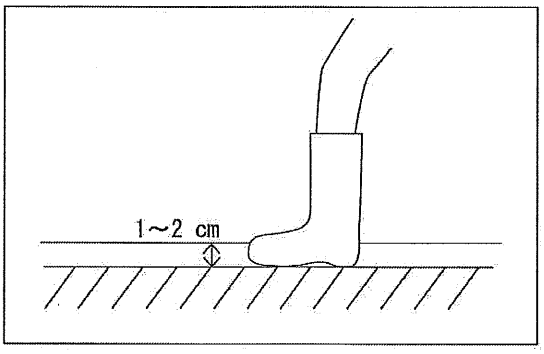
補 足

- 代かき日は、土質等によっても異なります。当地に合った代かき日を決めてください。
- ほ場は、やや軟らか目の硬さが最適です。歩いても足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場では、きれいな植付ができないことがあります。



6.1.2 水深

水深は1～2cm程度の全面浅水が最適です。

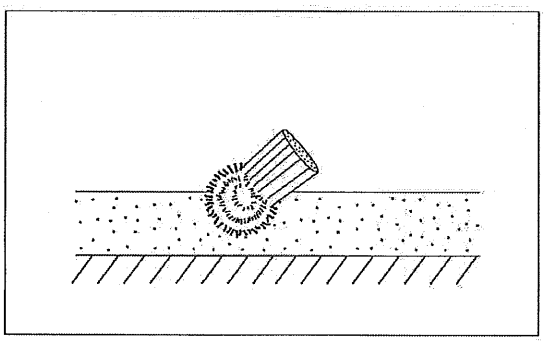


補 足

- 水深が2cm以上のほ場や、反対に水気のないほ場では、きれいな植付ができないことがあります。

6.1.3 きょう雑物

刈り株・排ワラ等のきょう雑物はできるだけ取り除いてください。



補 足

- きょう雑物があると、ころび苗、浮き苗の原因になります。

6.2 植付作業前の準備

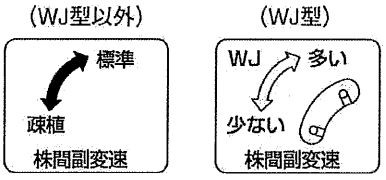
6.2.1 植付株数（株間）の決めかた

■マット苗

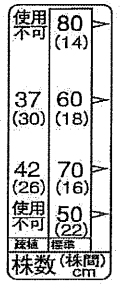
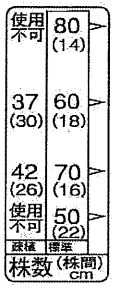
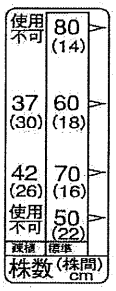
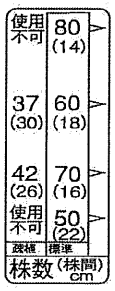
植付株数は、株数切替レバーと株間副変速レバーの切り替えで変更できます。
下表を参考に当地に合った植付株数にセットしてください。（☞ 84～85ページ）

補 足

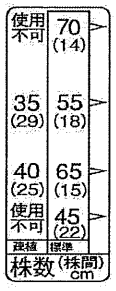
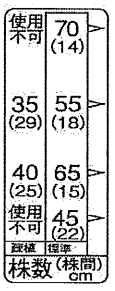
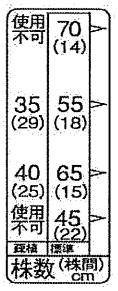
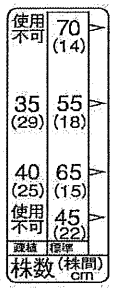
- 出荷時の植付株数は70株（株間副変速レバーは[標準]の位置）です。(W仕様は65株・WJ仕様は90株)
- 植付株数により使用箱数が変わります。植付株数に合った箱数を準備してください。
  なお、実際には10aあたり2箱程度の予備苗を準備することをおすすめします。
- 植付株数や苗取量を途中で変更すると所要箱数が変わります。
- 株間副変速切替



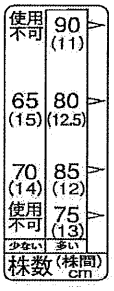
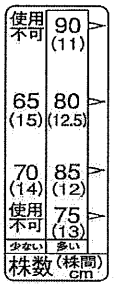
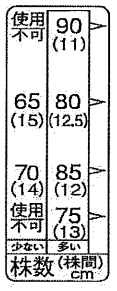
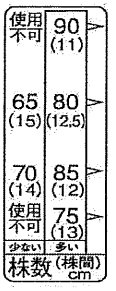
■標準型（条間30cm仕様）

株数切替レバー位置 / 株数副変速レバー位置					
標準	株数	50	70	60	80
	株間（cm）	22	16	18	14
疎植	株数	使用不可	42	37	使用不可
	株間（cm）	使用不可	26	30	使用不可

■W型（条間33cm仕様）

株数副変速レバー位置 ＼ 株数切替レバー位置		 ●	 ●	 ●	 ●
標準	株数	45	65	55	70
	株間（cm）	22	15	18	14
疎植	株数	使用不可	40	35	使用不可
	株間（cm）	使用不可	25	29	使用不可

■WJ型（条間33cm仕様）

株数副変速レバー位置 ＼ 株数切替レバー位置		 ●	 ●	 ●	 ●
多い	株数	75	85	80	90
	株間（cm）	13	12	12.5	11
少ない	株数	使用不可	70	65	使用不可
	株間（cm）	使用不可	14	15	使用不可

6.2.2 株間副変速レバーと株数切替レバーの切り替えかた

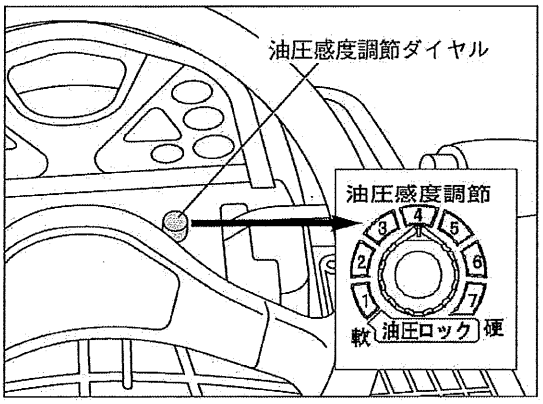
⚠ 警告

ほ場の出入口等の傾斜面で副変速レバーを「PTO」にしないでください。
※ 田植機が自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

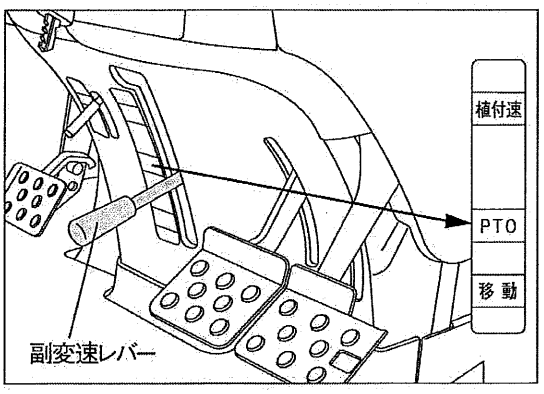
1 植付部をいっぱい上げ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にします。

補 足

- ほ場内の場合は、植付部は下がったままでもかまいません。
- ほ場以外で操作する時には、平坦な所で行ってください。



2 副変速レバーを「ＰＴＯ」位置にします。

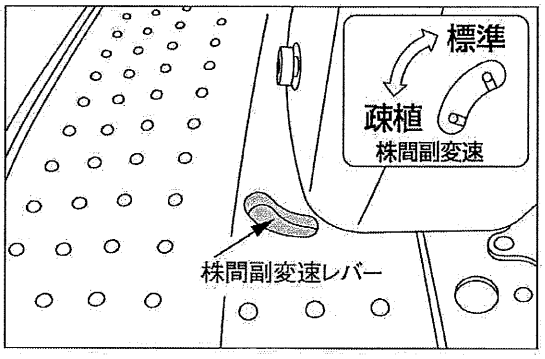


3 植付「切」状態で、停車ペダルを解除後、主変速レバーを「前進1段目」にします。

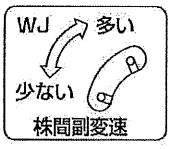
4 株間副変速のレバーを希望の位置にゆっくり押し付けるように回してください。

補 足

- 入りにくい場合は植付を「入」にして同様の操作を行ってください。



(WJ型)



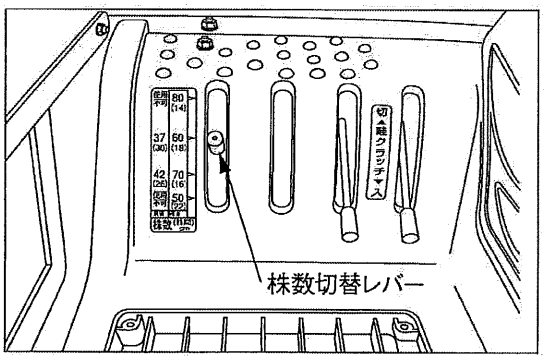
株間副変速レバーを「疎植」位置にすると、疎植制御機構により6段目までしか操作できません。(WJ型を除きます)

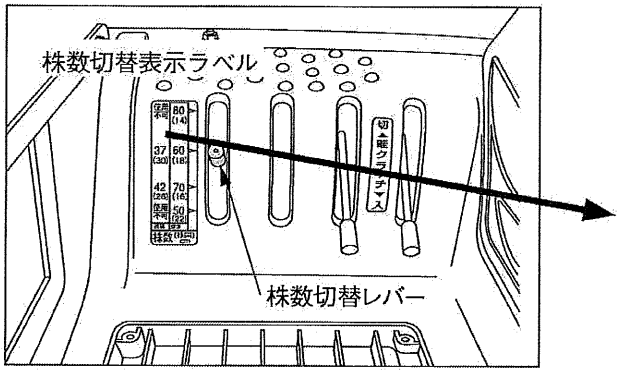
※ 無理に作動させると主変速レバー、株間副変速レバーの損傷につながります。

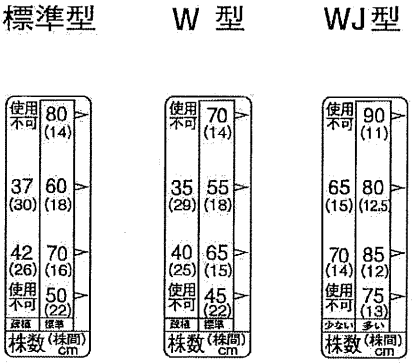
5 株数切替レバーを動かし、希望の位置にセットします。

補 足

- レバーの調節後、植込杆が回っていることを確認してください。
- 植込杆を回しながら、株間副変速のレバーを軽く触れて、簡単にギヤが抜けないことを確認してください。





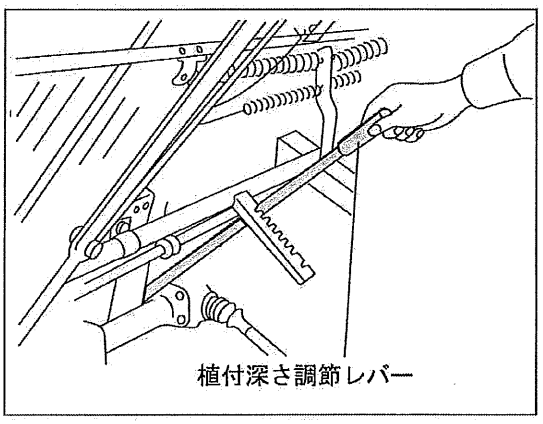


注 意

疎植植付時には、標準型では42株、37株、W型では35株、40株、WJ型では65株、70株以外での植付けは、設定株数以外の植付けになるため、植付けが乱れます。株数切替レバーを操作する時は、充分注意してください。

6.2.3 植付深さの調節

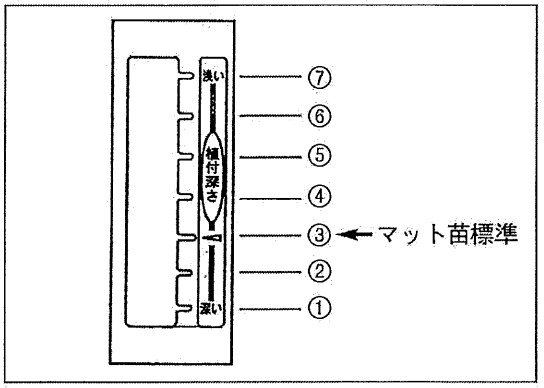
(1) 植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは7段階に選べます。



(2) 植付深さの標準は、マット苗がガイド溝③の位置です。植付深さを深くしたいときは①の方向へ、浅くしたいときは⑦の方向へ植付深さ調節レバーを移動させてください。

補 足

- **植付深さは、必ずほ場で試し植えをして確認してください。**



6.2.4 横送り量の調整

⚠ 注 意

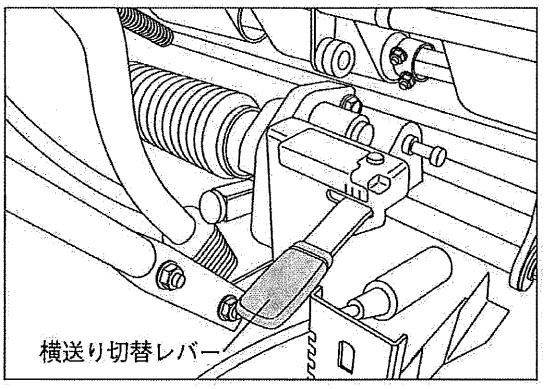
切り替えはエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

苗の種類によって、横送り量の切り替えを行ってください。

横送りの回数	苗の種類
24回	稚苗
20回	中苗
18回	中苗、中苗箱18条ポット苗

(1) 横送り切替レバーで苗の種類に合った位置に切り替えてください。

(2) 横送り回数を変更するときは油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にし、エンジンを止めてから希望の横送り回数に変更してください。





補 足

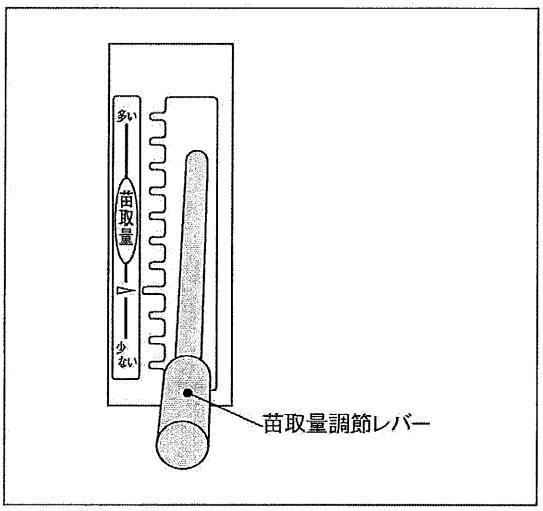
- **切り替え後は、必ず希望の位置に入っていることを植込杆を回して確認してください。**

6.2.5 苗取量の調節

(1) 苗取量調節レバーのセット位置を上下に調節することにより全条の苗取量を一度に変えることができます。
(2) 苗取量の標準は、11 mmです。
(3) ガイド溝1段で苗取量は約1 mm変わります。

補 足

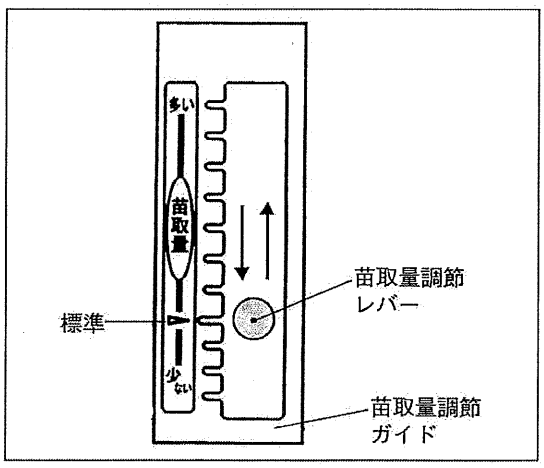
- **苗箱1箱当り種籾300～320cc、乾籾150～160g、催芽籾190～200gの場合です。標準で3～5本の苗がとれます。**
- **フィンガの摩耗等により、苗取量がばらつく場合は、標準付属品の苗取口ゲージを使って取量の調整をしてください。**



■調整

1 エンジンを始動し、植付部を上昇させます。油圧感度調節ダイヤルを油圧ロック位置にし、エンジンを停止します。

2 苗取量調節レバーのガタを取るため、苗取量調節レバーを「多い」側に動かした後、苗取量調節レバーを「標準」位置にセットします。⇨

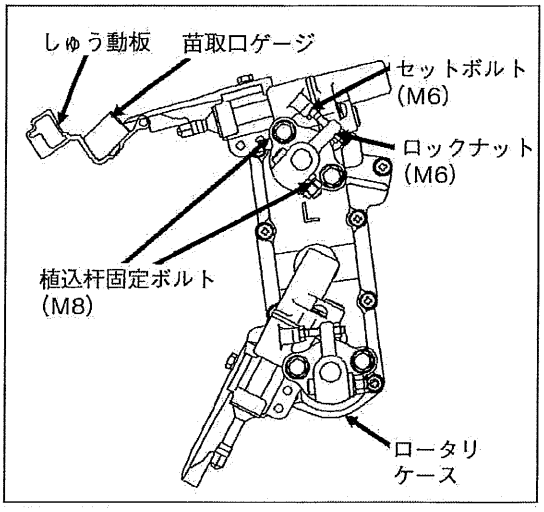


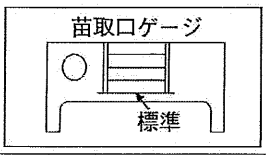
3 しゅう動板の取り口位置に苗取口ゲージを置き、植込杆のフィンガ先端が苗取口ゲージに軽く当たるまで、ロータリーケースを手で回します。
※手をけがしないように、注意してください。

4 フィンガ先端が苗取口ゲージの標準の線（切り欠き上の長い線）からずれていないか確認します。ずれている場合は植込杆の植込杆固定ボルト（M8）2本とロックナット（M6）、セットボルト（M6）をゆるめます。

5 植込杆のフィンガ先端を手で引き上げて、セットボルト（M6）を締めながらフィンガ先端を下げ、苗取口ゲージの標準の線（切り欠き上の長い線）に合わせます。ロックナット（M6）をロックします。

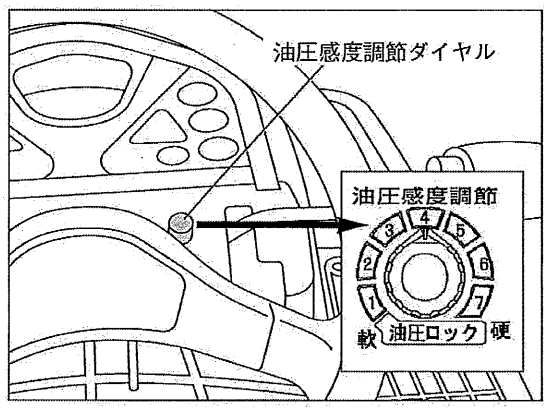
6 セットボルト（M6）が植込杆に当たっていることを確認して、植込杆固定ボルト（M8）2本を締め付けます。





6.2.6 油圧感度調節

感度は、油圧感度調節ダイヤルを回すことにより7段階選べます。



補 足

- **最初は必ずダイヤルを「4」位置にして試し植えをしてください。**

(1) フロートで泥を押す場合
ダイヤルを「4」位置から一目盛ずつ「軟」側へ回してください。

(2) 植付部がバタツク場合やフロート後部が浮く場合
ダイヤルを「4」位置から一段ずつ「硬」側へ回してください。

補 足

- **油圧感度調節ダイヤルの調節を行った場合は、植付深さが変わります。植付深さの確認と調節を合せて行ってください。**
- **水深が深い場合は、水の浮力で、フロートが浮きやすくなります。水深の浅い所よりも一段「硬」側にセットしてください。**
- **水深が深い場合や、ダイヤルが「軟」側のときは、植付速度をひかえ目にしてください。**
- **隣接条を、植付しないで走行する場合には、最も「軟」側にセットすると泥押しが少なく隣接条を乱しません。**

油圧感度調節ダイヤルの回転方向	植付深さ
「軟」→「硬」	深くなる
「硬」→「軟」	浅くなる

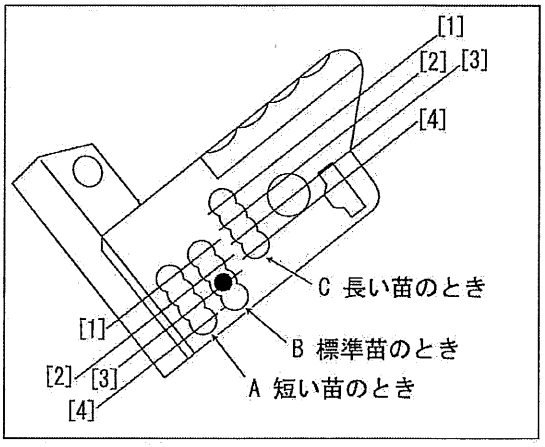
6.2.7 抵抗棒の調節

⚠ 注 意

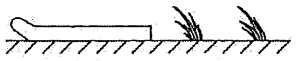
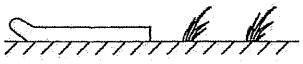
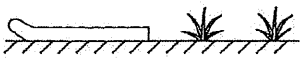
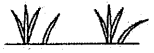
抵抗棒の位置の変更はエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

抵抗棒の位置は、4段階の調節できます。
また、苗の長さにより3段階の調節ができます。
その場合は、ヘアーピンを抜いて抵抗棒を差し替えてください。

抵抗棒の標準（出荷）位置は標準苗位置Bでの[3]の位置です。



標準位置で試し植えをして、不調時は下記要領で調節してください。

	抵抗棒の位置
不調な場合の現象	マット苗の場合
植付けた苗が前だおれになる。 	[4]（Bの位置）またはCの位置 [1]～[4]
植付けた苗が後だおれになる。 	[1]～[2]（Bの位置）またはAの位置[1]～[4]
植付けた苗がおおぎ状になる。 	[1]～[2]（Bの位置）またはAの位置[1]～[4]
苗が植付爪より離れない。 	[4]（Bの位置）またはCの位置 [1]～[4]
苗が一、二本だけ離れ植付が乱れる。 	[4]（Bの位置）またはCの位置 [1]～[4]

補 足

- 抵抗棒の位置を変更する場合は、最初に同じ長穴の中で抵抗棒の位置を変えて調節してください。
  それでも直らない場合は抵抗棒の差し替えで抵抗棒の位置を変更してください。
- 抵抗棒の位置を変更後は、全条同じ位置に抵抗棒がセットされているか確認してください。

6.2.8 整地板の調節

⚠ 注 意

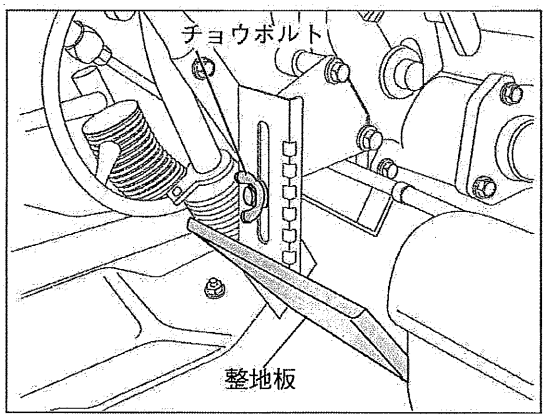
整地板の調節は植付部を上昇させ、感度調節ダイヤルを油圧ロックにして、行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

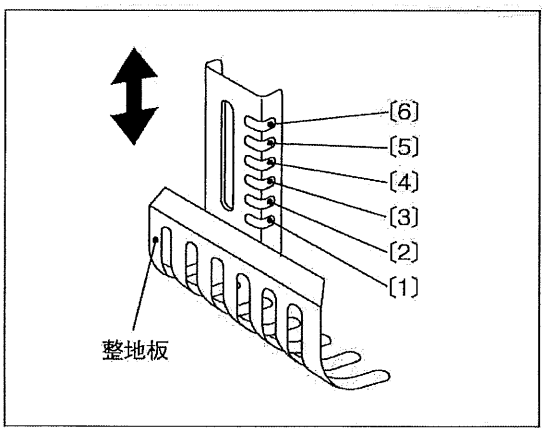
(1) 整地板の位置は、固定位置の変更により6段階選べます。
チョウボルトを緩め、上・下に動かし、再度締めて固定してください。

(2) 出荷時は[3]の位置です。

(3) 出荷位置で試し植えをして、不調な場合は下記要領で調節してください。



不調な場合の現象	整地板の位置
整地しない	整地板を下げる
泥を押す	整地板を上げる

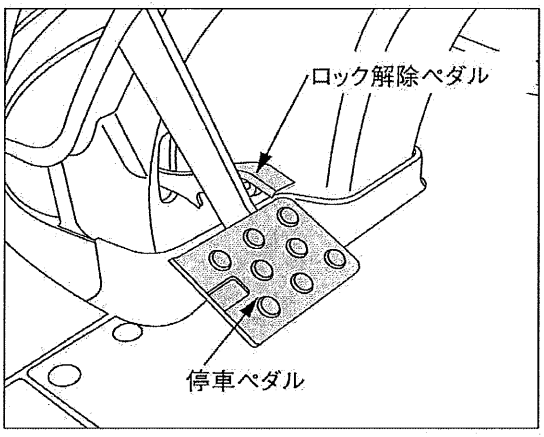


6.3 植付作業の手順

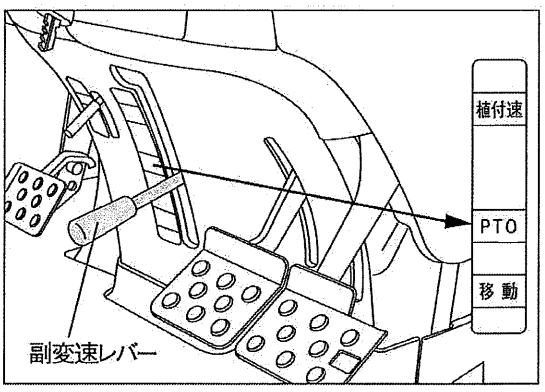
⚠ 警告

ほ場の出入口等の傾斜面で副変速レバーを「PTO」にしないでください。
※ 田植機が自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

1 停車ペダルを踏み込み、ロックします。



2 副変速レバーを「PTO」(☞ 35ページ)にします。



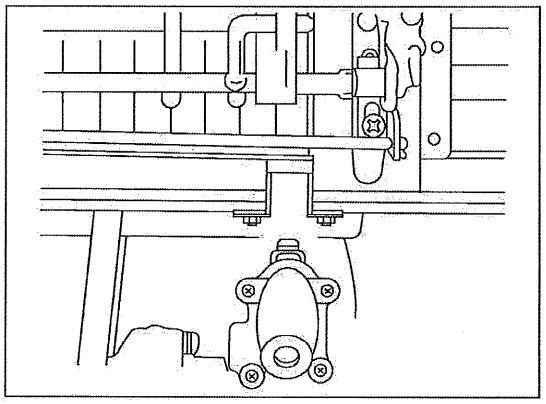
3 電動マーカを収納位置から作業位置にしてください。(☞ 60ページ)

4 隣接マーカ、植付ユニット、しゅう動板ガードを作業位置にセットしてください。

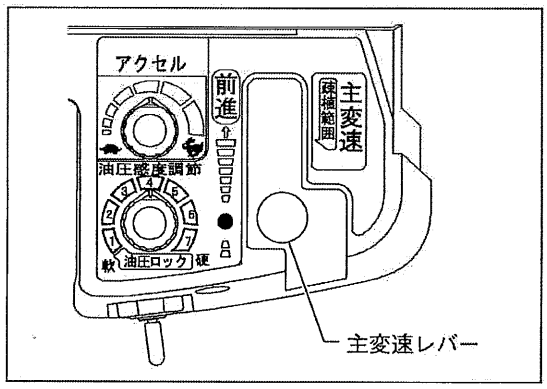
5 停車ペダルのロックを解除します。
(☞ 59ページ)

6 植付入切スイッチ（☞ 34ページ）を操作して、植付クラッチを「入」にしてください。

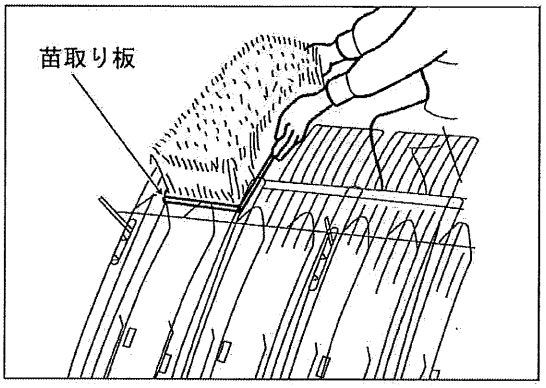
7 主変速レバーをゆっくりと「前進」にし、苗のせ台を左または右側に寄せて植付入切スイッチを押して植付クラッチを「切」にしてください。



8 主変速レバーを「中立」(「●」の位置）にし、停車ペダルを踏み込みロックしてください。

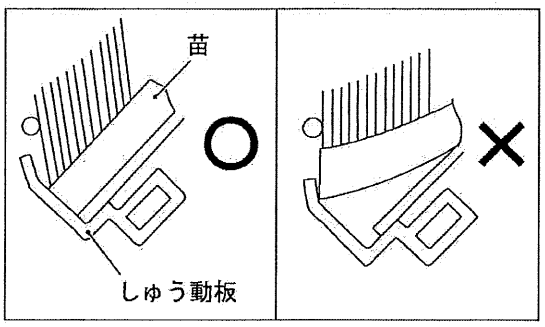


9 苗取り板で取った苗を、苗のせ台にていねいにのせてください。



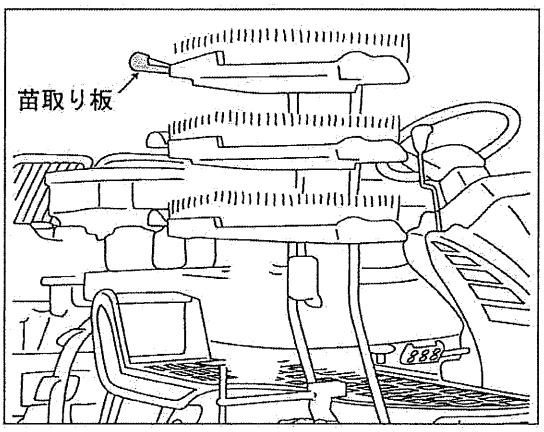
補 足

- 苗のせ台には苗が2枚搭載できます。
- 苗がしゅう動板の所で浮き上がらないようにのせてください。
- 苗のせ台を左または右端に寄せてから苗をのせてください。
- 根張りの悪い苗は振動で形がくずれてしまうため、育苗箱に入ったままの状態で補助苗枠にのせてください。



10 副変速レバーを「植付速」、主変速レバーを前進にして、低速でほ場の端に移動してください。

11 電動マーカを次の行程で植える側に出してください。



12 植付入切スイッチ（ ☞ 34ページ）を操作して、植付クラッチを「入」にしてください。

13 主変速レバーをゆっくりと前進側に動かし、植付を始めてください。

補 足

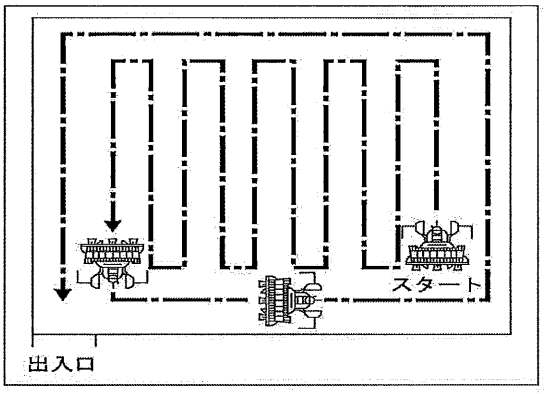
- 植付作業を開始して、各調節が希望する値になっているか確認してから、連続作業を行ってください。
- ほ場の状態、苗の条件により植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最も良い速度を選んでください。

6.3.1 枕地のとりかた

枕地はあらかじめ1回り分残して植付ければ、能率的に枕地植えが行えます。

補 足

- **ほ場が長方形でない場合は、まっすぐで最も長いあぜに沿って植え始めると、きれいに植付ができます。**



6.3.2 スーパースマイルターンを使った旋回のしかた

1 スーパースマイルターン自動スイッチを「入」にします。(「入」で点滅します)

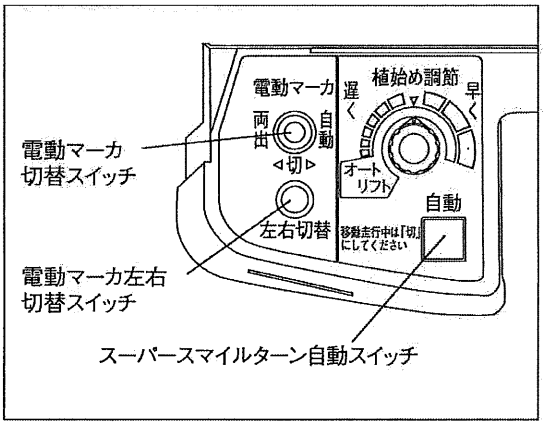
2 電動マーカ切替スイッチを「自動」「両出」のどちらかにします。
(スーパースマイルターン自動スイッチが点灯します)

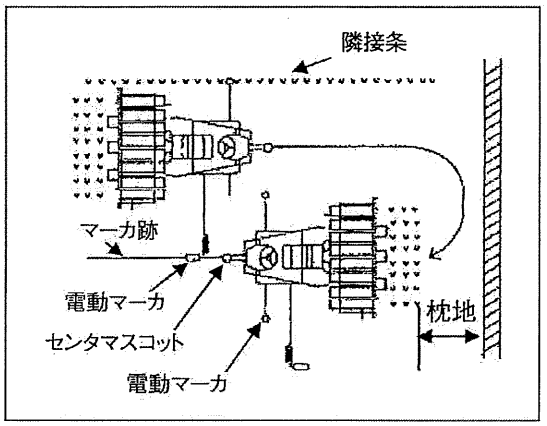
3 あぜに近づいたら、主変速レバーを低速にします。

4 あぜから枕地分手前で、ステアリング(ハンドル)をいっぱい回してください。植付クラッチが自動で「切」になり、植付部が自動で上がります。

5 機体があぜに平行になったところでステアリング(ハンドル)をまっすぐに戻し、その後旋回内側の前輪がマーカ跡に接する円を描くようにステアリング(ハンドル)をいっぱいまで回して旋回します。

6 センタマスコット、隣接マーカで隣接条との条間をあわせ、機体を進行方向にまっすぐ向けてください。植付部が自動で下がり植付クラッチが自動で「入」になり植付が始まります。モニターランプの「植える」の点灯と電動マーカが次の植付行程側に出たのを確認して植え進んでください。

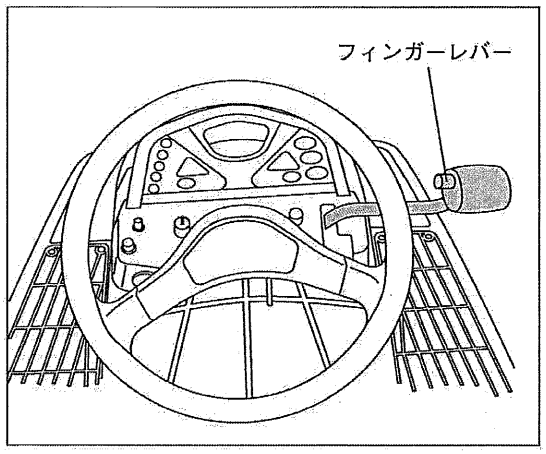




補 足

- スーパースマイルターンは変形田、補助車輪をつけた時や深いほ場では正常に作動しないことがあります。
- ほ場外の移動の時は、安全のため必ずスーパースマイルターン自動スイッチを「切」にしてください。
- 電動マーカのスイッチを「切」にしていると、スーパースマイルターンは作動しません。(スイッチが点滅します)
- あぜぎわまで植付し、バックして旋回する場合はバックしすぎると、植付を合わせることができないためステアリング（ハンドル）を回した時にブザーが鳴り、スーパースマイルターンは作動しません。
  (スーパースマイルターン自動スイッチのランプが点滅します)
- スーパースマイルターン自動スイッチを「入」にしてスーパースマイルターンが作動していれば旋回時、植付部が上がってから下がるまでブザーが鳴ります。
- 電動マーカは、植付部を上下しなくても、マーカ左右切替スイッチを操作することで左右交互に倒れます。
- センタマスコットは、1行程前に電動マーカでつけたマーカ跡に合わせると隣接との条間が合います。
- 隣接マーカは、1行程前に植付けられた隣接条に合せると条間が合います。
- 旋回中にブレーキペダルを踏むと、スーパースマイルターンは、正常に作動しません。
- 植始めのタイミングが合わない場合は、「植始め調節ダイヤル」(P.28)で調節してください。

6.3.3 スーパースマイルターンを使わない旋回のしかた



1 スーパースマイルターン自動スイッチを「切」にします。

2 あぜに近づいたら、主変速レバーを低速にします。

3 あぜから枕地分手前で、フィンガーレバー（☞ 34ページ）を「上昇」操作してください。

4 ステアリング（ハンドル）をいっぱいまで回してください。
また、旋回する側のブレーキペダルを踏むことにより、さらに小さく旋回することができます。

5 フィンガーレバー（☞ 34ページ）を旋回後「下降」に操作してください。(電動マーカが次の植付行程側に出たのを確認してください。)

6 枕地分をすぎた所で植付入切スイッチ（☞ 34ページ）を操作して、植付クラッチを「入」にし、モニターランプの「植える」の点灯を確認して、植え進んでください。

補 足

- **スーパースマイルターン自動スイッチを「切」にしても、バックリフトは作動します。**

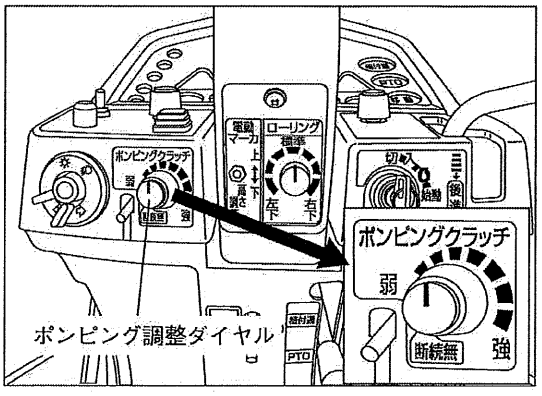
6.3.4 ミラクルスマイルターンを使った旋回のしかた（B型のみ）

植付作業旋回時に後輪による穴掘りや補助車輪間の泥抱きが多いときは、ミラクルスマイルターンを使用することにより、穴掘りや泥抱きを軽減することができます。

1 植付作業時に、ポンピング調整ダイヤルを「断続無」から真上の位置まで右に回してください。

補 足

- **ポンピングを使わないときは「断続無」位置にあわせてください。**
- **副変速が移動位置のときは、ポンピングは作動しません。**



2 植付作業旋回中、旋回内側後輪が止まりそうになると、ポンピングが作動し、旋回内側後輪の動力がつながったり切れたりし、車輪の穴掘りや補助車輪間の泥抱きを軽減します。

3 ほ場条件によって、旋回半径や車輪の穴掘り、補助車輪間の泥抱きの具合は変わりますので、様子を見ながら、ポンピングの強弱を調整してください。

補 足

- **ポンピングを使用する時は、スーパースマイルターンの作動タイミングが正常に機能しません。スーパースマイルターン自動スイッチを「切」にし、スーパースマイルターンを使わない旋回のしかた（ ☞ 99ページ）で植付作業してください。**

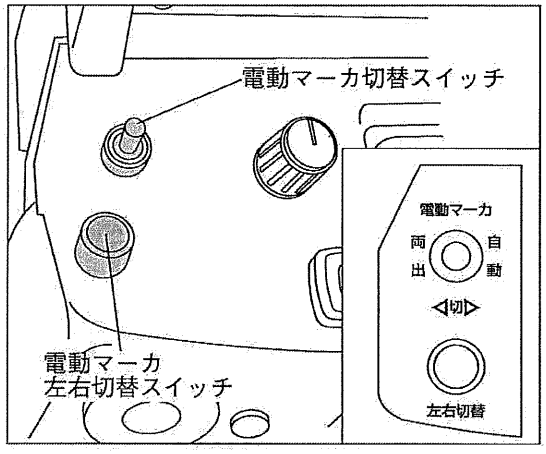
6.3.5 電動マーカの使いかた

(1) 電動マーカ切替スイッチを「自動」にすると、電動マーカが出る側のオートマーカモニターランプが点灯します。

(2) 電動マーカの出る方向を切り替えるときは、電動マーカ左右切替スイッチを押すと、左右交互に切り替わります。

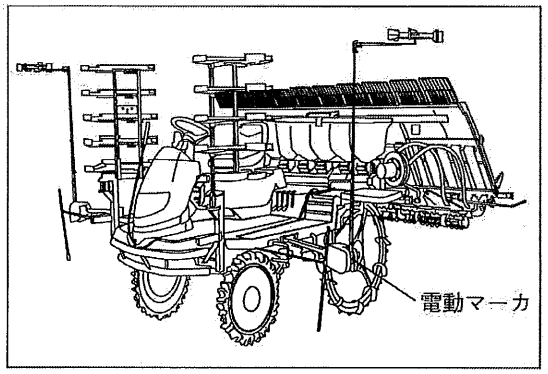
(3) フィンガーレバー（☞ 34ページ）を操作し、植付部を下げると、電動マーカが出ます。

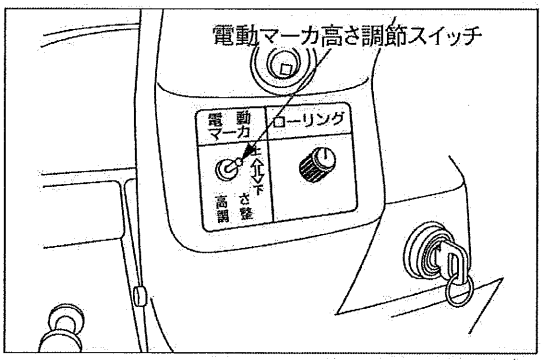
(4) 深いほ場やあぜ等で、マーカの接地に不具合がある場合は、マーカ高さ調節スイッチでマーカ高さを調節してください。（☞ 27ページ）



補 足

- **電動マーカの左右切り替えは、電動マーカ左右切替スイッチの操作で植付部が下がっていても切り替えることができます。**
- **電動マーカ高さ調節スイッチで調節したマーカの高さは、メインスイッチを「切」にするまで保持されます。再度「入」にすると工場出荷時の高さに戻ります。**



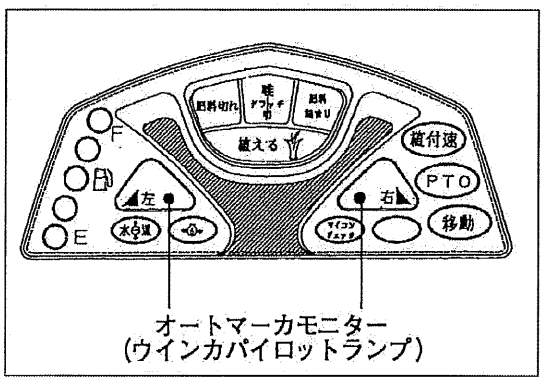


6.3.6 電動マーカ両出のしかた

電動マーカ切替スイッチを「両出」にすると、左右の電動マーカが同時に出るようになります。このとき、電動マーカモニターランプが左右とも点灯します。

補 足

- フィンガーレバー（ ☞ 34ページ）を「上昇」に操作するか、電動マーカ切替スイッチを「切」にすると、両側の電動マーカは出ません。



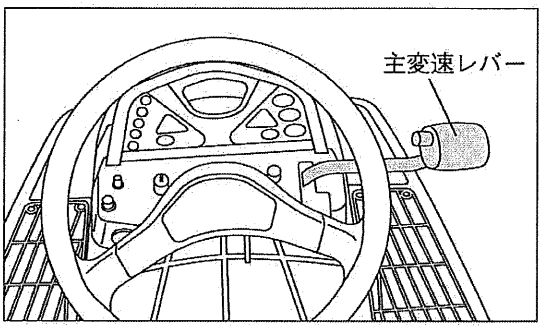
6.3.7 バックリフトの使いかた

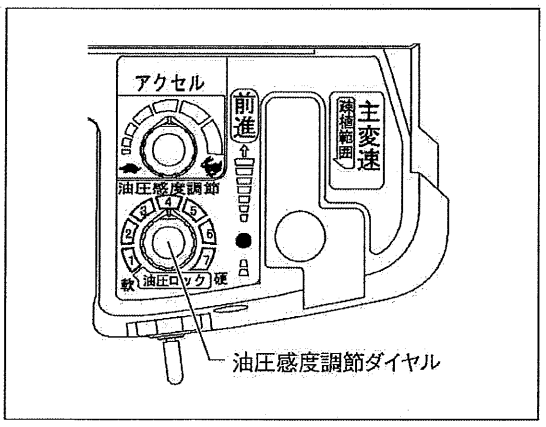
(1) 植付部が下降状態のとき、主変速レバーをバック操作（「後進」位置）すると、植付部が上昇します。

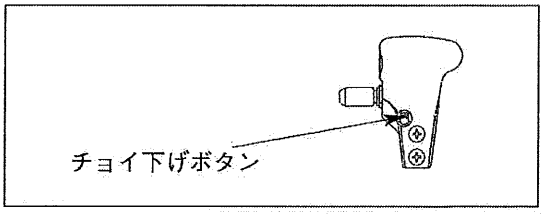
(2) 油圧感度調節ダイヤルを油圧ロック位置にしているとバックリフトしません。

補 足

- バックしていても、チョイ下げボタンの下げ操作で、バックリフトより優先して植付部を下降させることができます。
- スーパースマイルターン自動スイッチを「切」にしていてもバックリフトは作動します。

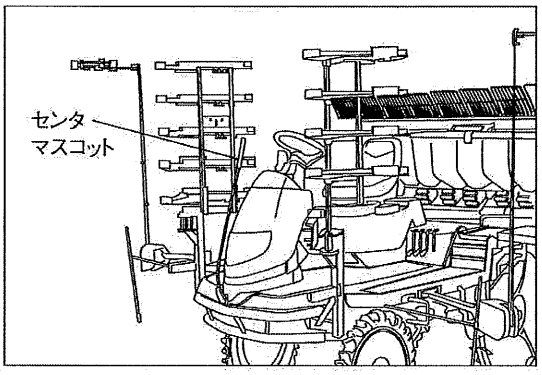




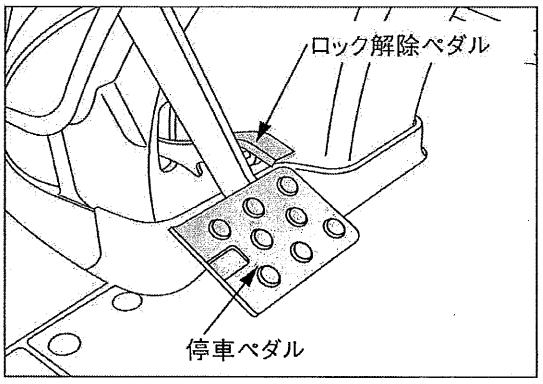


6.3.8 苗の補給

1 苗が一定量まで減少すると、センタマスコットが点滅します。



2 停車ペダルを踏み込み、ペダルを固定します。

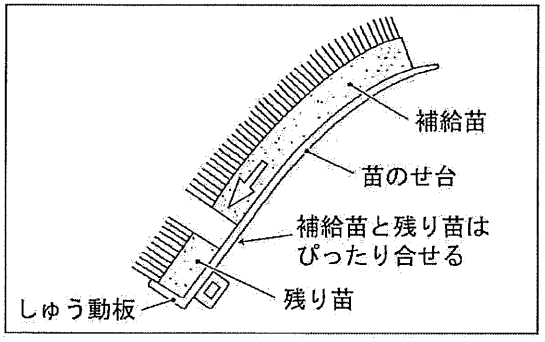


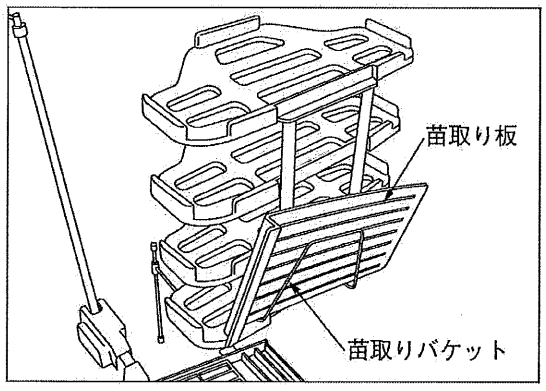
3 補助苗を苗取り板で取り、上の方からゆっくりと苗のせ台にすべりこませてください。

4 苗補給が終ったら、停車ペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、足を離して主変速レバーをゆっくり操作し発進してください。

補 足

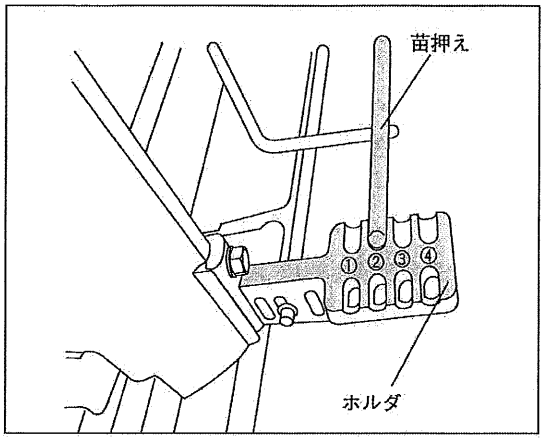
- **苗補給するときには、残り苗と補給苗がぴったり合うように注意してください。**
- **苗補給後の苗取り板は苗取りバケットに入れてください。**



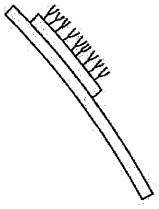
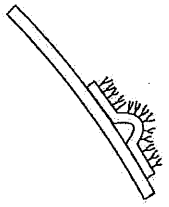
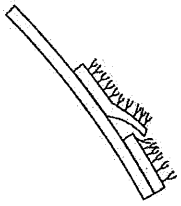


6.3.9 苗押えの調節

使用する苗の条件により、苗押えの調節をしてください。
苗押えの標準（出荷）位置は②の位置です。



標準位置で試し植えをして、不調時は、下記要領で調節してください。

不調な場合の現象		苗押えの位置
●苗のせ台にのせた苗がすべらず落ちていかない。		③又は④
●苗がめくれてつぶれる。		①
●つぎ足した苗が重なる。		①

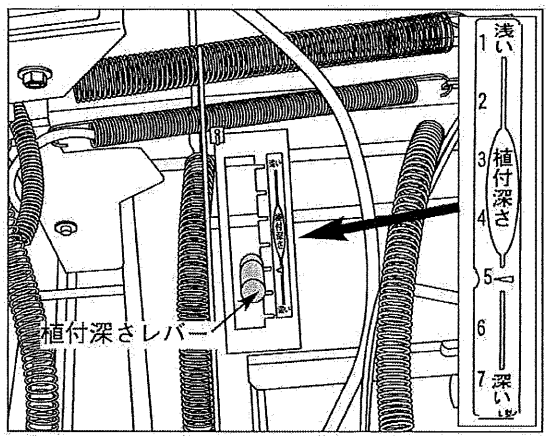
6.3.10 ロータの動かしかた

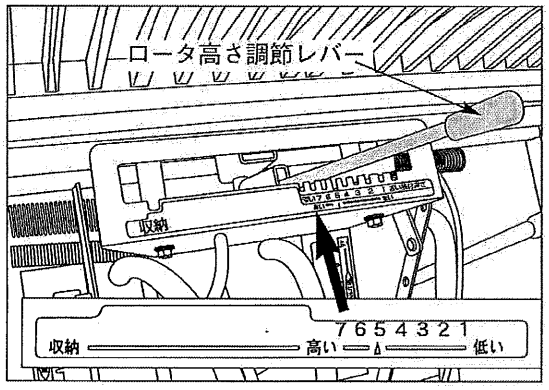
1) ロータ高さ調節レバーを植付深さレバーの番号と同じ番号に合わせ、ロータの均平深さを決めます。

2) ロータは後車輪と連動しているため、後車輪が回ると、ロータも回転します。

3) ロータの駆動は植付部の昇降に連動してクラッチの「入」「切」をします。植付部が下るとロータが回り、上るとロータは止まります。

4) ロータを使用しない場合は、ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にして作業してください。



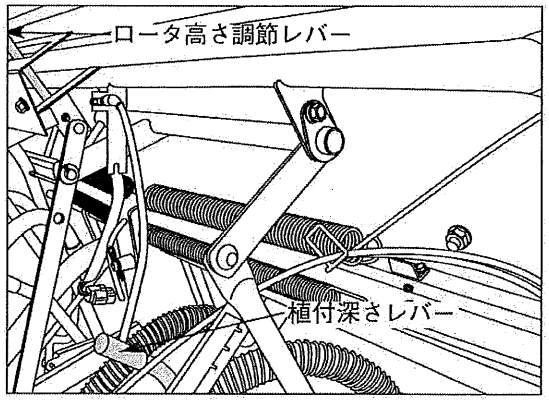


補 足

- ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にすると、ロータは回りません。

6.3.11 ロータの高さ調整

1) 植付深さを調節する時はロータ高さも同時に調節してください。
2) ロータ高さ調節レバーは植付深さ調節レバー位置の番号と同一番号で使用し、表面の仕上がり状態を見ながら、状態の悪いときはその位置を基準に「高い」「低い」側に調節してください。



補 足

- ロータがフロートに対し深くなりすぎると泥押しが多くなり隣接苗を押し倒すことがあります。
- ロータがフロートに対し浅くなりすぎると、整地性能が悪くなり、浮き苗になることがあります。
- 表土の柔かいほ場でロータを使うと苗が浮いたり、流れたりすることがあります。その場合はロータを「収納」にしてください。

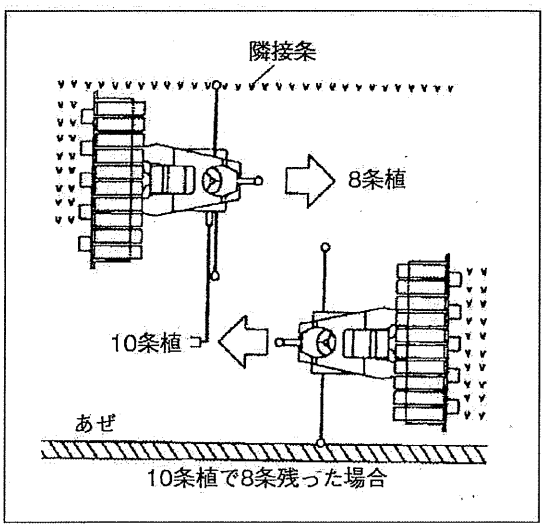
6.3.12 植えじまい

植付の最終行程（あぜ際での植付）を使用機械の条数に合せるためには、前行程で植付条数の調整をする必要があります。

任意の条数を植えたいときは、あぜクラッチレバーと苗ストッパを使って行ってください。

補 足

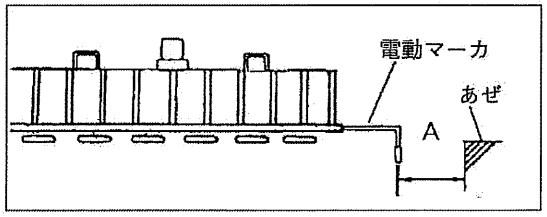
- **苗の葉を両手で持つと苗がくずれるような弱い苗で、長い距離を特定条のみ植付停止する場合は、苗ストッパを使用してください。**
  あぜクラッチレバーを使用すると、停止条の苗がくずれ植付再開時、欠株を生じる場合があります。



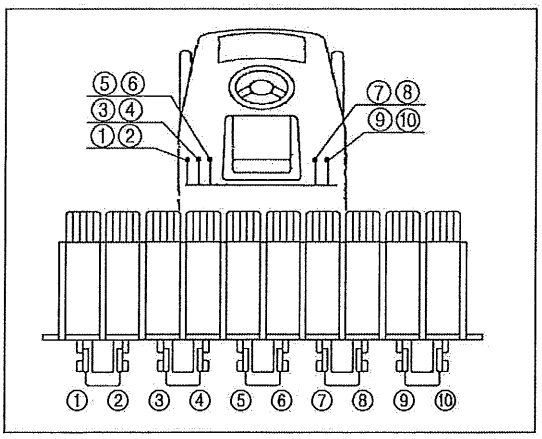
■最終行程での植付条数の決めかた

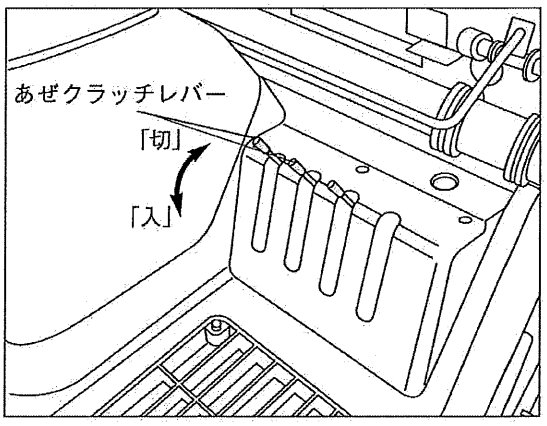
センタマスコットと隣接マーカで条合せした後、電動マーカを出し植付条数を決めてください。

Aの距離	
165 cm程度のとき	10条植え
135 cm程度のとき	9条植え
105cm程度のとき	8条植え
75cm程度のとき	7条植え
45cm程度のとき	6条植え
15cm程度のとき	5条植え
あぜへ15 cm程度のり上げるとき	4条植え
あぜへ45 cm程度のり上げるとき	3条植え
あぜへ75 cm程度のり上げるとき	2条植え
あぜへ105 cm程度のり上げるとき	1条植え



あぜクラッチレバーを「切」位置にすることにより、下図に示す条の植付を停止することができます。

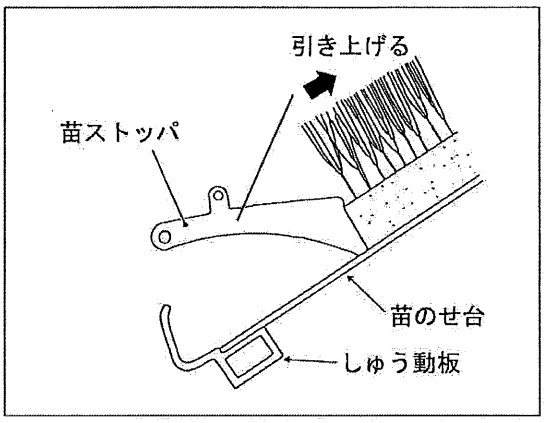




補 足

- あぜクラッチレバーを「切」位置で使用した後は、必ず「入」位置に戻してください。

1条単位で植付を停止したいときには、植付を止めたい条の苗を上に引き上げ、苗ストッパを右図のように取り付けてください。

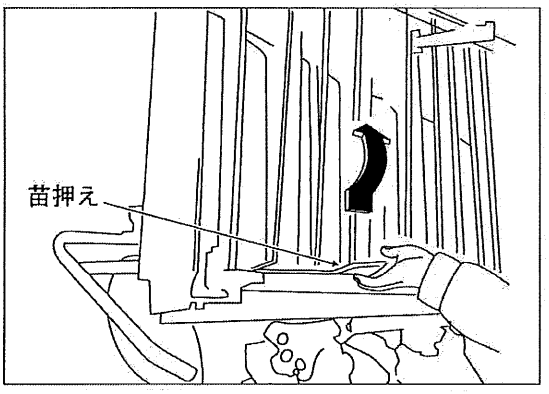


6.3.13 残り苗の取り出し

植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合には、苗押えを上に引き抜き、ガイド穴から外し、上側に回してください。

補 足

- 苗の取り出しが終ったら、苗押えは必ず作業位置（ガイド穴）に戻してください。

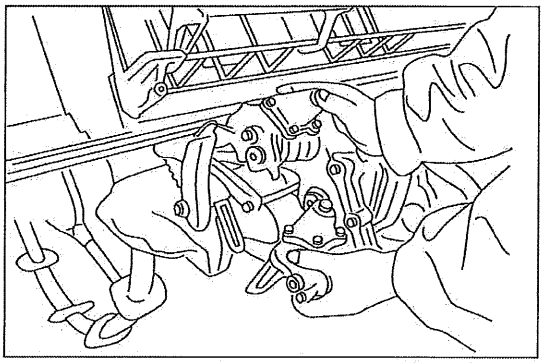


6.3.14 安全クラッチが作動したとき

⚠ 注 意

安全クラッチの確認は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

植付作業中、植込杆が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチが働いています。次の処置をしてください。



1 ただちに停車ペダルを踏み込み、ロックさせます。

2 副変速レバーを「PTO」位置にし、植付入切スイッチ（☞ 34ページ）で植付クラッチを「入」にし、エンジンを停止します。

3 苗取口と植付爪の間、植込杆とフロートの間等に石等をかんでいないか確認し、取り除いてください。

4 植込杆が軽く回動するか、しゅう動板との干渉はないか、植付爪は変形していないかを確認してから植付を再開してください。

5 植付爪が変形している場合には、交換してください。

補 足

- **植付爪が曲がったり破損したときは、お買いあげ先へご連絡ください。**

7 点検整備

7.1 定期的な点検整備

⚠ 危険

作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリは完全に取り除いておいてください。
※ 怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備をするときは、十分な明るさを確保してください。
※ 暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキ（停車ペダルを踏み込みロック）をかけ、作業機を降ろすか油圧感度調節ダイヤルで「油圧ロック」位置にしてから行ってください。
※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。
※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。

エンジンを切ってすぐに点検・整備をしないでください。
エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等の原因となります。

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後しばらくたってよく冷えてから、注意しながら開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。
※ 守らないと、事故の原因となります。

⚠注意

取扱説明書に従って定期点検を実施してください。
※ 田植機を長持ちさせるとともに、正しく効率的な作業が行える第一歩です。

点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。
※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。
※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃液、燃料、冷却水（不凍液）、溶剤フィルタ、バッテリ、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、お買いあげ先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながります。

7.1.1 点検・給油・調整一覧表

○：点検　△：給油　×：交換

点検・給油・調整項目一覧		点検時間 作業前後	50時間ごと	100時間ごと	不調時	備考	参照ページ
エンジン部	エンジンオイル	○	×	初回のみ20時間で交換		純正油又は、API・SD/CD/GL-4級以上 SAE10W-30 3.5 L	113
	オイルフィルタ	200時間ごとに交換					114
	エアクリーナエレメント洗浄			○		エレメントは25時間ごと	119
	ラジエータ冷却水	○				1年1回交換（約4.5 L）	115
	ラジエータの清掃				○	冷却水交換時	118

点検・給油・調整項目一覧		点検時間				備考	参照ページ
		作業前後	50時間ごと	100時間ごと	不調時		
走行部	チェンジミッション ギヤボックス部（黒色キャップ）	分解時給油			○	純正油又は、API・GL-4級以上 SAE80W 10条-9L	49
	油圧サクションフィルタ			○		オイル交換時清掃	121
	チェンジミッション 油圧タンク部（黄色キャップ）	分解時給油				純正油又は、API・SD/CD/GL-4級以上 SAE10W-30 8L	49
	油圧オイルフィルタ	分解時給油					120
	リヤミッションオイル	分解時給油				純正油又は、API・GL-4級以上 SAE80W：各2.0L	122
	植付クラッチケースオイル	分解時給油				純正油又は、API・GL-4級以上 SAE80W 0.5L	123
	停車ペダルの点検	○				毎シーズン始め	36
	注油指定箇所	△				注油	51
	バッテリーの点検	○				毎シーズン始め	125
植付部	植付部フレーム	分解時給油				純正油又は、API・GL-4級以上 SAE80W 0.5L（1ヵ所）	45
	サイドフレーム	分解時給油				純正油又は、API・GL-4級以上 SAE80W 0.5L（4ヵ所）	45
	ロータリーケース	分解時給油				リチウムグリス JIS1種0号 各100g	45
	植込杆	一週間に1回				ウエコミカングリス各17.5g	50
	リードメタル	一週間に1回				リチウムグリス JIS1種0号 各0.06L	
	フィンガ13.5/Z，フィンガ14/G（植付爪）交換調整	○			×	摩耗、変形時 毎シーズン始め点検	130
	注油指定箇所	△				注油	51〜53
その他	電気配線の接続部（カプラ）のゆるみ、損傷、ヒューズ等の点検				○	毎シーズン終了後	127〜129
	各ワイヤの点検調整				○	毎シーズン始め	

点検項目		部　所	シーズン前	運転前	シーズン後(格納時)	整備内容	備　考	参照ページ
ロータ	各摺動部のガタ、ゆるみ	ロータ部 ロータ支持フレーム部	○	○		調整		50
	摩　耗	ロータ	○	○	○	点検 交換		50
	給油箇所	P53参照	○	○	○	給油		53
		ロータケース	分解給油時			調整	グリース150cc	
		チェーンケース(右側)					ギヤーオイル300cc	
		チェーンケース(左側)					ギヤーオイル350cc	

7.1.2 エンジンオイルの交換

⚠ 危険

オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

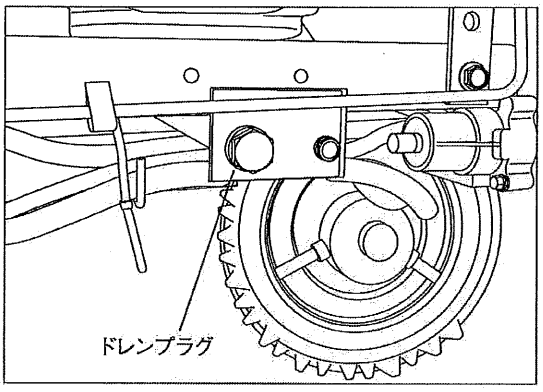
作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

補 足

- **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。**
  お買いあげ先にご相談ください。

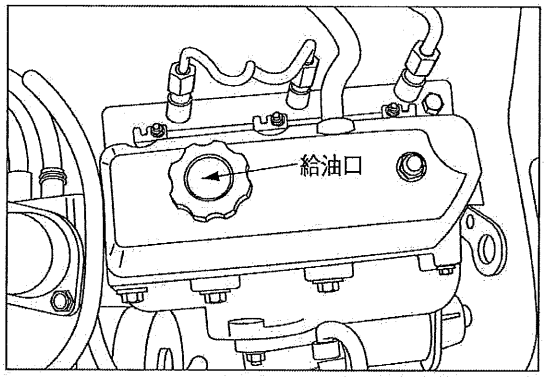
1 エンジンを暖気運転後、ドレンプラグを外しオイルを抜いてください。

2 ドレンプラグを締め付けてください。



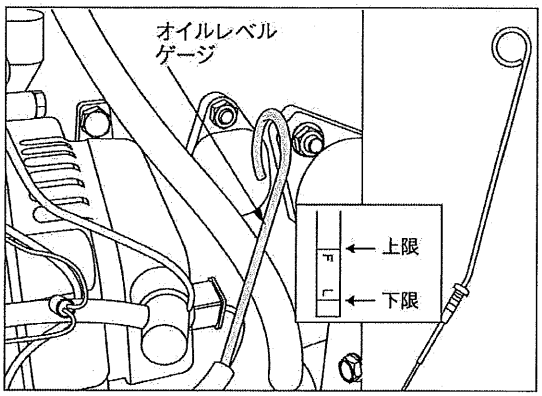
3 給油口からエンジンオイルを給油してください。(☞ 47 ページ)

4 オイルレベルゲージ（給油栓）の上下刻線の間に油量があるか確認してください。



機種	搭載エンジン	オイル量
LR103D	E3112	3.5L (オイルフィルタ交換時 3.7L)

5 オイルレベルゲージ（給油栓）を閉めてください。

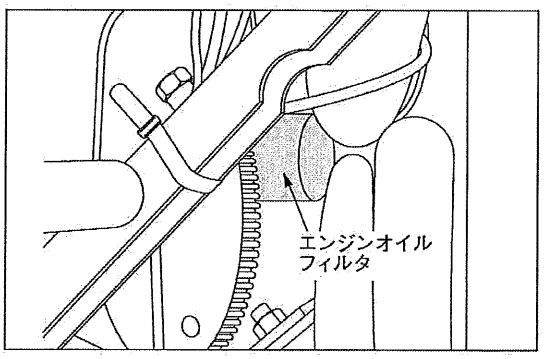


補 足

- 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながります。
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

7.1.3 エンジンオイルフィルタの交換

1 オイルフィルタを反時計方向にねじって外します。



2 新しいフィルタと交換し、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬってください。

3 元どおりに締め付けてください。

交換用フィルタ	
部品コード	品 名
9911 0000 660	カートリッジ(オイルフィルタ)

補 足

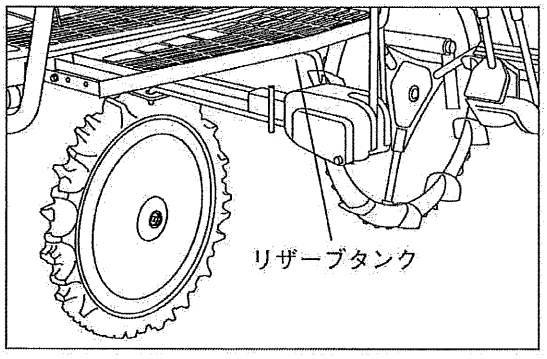
- 交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけオイルが減ります。規定量までオイルを追加してください。

7.1.4 冷却水の点検

■リザーブタンクの点検

1 エンジンカバーを開けてください。
（☞ 47ページ）

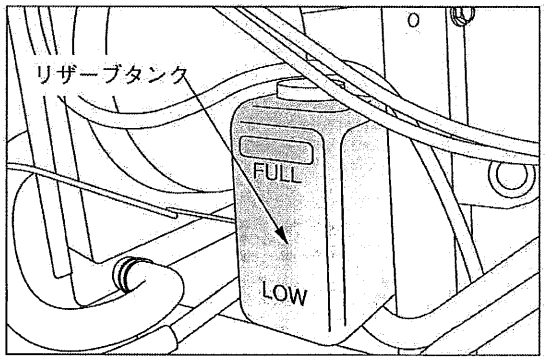
2 エンジン後部にあるリザーブタンクのキャップを外してください。



3 リザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内（FULL⇔LOW）にあるかどうか点検し、少ない場合は（FULL）ラインまで補給してください。

補 足

- **冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。**



4 点検後リザーブタンクのキャップを確実に閉め、エンジンカバーを閉じてください。

■ラジエータの点検

⚠ 警告

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

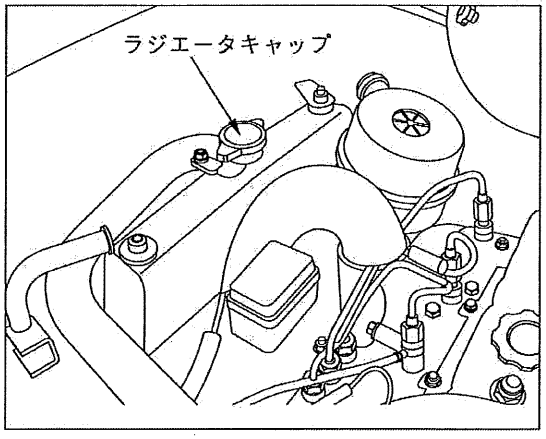
1 ラジエータキャップを外してください。

2 「口元」まで入っているかどうか点検し、少ない場合は補給してください。

補 足

- **冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。**

不凍液
三菱農業機械純正ロングライフクーラント 他有名メーカ品を使用



3 ラジエータキャップを閉めてください。

7.1.5 ラジエータホース

⚠ 注 意

ラジエータホースは使わなくても劣化します。シーズン前には、締付バンドのゆるみ、ホースの傷を必ず点検し、2年ごとに交換してください。

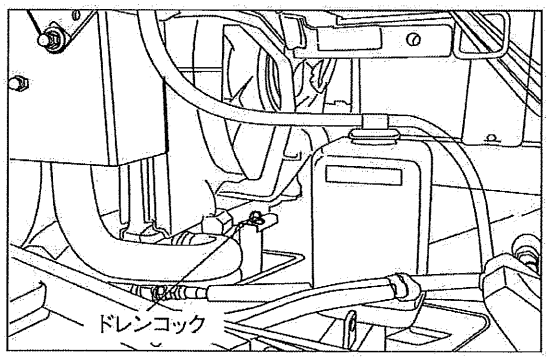
※ ラジエータホースが運転中に破損すると、熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

■交換

1 エンジン後方のドレンコックを開けて冷却水を抜きます。

補 足

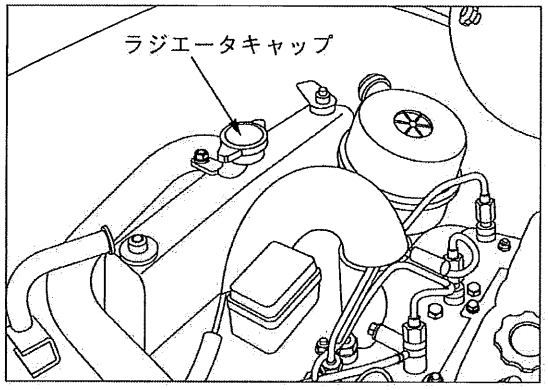
- **ラジエータキャップを同時に開けると、冷却水は勢いよく排出されます。**



2 水道水でラジエータ内部をよく洗浄してください。

3 冷却水は不凍液濃度50%のものを約4.5L用意してください。

4 ドレンコックを閉じてください。



5 冷却水を注入し、ラジエータキャップを確実に締めてください。

6 エンジンを始動してください。

7 約５分間ほどアイドリング回転で運転し、再度冷却水の量を確認し不足していれば補給してください。

■不凍液の使い方

⚠ 注 意

不凍液は産業廃棄物にあたります。河川、土壌への廃棄は行わないでください。
廃棄するときは、お買いあげ先にご連絡ください。
※ 廃棄物をみだりに廃却、焼却すると環境汚染につながります。

注 意

冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。
※ 冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。

(1) 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。
(2) 不凍液の混合は、不凍液メーカや気温により異なります。不凍液メーカの説明書に従ってください。
(3) 不凍液は水とよく混合し、注入してください。
(4) 不凍液の補給
  (a) 蒸発の場合
    冷却水が減った分だけ、水を補給してください。
  (b) ブリーザより漏れた場合
    同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

■ラジエータコアの清掃

注 意

強い圧力水をかけないでください。
※ 守らないと、フィンが変形することがあります。

エンジンのまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。
※ 守らないと、故障の原因となります。

フィンの間にゴミが入った場合は、水道水で流してください。

7.1.6 エアクリーナエレメントの清掃

注 意

清掃時は、エレメントを石やコンクリートのような硬い物でたたかないでください。
※ エレメントが破損・変形すると、エンジンの性能が発揮できなくなります。

100時間ごとに清掃してください。

■清掃のしかた

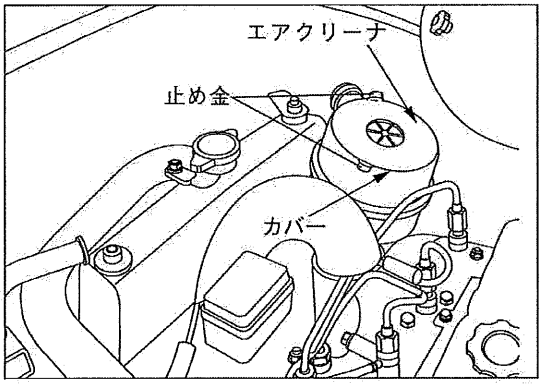
1 エンジンカバーを開きます。

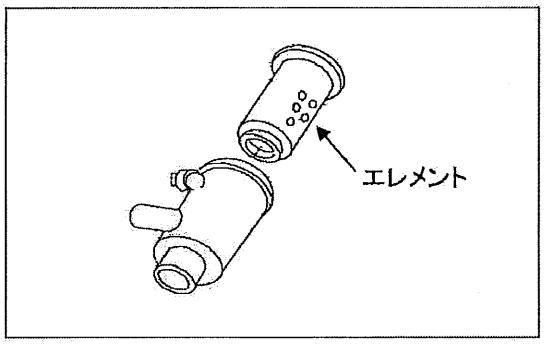
2 カバーを外し、エレメントを抜き取ります。
（止め金２箇所）

3 エレメントを手で持ち、軽くたたいてホコリを落してください。
■ホコリがひどい時
エレメント内部より空気を吹き付けてください。

4 エレメント清掃後、確実に組み付けてください。

5 カバーを取り付けます。
補 足
- **ホコリの多い場所では運転前に点検し、早めに清掃してください。**





7.1.7 油圧オイルフィルタの交換

⚠ 危険

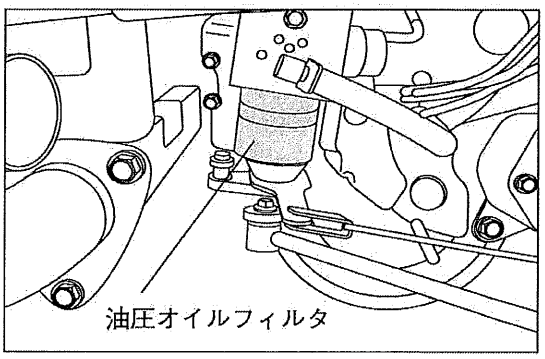
オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

1 オイルフィルタを反時計方向にねじって外します。

2 新しいフィルタと交換し、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬってください。

3 元のように締め付けてください。


油圧オイルフィルタ

交換用フィルタ	
部品コード	品名
2694 6028 930	カートリッジASSY

補 足

- 交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量まで油圧オイルを追加してください。（オイルの種類・検油のしかた等 ☞ 111 ページ）

7.1.8　油圧サクションフィルタの清掃

⚠ 危 険

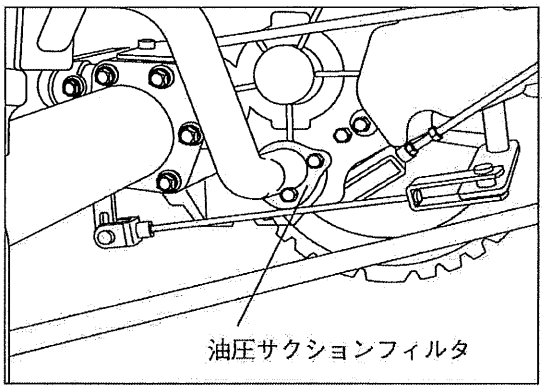
オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※　守らないと、火災の原因となります。

作業中は火気厳禁です。
※　守らないと、火災の原因となります。

補 足

- **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながります。お買いあげ先にご相談ください。**

オイル交換時に、２本のボルトを外して引き抜き、点検・清掃してください。



7.1.9 リヤミッションオイルの給油

⚠ 危険

オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

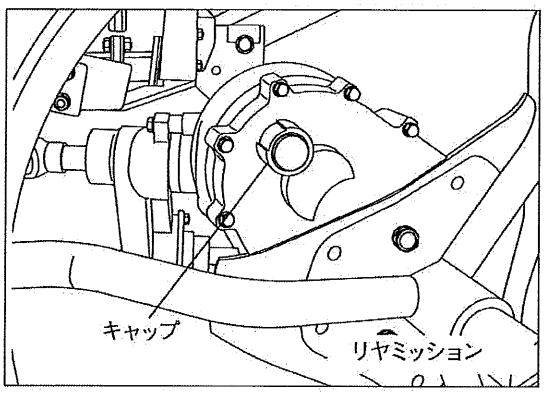
作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

補 足

- **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながります。お買いあげ先にご相談ください。**

リヤミッション分解時に、キャップを外してオイル（純正油又は、API・GL-4級以上、SAE80W）を給油してください。

機　種	オイル量
LR103D	左右各　2.0 L



7.1.10 植付クラッチケースの給油

⚠ 危険

オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

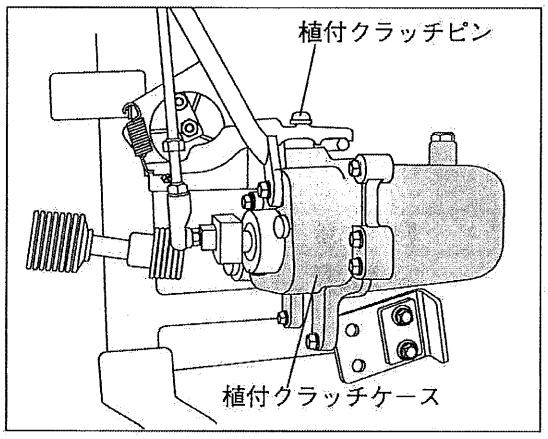
作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

補足

- **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながります。お買いあげ先にご相談ください。**

植付クラッチ分解時に、植付クラッチピンを外してオイル（純正油又は、API・GL-4級以上、SAE80W 0.5 L）を給油してください。
給油後は植付クラッチを元どおりにしてください。

機　種	オイル量
LR103D	0.5 L



7.1.11 ファンベルトの点検と調整

⚠ 注 意

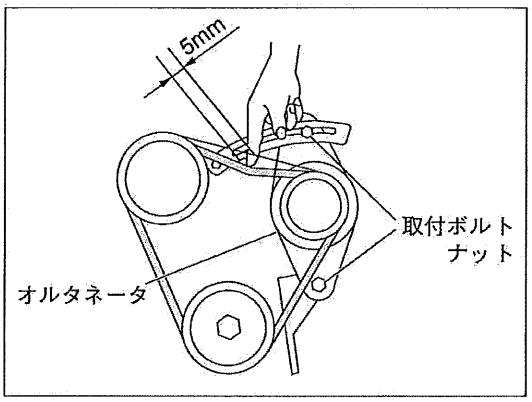
ファンベルトの張り具合の調整は、エンジン停止後、十分冷えてから点検を行ってください。
※ 守らないと、マフラ等に当りやけどすることがあります。

■点検

1 ベルトの中央部を手で押さえて、5mm程度たわむか、確認します。

2 ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因となります。下記「調整」を参考に調整してください。

3 ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換します。



■調整

1 オルタネータを取り付けているナットとボルトをゆるめます。

2 オルタネータを動かし、ベルトの中央部を手で押さえます。ベルトの張りが5mmたわむ程度に調整してください。

3 調整後はナットとボルトを確実に締め付けます。

補 足

- **新品のファンベルトは組み付け直後、運転すると、必ず初期伸びが発生します。交換調整後約1時間運転した後、初期伸び調整を再度行ってください。この調整を行わないと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。**

7.1.12 バッテリの点検と交換

⚠ 危険

バッテリ液を身体や衣服につけないようにしてください。
バッテリ液は希硫酸（劇物）です。
※ 万一身体や衣服についた場合は、すぐ多量の水で洗ってください。

バッテリを外すときは、必ず⊖コードから外してください。
※ ショートによる火災の原因になります。

バッテリを取り付けるときは、⊕コード、⊖コードを確認して間違わないようにし、必ず⊕コードから取り付けてください。
※ ショートによる火災の原因になります。

バッテリの充電は、バッテリを本機より、取り外してから補充電してください。
※ 引火爆発のおそれがあります。

充電や使用は通風のよいところで行い、火気を近づけないでください。
※ 引火爆発のおそれがあります。

補充電をした場合はすぐにエンジンを始動させないでください。
※ 引火爆発のおそれがあります。

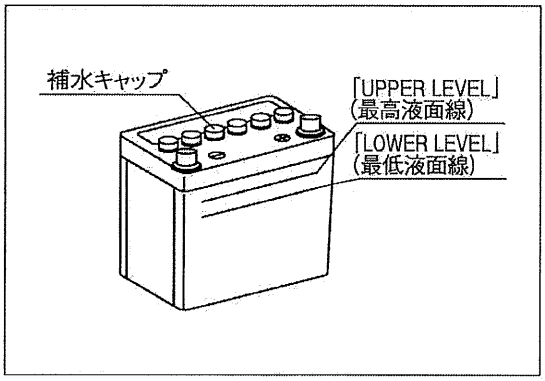
⚠ 警告

バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。
※ 静電気により引火爆発のおそれがあります。

バッテリは、シーズン前に、点検してください。

補 足

- バッテリ液は使っているうちに蒸発して減少します。バッテリ前面の2本の線（レベル）の間に液面があるか確認してください。少ないときは上側の線（レベル）まで補給してください。
- 液が減ったときは、精製水を補給します。
- 上側の線（レベル）以上に補給をすると、液が染み出して機体が腐食してしまう恐れがあります。
- 補水キャップの排気口にゴミ等が付着しているときは、取り除いてください。
  また、排気口はふさがないようにしてください。
  内圧が上昇し、破損する恐れがあります。



■点検と取り扱い

(1) 気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬季は特にバッテリの管理に注意してください。
(2) バッテリは使用しなくても自己放電しますから、放電しているときは、補充電を行います。
(3) 田植機を長期格納する場合は、バッテリを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外します。
(4) 新品のバッテリと交換する場合は必ず指定した型式（55B24L）のバッテリを使用します。

■補充電のしかた

・充電をする際は、補水キャップを全て開け、中にバッテリ液が入っていることを確認し、風通しのよい場所で充電をしてください。
・バッテリ液が足りない場合は、精製水（もしくはバッテリ用補充液）を規定量まで補充してから充電してください。
・充電後は30分程度放置し、ガスが抜けるのを待ってからフタの液口栓を全て閉めて田植機へ搭載してください。
・詳細な充電方法は充電器の取扱説明書をお読みください。

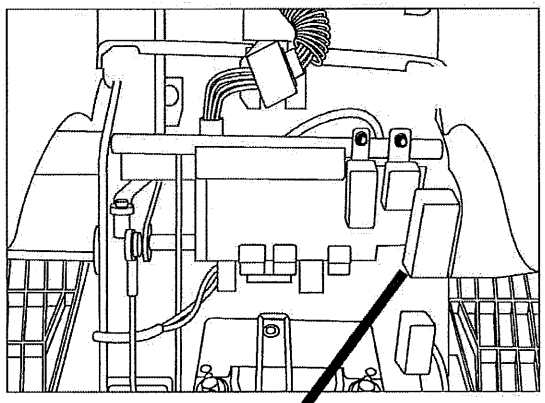
7.1.13 ヒューズの交換

⚠ 注 意

部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

■全型式

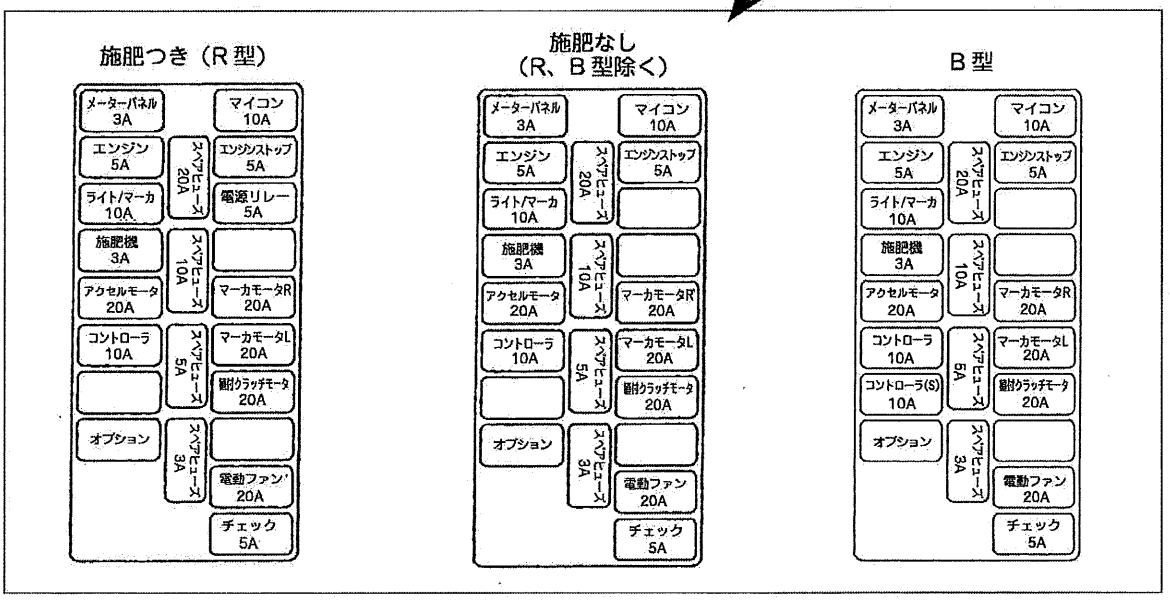
1 ボンネットを開け、ヒューズケースを開いてください。
中にヒューズが入っています。



2 切れたヒューズを外します。
(3A、5A、10A、20A)

3 同容量のヒューズと交換してください。
補 足
- **ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合は、お買いあげ先へご相談ください。**

4 ヒューズケースを閉じ、ボンネットを閉じてください。



7.1.14 スローブローヒューズの交換

⚠ 注 意

部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

補 足

- スローブローヒューズが焼損した場合は、お買いあげ先へご相談ください。

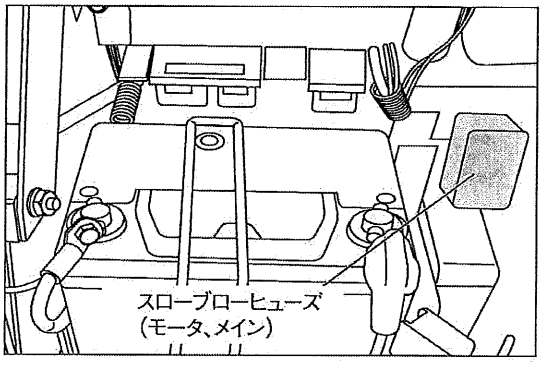
■モータとメイン

1 ボンネットを開けてください。

2 バッテリ⊕端子部にスローブローヒューズがあります。焼損したスローブローヒューズを抜き、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

部品コード	品名	容量
9909 0000 360	ヒューズ (スローブロー)	40A

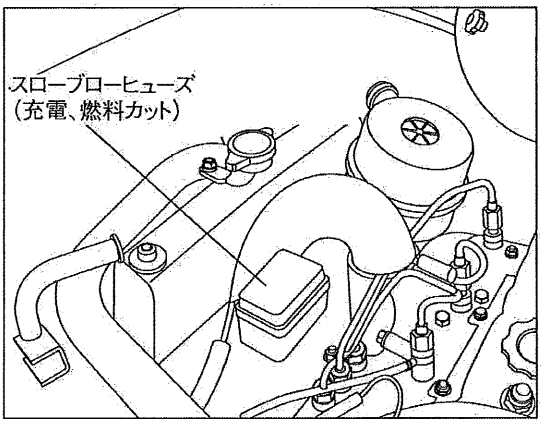
3 ボンネットを閉じてください。



■充電と燃料カット（ブロア）

1 エンジンカバーを開けてください。

2 エンジン後部にスローブローヒューズがあります。
焼損したスローブローヒューズを抜き、同容量のスローブローヒューズと交換してください。



ラベル	部品コード	品名	容量
充電	2694 6029 130	ヒューズ (スローブロー)	60A
燃料カット (ブロア)	2694 6028 940	ヒューズ (スローブロー)	50A

3 エンジンカバーを閉めてください。

補 足

- **60A スローブローヒューズを取り外しするときは、必ずバッテリの⊖端子を外してから行ってください。ネジ止めタイプですから取り外しする際、工具が金属部に接触するとショートして火花が飛び火災発生の原因になります。**

7.1.15 ランプの交換

ランプを外し、同型のランプと交換してください。

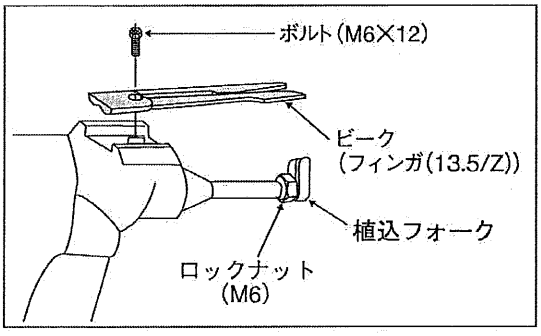
補 足

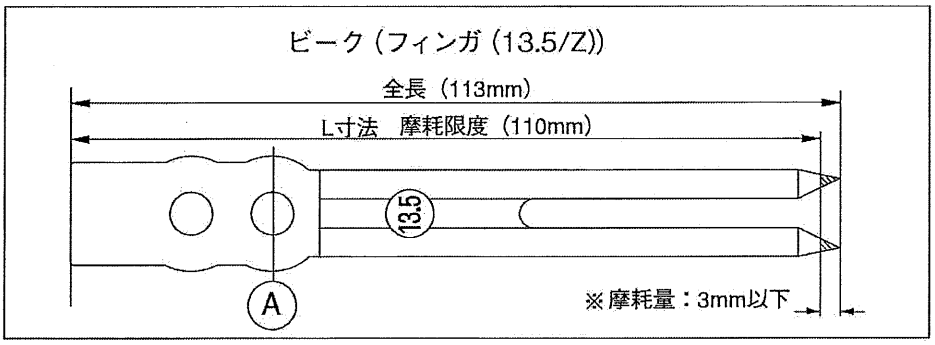
- **ランプが切れた場合は、お買いあげ先でご注文ください。**

部品コード	品　名	使用場所
2694 6000 230	バルブ（12V　16W）	ヘッドランプ
9911 0005 250	バルブ（ランプ12V　1.7W）	燃料モニターのみ
2694 6021 550	バルブ（ランプ12V　3.4W）	燃料モニター以外のモニターランプ

7.1.16 ビーク（フィンガ（13.5/Z））の点検・交換

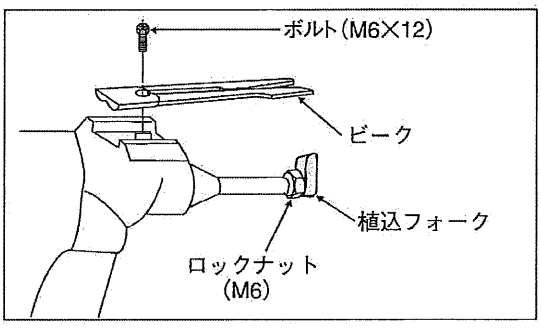
ビークの先端が摩耗又は変形すると植付不良となります。
摩耗限度は3mmを目安としておりますので、下図（実物大）に照合して確認してください。
ビークの全長Ｌ寸法が110mm以上あれば摩耗限度内です。標準付属品の苗取口ゲージを使って苗取量の調整（☞ 90ページ）を行ってください。
但し、Ｌ寸法が110mm未満の場合は摩耗限度に達していますので、ビークを新品に交換してください。

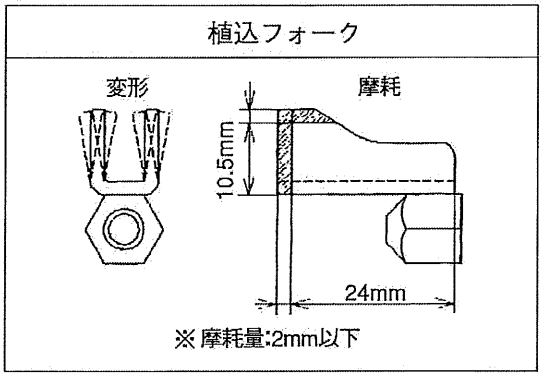




7.1.17 植込フォークの点検・交換

植込フォークが摩耗または変形すると植付姿勢が悪くなります。
植込フォークの摩耗状態が2mm以上（残りが、高さ方向10.5mm、長さ方向24mm）摩耗しているときは、交換してください。
植込フォークが変形しているときは、押し出し確認または、交換してください。



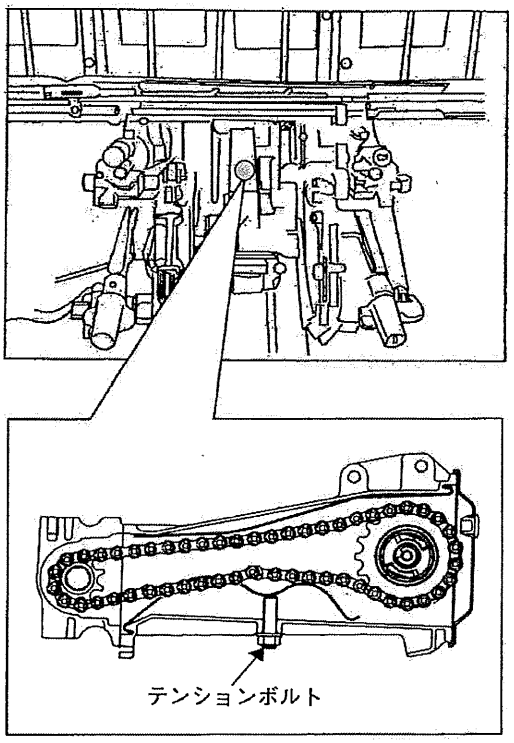


7.1.18 「植込杆駆動用チェン」の点検

(1) 植込杆駆動用チェンの張力を適正に保つためのボルトです。
4箇所あるサイドフレームの下部にそれぞれ1箇所ずつ配置されています。

(2) チェンが伸びたときに調整します。

●調整するときは、お買いあげ先にご相談ください。



8. 格納時の手入れ

8.1 日常の格納

⚠ 危険

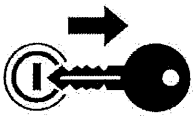
洗車するときは、メータパネル、電装品、給油口、警告ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、下記のように傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. ハーネス被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホース・配管類の破損により、高圧の油が噴出して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。

※ 守らないと、いたずら等で重大な事故になることがあります。



作業が終了して、シートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

⚠ 警告

田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。

※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

8.2 長期格納

⚠ 危険

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、加熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

燃料抜取時は火気厳禁です。

※ 守らないと、火災の原因となります。

燃料を放置しないでください。

※ 放置すると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となるおそれがあり、大変危険です。

⚠ 警告

田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。

※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

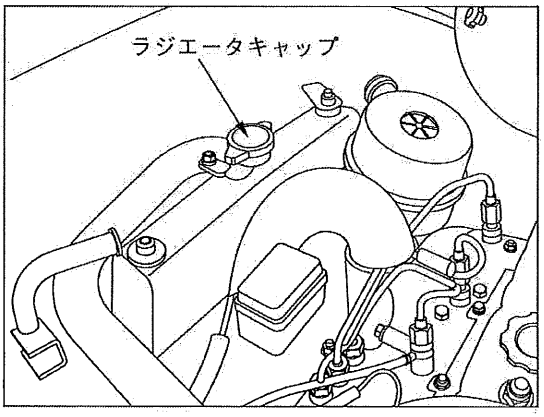
1 水洗いし、回転部等に巻き付いたゴミ等をきれいに取り除いてください。

2 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

3 回転部、摺動部にたっぷり油を差し、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。
(☞ 51 ～ 53 ページ)

4 燃料を満タンにして水の発生を防いでください。

5 ラジエータの冷却水を抜いてください。排水後「水なし」と書いた札をステアリング(ハンドル) にかかげてください。



6 植付部は降してください。

7 停止ペダルは踏み込みロックしてください。

8 バッテリは取り外し、補充電を行い日光の当らない乾燥した場所に保管してください。
どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側 (⊖側) を外してください。

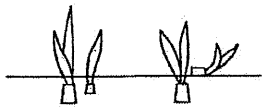
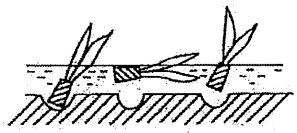
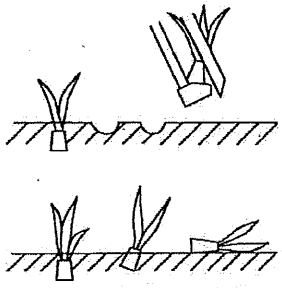
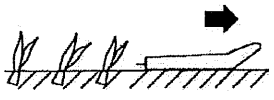
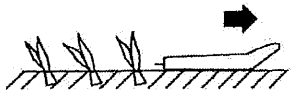
補 足

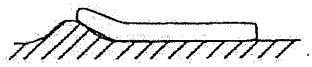
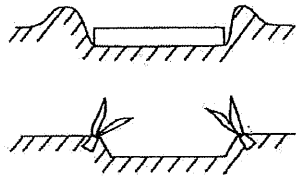
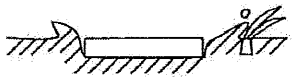
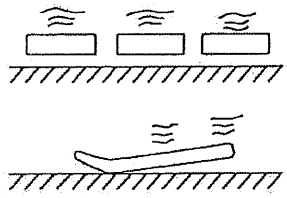
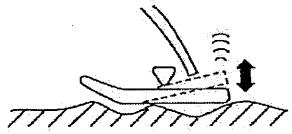
- **夏期には2ケ月、冬期には3ケ月以内に補充電をするとバッテリが長く使用できます。**

9 格納場所は直射日光の当らない風通しの良い場所を選定し、シートを掛けてください。

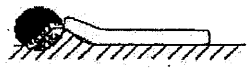
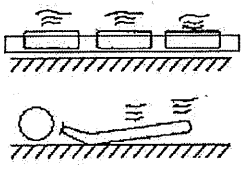
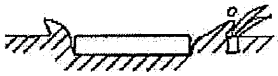
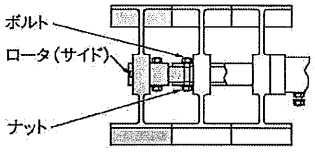
9. 不調時の処置

9.1 不調と処置

不調の内容	原　因	処置方法
苗がバラけて植わる。 	● 苗の根張りが悪い。 ● 苗の床上が砂質で苗床に粘りがない。	● 苗に水をかける。 ● 植付速度を遅くする。
	● 苗の床土が乾いている。	● 苗に水をかける。
	● 植付速度が速すぎる。	● 植付速度を遅くする。
苗が一本、二本だけ離れ植付が乱れる。 	● 苗の根張りが悪い。 ● 苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。	● 抵抗棒のセット位置を変える。(☞ 92 ページ) ● 苗に水をかける。
	● 抵抗棒のセット位置が悪い。	● 抵抗棒のセット位置を変える。(☞ 92 ページ)
	● 苗の床土が乾いている。	● 苗に水をかける。
	● 植込杆駆動チェンのゆるみ。	● 植込杆駆動用チェンの点検。(☞ 131 ページ)
爪であけた穴がふさがらず、水を入れると浮き苗となる。 	● ほ場が硬い。 ● 砂質系のほ場。	● 水を1～2cm入れ、ほ場の表土を軟らかくして植える。 ● 代かき直後に植える。
苗が植付爪より離れず欠株または苗がころぶ。 	● 苗床が粘土質で粘りが強い。 ● 粘土質のほ場で水が少ない。 ● 抵抗棒のセット位置が悪い。(抵抗のかけすぎ) ● 植込フォークの押し出しが遅い。	● 苗床に十分水が含むよう、水をかける。 ● ほ場に1～2cm程水を入れる。 ● 抵抗棒のセット位置を変える。(☞ 92 ページ)
前進方向に傾き植わる。 	● 抵抗棒のセット位置が悪い。(抵抗のかけすぎ)	● 抵抗棒のセット位置を変える。(☞ 92 ページ)
前進方向と反対側に傾き植わる。 	● 抵抗棒のセット位置が悪い。(抵抗が弱い)	● 抵抗棒のセット位置を変える。(☞ 92 ページ)

不調の内容	原　因	処置方法
フロートで泥を押す。 	● 油圧感度調節が田んぼの硬さに合っていない。 ● 田んぼの表土が軟らかい。	● 油圧感度調節ダイヤルを「軟」方向に泥を押さなくなるまで調節する。
フロートが沈み跡が深く付く、または苗が内側に倒れ込む。 	● 植付速度が速すぎる。 ● 田んぼの表土がトロトロで軟らかい。	● 植付速度を遅くする。 ● 水を落し表土を硬くする。または硬くなるまで植付を延期する。
サイドフロートで泥を押し隣接苗を倒す。 	● 苗を多くのせすぎている。	● 苗のせ台に苗を多く（2枚）のせない。
フロートが浮き上がる。 	● 油圧感度調節が田んぼの硬さにあっていない。 ● 油圧感度調節ダイヤルが「油圧ロック」位置になっている。	● 油圧感度調節ダイヤルを「硬」方向にフロートが浮き上がらなくなるように調節する。 ● 油圧感度調節ダイヤルを植付できる適正な位置に調節する。
植付部全体がバタバタする。 	● 油圧感度調節が「軟」側によりすぎている。 ● エンジン回転数が高すぎる。 ● 田んぼの耕盤が凸凹している。 ● 土のかたまりの上にセンタフロートが乗っている。	● 油圧感度調節ダイヤルを「硬」方向にバタつきがなくなるように調節する。 ● 植付速度を遅くする。 ● 植付速度を遅くする。 ● そのまま前進する。
サイドフロートの片方だけが浮き上がる。 	● 植付部の左右のバランスがとれていない。	● 傾き調節ダイヤルで左右バランスを調節する。

9.2 ロータ仕様機の不調と処置

不調の内容	原　因	処置方法
ロータで泥を押す。 	1）ロータ高さが田んぼの硬さにあっていない。 2）油圧感度調節が田んぼの硬さに合っていない。	1）ロータ高さ調節レバーを「高い」側に調節する。 2）油圧感度調節ダイヤルを「軟」方向に泥を押さなくなるまで調節する。
凸凹跡が消えない 	1）ロータ高さが田んぼの硬さにあっていない。 2）油圧感度調節が田んぼの硬さに合っていない。	1）ロータ高さ調節レバーを「低い」側に調節する。 2）油圧感度調節ダイヤルを「硬」方向にフロートが浮き上がらなくなるまで調節する。
隣接条へ泥を押し、苗を倒す。 	1）田んぼの表土が柔らかすぎる。 2）苗を多くのせすぎている。	1）ボルト、ナットをはずし、両端のロータを一個ずつ外す。  2）苗のせ台に苗を多く（2枚）のせない。
ロータが回らない。	1）ロータ高さ調節レバーが「収納」位置になっている。 2）植付部のフロート底面高さが400mm以上になっている。 3）田植機が止まっている。 4）ケーブルの調整不良。	1）ロータ高さ調節レバーを「収納」位置以外の位置にする。 2）植付部を下降させる。 3）田植機を前進させる。 4）ケーブルを調整する。
ロータが止まらない。	1）ロータ高さ調節レバーが「収納」位置になっている。 2）植付部が上がっていない。 3）ケーブルの調整不良。	1）ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にする。 2）植付部を上昇させる。（400mm以上） 3）ケーブルを調整する。

9.3 植付部ローリングの応急処置

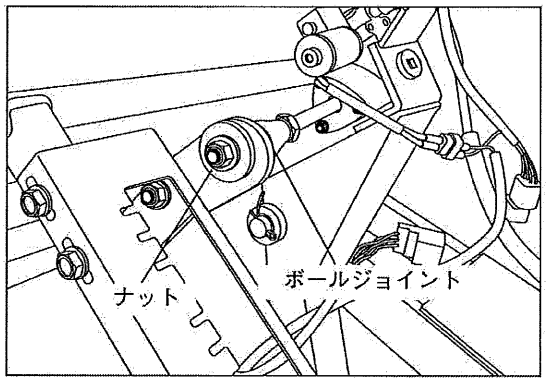
ローリングが正常に作動しなくなった場合は、下記の要領で応急処置をしてください。

1 ローリングシリンダー部に連結されているボールジョイントのナットを外してください。

2 油圧シリンダとの連結を外すことにより応急的に作業ができます。

補 足

- **センサー、スイッチの点検または、配線の修復を必要とする故障と考えられます。お買いあげ先にご連絡ください。**



9.4 コントローラによる設定変更と異常表示について

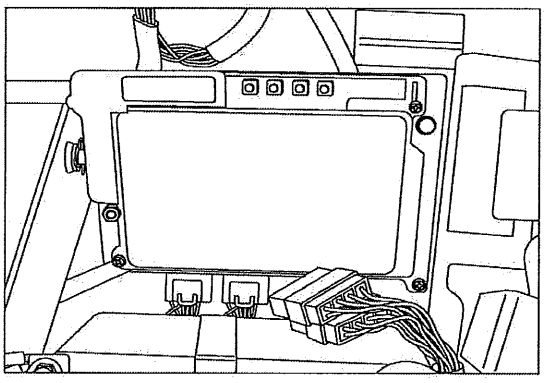
⚠ 警 告

設定変更や点検をおこなうときは、エンジンを必ず止めてください。
※ 守らないと、衝突・転落事故を引き起こすおそれがあります。

ボンネット内にあるコントローラを使って設定の変更やモニターパネルのマイコンチェックのランプが点灯しているときに異常の内容を確認できます。

補 足

- **コントローラの表示部には通常はアワメータが表示されています。**



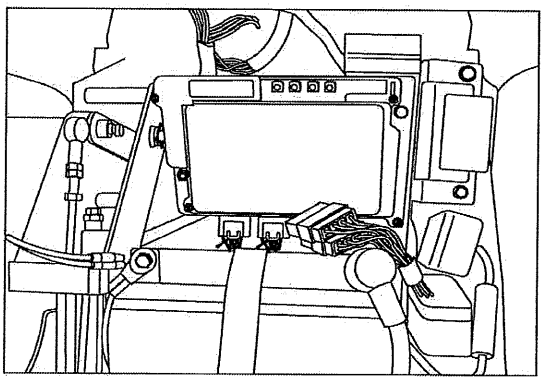
■設定変更

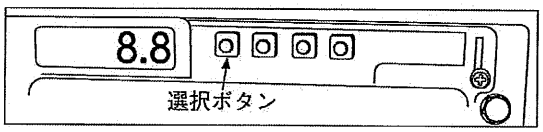
(1) コントローラの選択ボタンを１回長押しします。(約１秒)

(2) 表示が“CP”のついた設定変更の画面に変わります。

(3) “選択”ボタンで設定の種類を選びます。

(4) “▼▲”ボタンで設定の変更の度合いを選び“決定”ボタンで決定してください。
設定変更ができる項目は以下のものがあります。





補 足

- **外付補助車輪を装着した際は必ず下表の3の設定変更をおこなってください。**

設定の種類			内容	初期値	調整範囲
植付ローリング	傾き調節	1.	水平基準値を変更できます。 ▲(+)：右下がり	−	−
	入り、切り	2.	ローリングの「入」「切」を選択できます。 「0」切り、「1」入り	001	000又は 001
スーパースマイルターン	外付け補助車輪の有無	3.	外付補助車輪装着時に選択してください。 「0」無し、「1」有り	000	000又は 001
	植え始め調節の基準値変更	5.	植え始めタイミングを変更できます。 ▲(+)：早く (ノブ1クリック分)	000	−10 ～ 010
	旋回時植付部上昇ポイント変更	6.	植付部の上昇タイミングを変更できます。 ▲(+)：早く（ハンドル角度6°ずつ）	000	−10 ～ 010
油圧感度調節	センサフロート感度不感帯幅変更	7.	油圧感度を敏感、鈍感に変更できます。 ▲(+)：鈍感	010	005 ～ 015
	車速による感度補正幅変更	8.	感度補正幅の変更ができます。 ▲(+)：敏感	005	003 ～ 007
スーパースマイルターン旋回時植付部　下降ポイント変更		9.	植付部の下降タイミングの変更ができます。(初期値は機種で異なる) ▲(−)：早く（5～10を目安に変更してください）		

■エラー表示

(1) モニターパネルのマイコンチェックのランプが点灯した場合はコントローラの表示部に表示されている文字を販売店にご連絡ください。

補 足

- **コントローラの表示部にはアワメータとエラー表示が交互に表示されます。**
- **E.204とE.501が表示される場合はマイコンチェックランプは点灯しません。**

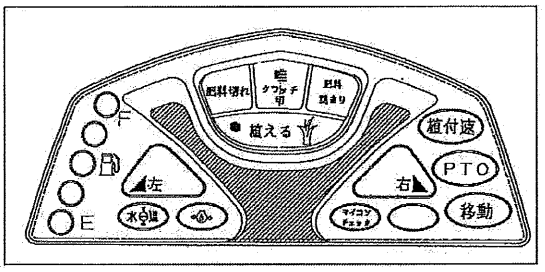


	表　示	表　示
エラー表示	E.101	スマイルシフトグリップ異常
	E.201	スーパースマイルターン異常（ステアリングセンサ異常）
	E.202	スーパースマイルターン異常（回転センサ左異常）
	E.203	スーパースマイルターン異常（回転センサ右異常）
	E.204	植え始め調節ノブ異常
	E.301	植付ローリング異常（水平センサ異常）
	E.302	植付ローリング異常（ポテンショメータ異常）
	E.401	電動マーカ異常
	E.501	感度調節ノブ異常
	E.502	センサフロートポテンショメータ異常
	E.601	オートリターン異常（リンクスイツチ異常）

■作業モニター表示

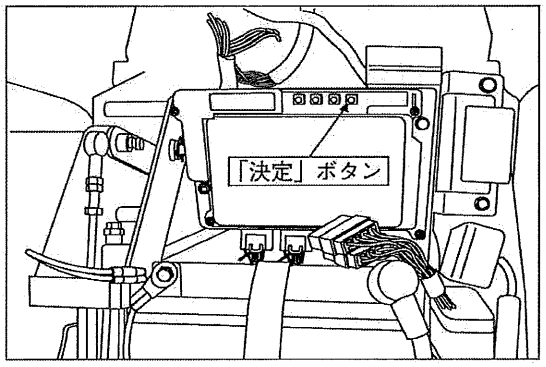
(1) 「決定」ボタンを長押し（約1秒）します。

(2) 表示が「hour」→「＊＊＊＊」(作業時間) →「ArEA」→「＊＊＊＊」(作業面積) →「SEHI」→「＊＊＊＊」(施肥量)の順番で切り替わります。

(3) 終了するときは「決定」ボタンを長押し（約1秒）すると元の表示に戻ります。

補 足

- **作業モニター表示中に「▼▲」ボタンを同時に押すと、リセットされ、全ての「＊＊＊＊」の数値が「0」に戻ります。**
- **上記操作をしても、アワメータ表示は「0」には戻りません。**
- **作業モニターは、ほ場条件等により、誤差が生じる場合があります。**



10. 付表

10.1 推奨潤滑油一覧表

区　　分		メーカ名	商　品　名
エンジンオイル		三菱農業機械 純正油	スーパーマルチSTOUオイル (SAE10W-30, SD/CD/GL-4)
ギヤーオイル	チェンジミッションオイル (ギヤーボックス部)	三菱農業機械 純正油	スーパーマルチSTOUオイル (SAE10W-30, SD/CD/GL-4) 又は スーパーマルチGBオイル (SAE80W, GL-4)
	リヤミッションオイル		
	植付クラッチケースオイル		
	植付部フレーム		
	サイドフレーム		
主変速オイル	チェンジミッションオイル (油圧タンク部) (油圧無段変速機オイル)	三菱農業機械 純正油	スーパーマルチSTOUオイル (SAE10W-30, SD/CD/GL-4)
グリース	一般グリース		リチウムグリスJIS1種0号
	ロータリーケース		リチウムグリスJIS1種0号
	植込杆		ウエコミカングリス
	リードメタル		リチウムグリスJIS1種0号
燃料		有名メーカ品	ディーゼル軽油
不凍液		三菱農業機械 純正油	ロングライフクーラント

10.2 主要諸元

販売型式名			LR103D			
型式名			P05610			
仕様区分			—	HB2	WHB2	WHJ
機体寸法	全長(mm)		3,360			3,600
	全幅(mm)		3,460（収納時2,400）		3,730（収納時2,600）	
	全高(mm)		1,900	1,680	1,680	2,500
	最低地上高(mm)		450			
重量(kg)			950	1,130	1,150	1,060
エンジン	型式名		E3112			
	種類		水冷4サイクル3気筒立型ディーゼル			
	総排気量(L)		1.123			
	出力/回転速度(kw{ps}/rpm)		16.9 {23.0} /2600			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量(L)		20			
	始動方式		セルモータ式			
走行部	かじ取り方式		センターヨーク式			
	車輪 種類個数	前輪	広幅ノーパンクタイヤ×2	広幅ワイドタイヤ×2		
		後輪	太リムラグ車輪×2			
	車輪 外径(mm)	前輪	650			
		後輪	950			
	変速段数(段)		前進2、後進2			
植付部	植付部の位置		後部			
	植付部の昇降方式		油圧式			
	植付部の装着方式		4点リンク			
	植付方式		ロータリー			
	植付条数(条)		10			
	植付条間(cm)		30		33	
	植付株数(株/3.3m²)		80,70,60,50,42,37		70,65,55,45,40,35	90,85,80,75,70,65
	植付深さ(cm)		2.0～5.0（7段）			
	一株本数調節方法		横送り11.7～15.6mm、縦かき取り8～18mm/株			
植付速度(m/秒)			1.6（※1.44） （疎植車速牽制時　1.4（※1.26））			
作業能率(分/10a)			6.4		5.8	
苗条件	苗の種類		マット苗			
	草丈(cm)		10～25			
	葉齢(葉)		マット苗2～4			
予備苗搭載数(箱)			10	14		40
型式検査合格番号						
安全鑑定適合番号						

※車輪スリップ率10%

10.3 ロータ仕様

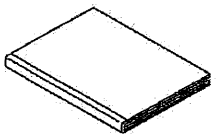
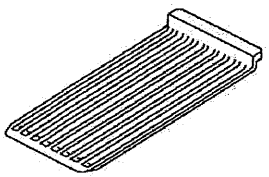
装着田植機型式	10条型
ロータ径（mm）	φ140
ロータ幅（mm）	3010（W型3230）※｛2440（W型2440）｝
ロータ高さ調節	9段＋収納

○仕様は改良のため変更することがあります。
○ロータを収納することにより※の幅になります。

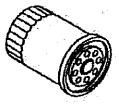
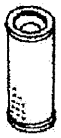
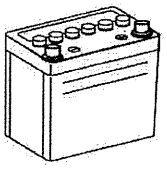
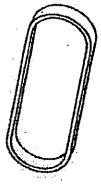
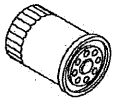
10.4 機能装備一覧表

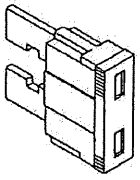
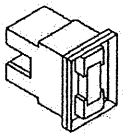
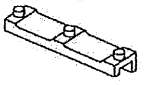
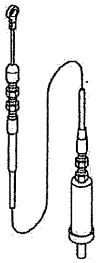
			LR103D				
			—	P	HB2	WHB2	WHJ
エンジン	ディーゼルE3112 (最大23ps)		○	○	○	○	○
変速	ＨＳＴ		○	○	○	○	○
パワーステアリング			○	○	○	○	○
前輪	広幅ノーパンクタイヤ	φ650 (幅90)	○	○			
	広幅ワイドタイヤ	φ650 (幅142)			○	○	○
後輪	後輪太リムラグ	φ950	○	○	○	○	○
補助車輪	内付け補助車輪	φ870			○	○	
	外付け補助車輪	φ950、φ900			○φ950	○φ950	○φ900
パネルモニター		燃料計	○	○	○	○	○
マイコン	スマイルシフト		○	○	○	○	○
	ローリング		○	○	○	○	○
	バックリフト		○	○	○	○	○
	自己診断		○	○	○	○	○
スーパースマイルターン			○	○			○
ミラクルスマイルターン					○	○	
オートアクセル			○	○	○	○	○
アクセル制御調整ダイヤル			○	○	○	○	○
フロントホイルキャップ			○	○	○	○	○
前輪デフロック			○	○	○	○	○
後輪ローリング			○	○	○	○	○
ワンタッチ横送り3段			○	○	○	○	○
ロング苗タンク			○	○	○	○	○
フロート間均平レーキ			○	○	○	○	○
あぜクラッチレバー手元化			○	○	○	○	○
電動水車マーカ			○	○	○	○	○
苗取板枚数(枚)			1	1	1	1	1
条間	30cm		○	○	○		
	33cm					○	○
植付株数(株)	37~80		○	○	○		
	35~70					○	
	65~90						○
まくらっこ			○	○	○	○	○
補助苗枠数	10 枚		○	○			
	14 枚				○	○	
	40 枚						○
側条施肥	粒　状						
	ペースト			○			

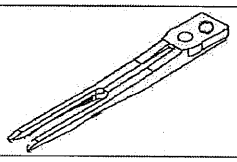
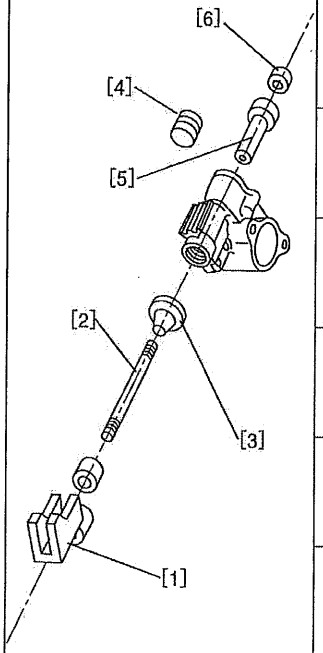
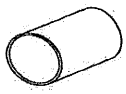
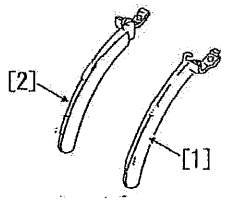
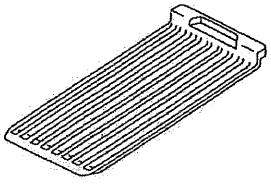
10.5 標準付属品一覧表

形　状	型　式	品　名	部品コード	個数
	全型式	マニュアル (オペレーション/LR103D)	9514 0000 010	1
	全型式	ナエトリイタ	9020 7153 910	1
	全型式	ナエトリクチゲージ	2694 6000 200	1
	全型式	フォークピース (PZ)	2694 6029 010	条数 ×2

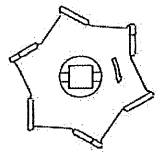
10.6 主な消耗部品一覧表

形　状		型 式 LR103D	品　名	部品コード	備 考
(エンジンオイル用) 		○	カートリッジ (オイルフィルタ)	9911 0000 660	200時間ごとに交換
		○	エレメント	9911 0000 750	
		○	バッテリー (55B24L) ASSY	3684 0001 180	
	エンジンベルト (HSTベルト)	○	ベルト (VB052/HP-X) SET 2本セット品	2694 6044 660	亀裂・摩耗時交換
	ゼネレータベルト (ファンベルト)	○	ベルト (V NR5 A36.0)	2694 6044 650	
(変速オイル用) 		○	カートリッジ ASSY	2694 6028 930	初期30時間以降100時間ごとに交換

形　状	型　式 LR103D	品　名	部品コード	備　考
	○	ヒューズ (ブレード/32V03A)	2694 6029 120	ヒューズ切れ時交換
		ヒューズ (ブレード/32V05A)	9911 0000 810	
		ヒューズ (ブレード/32V10A)	9911 0000 830	
		ヒューズ (ブレード/32V20A)	9911 0019 040	
	○	ヒューズ (スローブロー)(40A)	9909 0000 360	
	○	ヒューズ (スローブロー)(50A)	2694 6028 940	
	○	ヒューズ (スローブロー)(60A)	2694 6029 130	
〈ヘッドランプ用〉 	○	バルブ (12V　16W)	2694 6000 230	ランプ切れ時交換
〈モニターランプ用〉  燃料モニターのみ	○	バルブ (ランプ/12V　1.7W)	9911 0005 250	
 燃料モニター以外	○	バルブ (ランプ/12V　3.4W)	2694 6021 550	
〈しゅう動板スライダー〉 	○	スライダー	2675 0002 850	摩耗時交換
	○	しゅう動板 (マエイタ)		
	○	ナエタンクローラ	2675 0001 300	
	○	各ケーブル		作動が重くなったら交換

形　状	型　式 LR103D	品　名	部品コード	備　考
	○	ピーク フィンガ（13.5/Z）	2675 0006 890	摩耗時または変形時交換
	○	[1] フォーク （ウエコミ）COMP	2694 6029 020	摩耗時交換
	○	[2]シャフト （フォーク/ウエコミ/Z）	9514 0000 040	
	○	[3] ウエコミカン シール	9514 0000 050	
	○	[4] クッション （アーム/PZ）	2694 6029 050	
	○	[5] ブッシュ （8×18×36）	9514 0000 060	
	○	[6] クッション	9020 0292 000	
	○	ローラクラッチ （FC-16）	2694 6028 960	
	○	[1] ガイド （ナエアンナイ/LH/PZ）	2694 6029 060	
	○	[2] ガイド （ナエアンナイ/RH/PZ）	2694 6029 070	
	○	ナエトリイタ	9020 7153 910	

10. 付表

形　状	型　式 LR103D	品　名	部品コード	使用個数 10条	備　考
	L型	ロータ (36) ロータ (72)	2694 6028 990 2694 6029 000	14 (W型 16) 26 (W型 28)	摩耗時 交　換

10.7 注文部品一覧表

No.	区分			形状	SET品名	部品コード	対象型式	参考情報資料
1	植付部	植付爪		24回取用	ブンリバリ(PG)	2694 6028 970	全	
2				20回取用	ヒロハバブンリバリ(PG)	2694 6028 980	全	
3				取付板	ブンリバリトリツケイタ(PG)	2694 6000 350	ブンリバリまたはヒロハバブンリバリとセットでご使用ください	
				24回取用	ピーク(フィンガ(13／G))	2694 6000 322	全	
				20回取用	ピーク(フィンガ(14／G))	2694 6000 392	全	
4		苗詰まり防止関係			フォーククリーナ	2694 6000 380	ブンリバリまたはヒロハバブンリバリ装着機	
5								
6		グリース			ウエコミカングリス(150G)ASSY	2694 6000 480	全	
7	補助車輪(後輪)	外付車輪	太リム車輪	φ870	ET-R100(ソト)870	31723 60310	B, H型以外	
8			太リムラグ車輪	φ900	ET-R100(ソト)900	31723 60320	B, H型以外 HJ型は標準装備	
9		内付車輪	太リム車輪	φ870	ET-R100(ウチ)870	31723 60340	B, H型以外 B型は標準装備	
10	サンバイザー				サンバイザー(JPZ80M)	36177 30150	J, P型以外	
11	除草剤散布機	粒剤			こまきちゃん(SCS-10PZ100M)	36177 30110	W型以外※	
12								
13								
14								
15								
16	育苗箱施用剤散布機				らくまきちゃん(RM10-ZM)		W型以外※	

※「こまきちゃん」と「らくまきちゃん」を共着の際、フロントウェイト（部品扱い）が必要になります。
共着部品は不要です。

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式 _____

機械番号(製造番号) _____

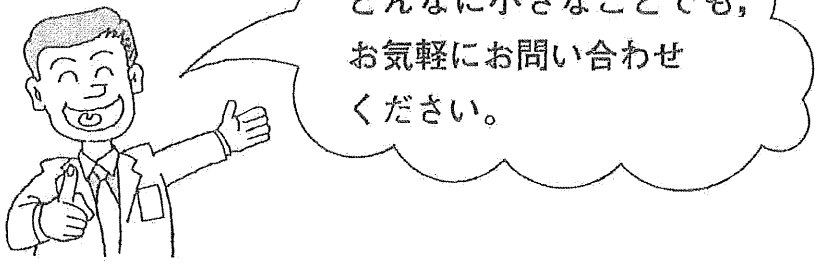
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先 _____

TEL　　(　　) _____